

334.7

M494 k

コミンテルンの

植民地・民族政策  
に関する基本資料

国立国会図書館



\*0025217000\*

0025217-000

334.7-M494 k

コミンテルンの植民地・民族政  
策に関する基本資料

満鉄調査部北方調査役・訳編

南満洲鉄道

1938

ADE



エト2J-74

極  
秘

コミンテルンの植  
民地・民族政策  
に関する基本資料

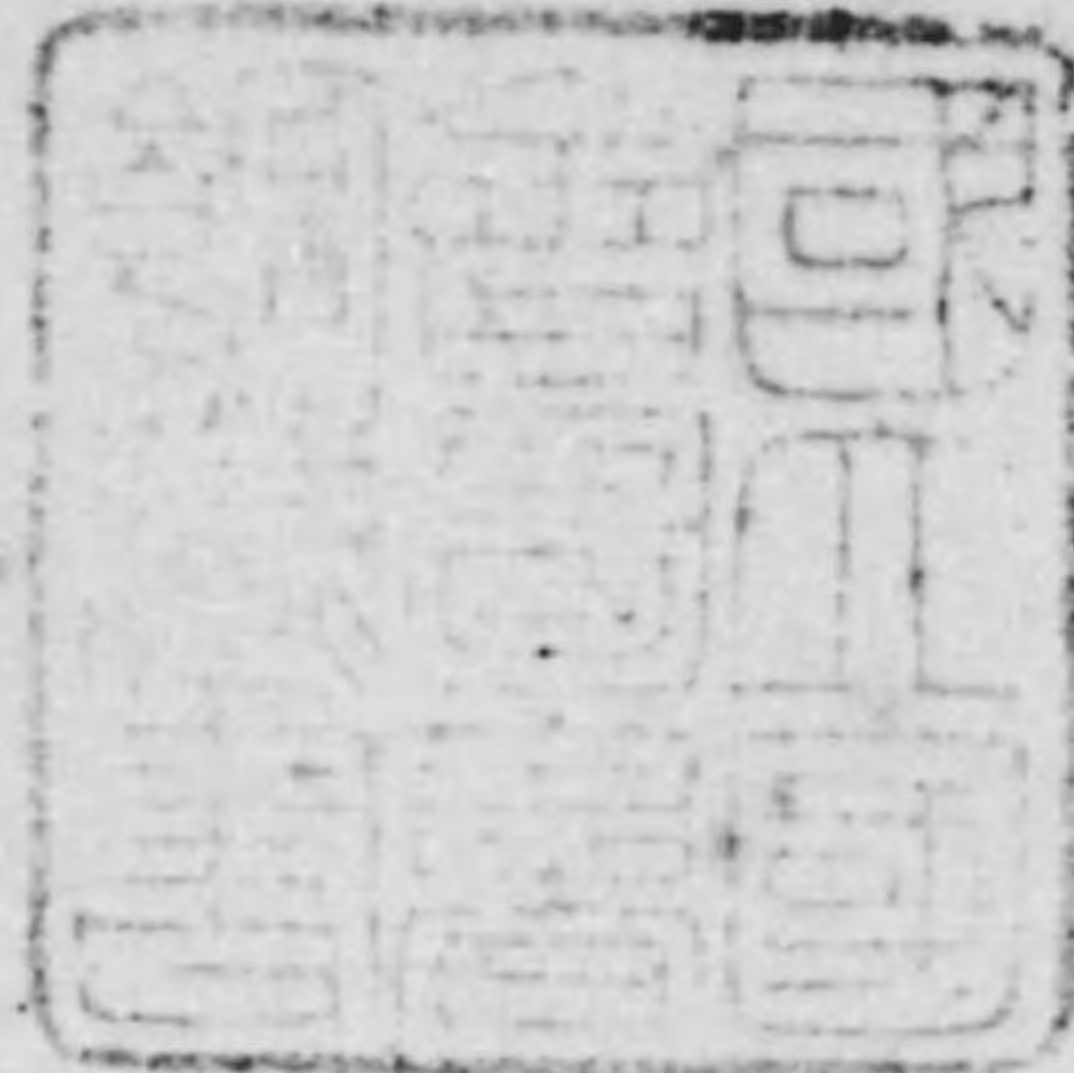
満  
鐵  
調  
査  
部

334.7  
M4948

ソ聯研究資料 第三十三號 (昭和十三年六月)



334.7  
M499k



446911

例言

- 一、本書は、コミンテルンの植民地・民族政策に関する綱領的文書を譯出したものである。原典としては、ソ聯の「世界經濟と世界政治研究所」發行、ペ・ミフ編輯「支那に適用されたる民族」植民地革命におけるコミンテルンの戦略と戦術（一九三四年）の第一部（原則的部分）に主として據り、傍らソ・獨版「第六回コミンテルン大會決議集」を参照した。
- 二、本書に収録された文獻は一九二二年から一九二八年にわたるものであるら、時間的には既に古くなつた點も多いが、原則的には、その後發表されたものもあるのを聞かないし、これらを以つて未だ生命を維持し、理論的據點とされてゐると見ていゝであらう。故に他の具體的資料と相俟つて現下の日支事變におけるコミンテルンの動向の推察に役立つことが出来れば幸ひである。
- 三、本書の第一番目の文獻たる「民族」植民地革命に関するコミンテルン綱領とは、コミンテルン綱領中から民族」植民地革命に関する部分だけ拔萃されたものである。
- 四、卷末に附録として一六三五年夏のコミンテルン第七回大會の反ファシズム決議を収録した。コミンテルンの當面の一般方針を知るに便なる文獻であり、これと本書収録文獻を併讀するときコミンテルンの現下の民族」植民地政策がよりはつきり寫し出されるのではないかと考へたからである。
- 五、擔當者 山内 正樹

昭和十三年五月

例言

滿鐵調査部北方調査役



コミンテルンの植  
民地・民族政策 に関する基本資料

目次

例言

一、民族と植民地革命に関するコミンテルン綱領(一九二八年)……………一

二、民族及び植民地問題に関するテーゼ……………一〇  
(レーニンの草案にかゝるテーゼ—一九二〇年、コミンテルン第二回大會採擇)

三、東洋問題に関する一般的テーゼ……………二〇  
(一九二二年、コミンテルン第四回大會採擇)

一、東洋に於ける革命運動の成長……………二〇

二、闘争條件……………二一

三、農業問題……………二三

四、東洋に於ける労働運動……………二四

五、東洋共産黨の一般的任務……………二五

六、反帝國主義統一戦線……………二七



七、太平洋沿岸プロレタリアートの任務……………二九

八、植民地に於ける本國黨の任務……………三〇

○ 植民地・半植民地諸國における革命運動について……………三一  
 (オ・ヴェ・クウシネンの報告によるテーゼ—一九二八年九月一日コミンテルン第六回大會採擇)

一、序……………三二

二、植民地經濟と帝國主義的植民政策の特徴……………三八

三、支那、印度及び類似植民地諸國における共產主義的戰略、戰術について……………四七

四、共產主義者の當面の任務……………六五

× 附 フアシズムの進出と労働階級の反フアシズム統一のための闘争における  
 コミンテルンの任務……………八四  
 (デイミトロフの報告に基づく決議—一九三五年八月二十日コミンテルン第七回大會採擇)

一、フアシズムと労働階級……………八四

二、反フアシズム労働階級統一戦線……………八八

三、労働組合運動の統一……………九三

四、反フアシスト運動の各部門における共產主義者の任務……………九四

五、植民地諸國における反帝國主義人民戦線……………九七

六、ソヴェート権力のために!……………九九

## コミンテルン植民地・民族政策 に関する基本資料

### 民族Ⅱ植民地革命に関するコミンテルン綱領

世界再分割のため資本主義列強間に行はれた帝國主義的闘争は最初の全世界的帝國主義戦争(一九一四—一九一八年)をひき起した。この戦争は世界帝國主義の全體制をゆるがし、その一般的危機の時代の發端となつた。

……全世界資本主義がひどくゆるがされ、階級闘争が激化したため、且又プロレタリアートの十月革命の直接の影響をうけて、ヨーロッパ大陸においても、植民地・半植民地國においても一聯の革命と革命的動亂とが發生した。即ち、一九一八年一月には—フィンランドの労働者革命、一九一八年八月には—日本の所謂「米騒動」、一九一八年の十一月には—半封建的君主制を打倒してオーストリアとドイツとの革命、一九一九年三月には—ハンガリーのプロレタリア革命と朝鮮での暴動、一九一九年四月には—バヴァリアのソヴェート権力、一九二〇年一月には—トルコのブルジョア民族革命、一九二〇年九月には—イタリアでの労働者の工場占領、一九二一年三月には—ドイツでの先進労働者の蜂起、一九二三年九月には—ボルガリアでの蜂起、一九二三年秋には—ドイツでの革命的危機、一九二四年十二月には—エストニアでの蜂起、一九二五年四月には—モロッコでの蜂起、八月には—シリヤでの蜂起、一九二六年五月には—英國のゼネスト、一九二七年七月にはウキン労働者の蜂起。これら一切の事實及び最後に、インドネシアでの蜂起とか、印度の大騷擾とか、全アジア大陸を震撼させた大支那革命とかは、一個の國際Ⅱ革命の鎖の環であり、深刻な資本主義の一般的危機の構



成部分である。この国際革命過程は、プロレタリアート獨裁のための直接的闘争を、民族解放戦争を、幾百萬の農民大衆の農民運動と不可分に結びついた植民地の反帝蜂起を内包する。かくして人類巨億の大衆は革命の流れにひき入れられた。全世界史はその發展の新段階へ、資本主義體制の永續的一般的危機の段階へ入つた。加ふるに世界經濟の單一性の故に革命は國際的性質をとり、世界經濟の個々の部分の發展が不均等なるため個々の國々の革命は非同時的性質を取つた。

……本國と植民地・半植民地國間の矛盾は増大してゐる。戦争の結果ヨーロッパ帝國主義がある程度弱まつたこと、植民地に資本主義が發達したこと、ソヴェート革命が影響を與へたこと、最主要海軍・植民地國——大英帝國內部に遠心的傾向があること(カナダ・オーストリア・南アフリカ)——これらの事實は植民地・半植民地における蜂起の勃發を容易ならしめた。支那幾億の民を運動に引きよせた支那大革命は、帝國主義の全體制の中の大きな罅である。印度幾億の勞働者農民の不斷の革命的騷擾は帝國主義の世界的城砦たる大英帝國の支配をくつがへさんとする。ラテン・アフリカ諸國におけるアンチ合衆國帝國主義の傾向の増大は、北米資本の擴張を阻害する力である。かくて若干の巨大な帝國主義「列強」の金融資本主義的寡頭政治に服従せる地上無数の住民を帝國主義との闘争にひきつける植民地における革命的過程は、同様に亦資本主義體制の深刻なる一般的危機の表現である。

プロレタリアートの國際革命は時を異にし、種類を異にする諸過程から成る。即ち、純プロレタリア革命、プロレタリア革命に轉化するブルジョア民主主義型の革命、民族解放戦争、植民地革命。只窮局においてのみ革命的過程はプロレタリアートの世界的獨裁に導く。

帝國主義時代に激化した資本主義の發展の不均等は、資本主義のタイプの多様性を、個々の國々における資本主義の諸種の成熟度を、革命過程の多様且つ特殊的條件を、つくりだした。これらの事情は、プロレタリアートが權力を握るに到る道

程とテンポとの多様性を、一聯の國々におけるプロレタリアート獨裁に導く一定の過渡的段階の必然性を、それから個々の國々における建設される社會主義の形態の多様性を、歴史的に全く不可避ならしめる。

個々の國々におけるプロレタリアート獨裁への移行の條件と道程との多様性は、圖式的に次の三つの基本的タイプに歸し得る。即ち高度資本主義の國々……中等水準の國々……植民地及び半植民地諸國(支那、印度等)及び従屬國(アルゼンチン・ブラチルその他)。これらの國々は、一定の萌芽的工業乃至屢々相當發展せる工業を有するが、多くの場合独自の社會主義建設にとつては不充分である。國內經濟のなかにも、その政治的上層建築のなかにも封建的「中世的關係、或は「アジア的生産様式」關係が支配的であり、最後に最も重要な工業、商業、銀行企業、基本的運輸機關、ラチフンデウム、農場等が外國帝國主義群の手中に集中してゐる。こゝで中心的意義を有するのは、一面では、封建主義、先資本主義的搾取形態との闘争及び徹底的に遂行される農民の土地革命、他面では、民族獨立のための外國帝國主義との闘争である。プロレタリアート獨裁への移行はこゝでは原則として一聯の準備段階を経てのみ、ブルジョア民主主義革命の社會主義革命への轉化の全時期の結果としてのみ可能であり、成功的社會主義建設は——多くの場合——プロレタリア獨裁諸國の側からの直接的支持を條件としてのみ可能である。

更にもつと後れた國々(例へばアフリカの若干の部分)、こゝでは雇傭勞働者は殆ど存在しないか或は全く存在しない、住民の大多數は種族的生存條件の下に住み、原始民族的形態の殘存物が保存され、民族的ブルジョアジーが殆ど全く居ない、外國帝國主義は先づ第一に土地を奪略する軍事的占領者の役割を演ずる、こゝでは民族解放のための闘争が中心的意義を有する。民族的蜂起とその勝利とはこゝでは、もしプロレタリア獨裁の國々の強力な助力が實際に與へられるならば、一般に資本主義の段階を通過することなき社會主義への發展に道を拓き得る。

それで、發達せる資本主義諸國家においてプロレタリアートによる權力獲得の任務が日程に上されてをり、世界的意義を



もつ要因たるソ連プロレタリア獨裁がすでに現存してゐる時期にあつては、世界資本主義の侵入の結果發生せる植民地・半植民地諸國における解放運動は、個々別々に見てこれらの國々の社會的關係が未成熟であるにも拘らず、プロレタリア獨裁と國際プロレタリア運動一般の助力と支持との下に、その社會主義的發展をもたらし得る。

最も重要な植民地・半植民地諸國における革命的闘争の特殊條件、プロレタリアートと農民との民主主義的獨裁のための闘争の繼續的時期の不可避性、この獨裁のプロレタリアート獨裁への轉化、最後に決定的意義ある民族的モメントは、これらの國々の共産黨に對し、プロレタリアート獨裁の一般的任務への準備的段階たる一聯の特殊任務を課す。これらの特殊任務中の最重要なるものとしてコミンテルンは次の任務をかゝげる。

植民地・半植民地  
の任務は、コミンテルン  
の任務を任務とする

- 一、外國帝國主義、封建諸侯及地主的官僚階層の權力の打倒
  - 二、ソヴェートの基礎の上にプロレタリアートと農民との民主主義的獨裁を樹立すること
  - 三、完全なる民族的獨立と國家統一
  - 四、國債の破棄
  - 五、帝國主義者に屬する大規模企業(工業、運輸、銀行その他)の國有化。
  - 六、地主、教會、寺領の土地の沒收。全土地の國有化
  - 七、八時間労働日の施行
  - 八、革命的勞農軍の組織
- プロレタリアートが指導者と覇權者との役割を演じてゐる植民地・半植民地においては、闘争がヨリ一層發展し深まるにつれて(ブルジョアジーの怠業、大規模工業の國有化に不可避的に轉化するところの、これらの層のブルジョアジーに屬する

企業の沒收)、徹底的ブルジョア民主主義的革命はプロレタリアートの革命に轉化するであらう。プロレタリアートの存在しない植民地では、帝國主義者の權力の打倒は、人民(農民)ソヴェートの權力の組織を、外國企業と土地との沒收且つ國家の手中への移讓を意味する。

反帝闘争の視角からするとき、労働者階級による權力獲得の視角からするとき、植民地革命と民族解放運動とは大きな役割を演ずる。植民地・半植民地は又過渡期において意義を有する、といふのは世界的、都市の役割を演ずる工業國に對して、これらは世界的農村の役割を演じ、社會主義的世界經濟の問題、工業と農業との正しい結合の問題は、大部分帝國主義の舊植民地に對する關係の問題であるから。それ故に植民地、勤勞大衆との友誼的闘争同盟は反帝闘争の覇權者であり、指導者たる世界工業、プロレタリアートの最重要任務の一つである。

かくの如く世界革命の歩みは、プロレタリアート獨裁のための闘争に本國労働者を動かす、同じく幾億の植民地労働者農民を外國帝國主義との闘争に動員する。ソヴェート共和國の形で以て社會主義の中心とその増大しゆく經濟的力が現存する下では、帝國主義から抜け出した植民地は經濟的に世界社會主義の工業的根據地と結合し、支配的體制としての資本主義のヨリ一層の發展の段階を避けつゝ社會主義建設の軌道に引き入れられ、急速に經濟的文化的進化的可能性を得る。プロレタリア獨裁の中心地の周圍に政治的に結集しつゝ、後れた舊植民地の農民ソヴェートとヨリ發展せるタイプの舊植民地の労働者農民のソヴェートは、益々成長しゆくソヴェート共和國の聯盟の一般的體制に加へられ、かくて結局世界プロレタリア獨裁體制に加へられる。

新たな生産様式としての社會主義的發展はその世界的規模を取る。

植民地諸國においては一般に被壓迫民族・種族の間にあつても、共產主義は労働運動において、一定の段階では或る積極的



役割を演じたが、新發展段階においては反動的勢力となつてゐる特殊な流派の影響とぶつつかる。

支那における三民主義は小ブルジョア的・ナロードニキ的「社會主義」のイデオロギーである。「三原則」(民族主義、民主主義(民権主義)、社會主義(民生主義))の教義において民族の概念は階級の概念を隠蔽し、社會主義は特殊の階級的擔當者——プロレタリアートによつて實現される種別的特殊の生産様式ではなく、漠然たる社會的幸福である。

帝國主義との闘争は國內の階級闘争の發展の展望と結びついてゐなかつた。それ故に三民主義は、支那革命の第一段階において巨大な積極的役割を演じたが、國內階級分化が進み支那革命の歩みが一層進んだ結果、革命發展のイデオロギー形態からその發展の桎梏と化した。三民主義の信奉者は、客觀的に反動的となつたこの主義のイデオロギー的特性を極力誇張しつゝ、公然の反革命勢力となつた國民黨の公認イデオロギーとなした。支那プロレタリアート、勤勞農民大衆のイデオロギー的成長は、従つて、國民黨の偽瞞に對する斷乎たる闘争と三民主義イデオロギーの殘滓の克服とを伴はざるを得ない。

宗教的表象を以て貫かれ、最も後れた經濟的に反動的な生活形態を理想としプロレタリア社會主義にではなく、これらの後れた形態への復歸のなかに救ひを求め、無抵抗と階級闘争の否定とを説教する印度のガンヂーゾムの如き流派は、革命發展の過程において公然の反動的勢力となる。ガンヂーゾムは益々、人民大衆の革命とは逆のイデオロギーとなりつゝある。ガンヂーゾムは共產主義の側からの斷乎たる闘争の對象とならなければならぬ。

アメリカにおける黒人小所有者と勞働者との嘗てのイデオロギーであり、今もなほ黒人大衆にある程度の影響力を有するガルヴィズムも、同様にまた現在これらの大衆の革命化の途中に横はる障害となつた。ガルヴィズムは、始めは黒人の完全な社會的平等權を主張したが、やがてアメリカ帝國主義に對する闘争の代りに「アフリカに歸れ!」のスローガンを掲げた獨特な黒人的「シオニズム」となつた。眞に民主主義的な特性は少しもなく、有りもしない「黒人王國」の貴族主義的屬性を弄ぶこの危険なイデオロギーは、斷乎たる排撃をうけなければならぬ。なぜならアメリカ帝國主義に對する黒人の大衆的解放

三民主義

カンチーゾム

ガルヴィズム

闘争を助成しないどころか、逆に、阻害するからだ。

これら一切の流派に對立するものはプロレタリア共產主義である。これは國際的革命的勞働階級の偉大なイデオロギーであつて、マルクス・エンゲルスの學說と完全に照應してプロレタリア獨裁のための理論的實踐的革命闘争を行ひ、しかもあらゆる形態のプロレタリア的大衆行動を適用するといふ點で、これら一切の流派及び特に社會民主主義と異つてゐる。

プロレタリアートの世界的闘争の視角からするときコミンテルンの最重要な戰略的任務は、植民地・半植民地及び從屬國における革命的闘争の任務である。この闘争は革命の旗の下に植民地勞働階級と農民との廣汎な大衆を獲得することを豫定する、そしてこれは壓迫民族のプロレタリアートと被壓迫民族の勤勞大衆との極めて緊密な協働なしには不可能である。

所謂「文明國」におけるプロレタリア獨裁の旗の下に反帝國主義の革命を組織しつゝ、コミンテルンは植民地・半植民地、從屬諸國(例へばラテン・アメリカ)での帝國主義的強力に反對の一切の運動を支持する。あらゆる種類のショウヴィニズムと大小の隸屬民族・種族に對する帝國主義的抑壓(黒人、「黄色人勞働」に對する態度、アンチ・セミチズム等)に反對の宣傳を行ひ、抑壓民族のブルジョアに對するこれらの隸屬民族・種族の闘争を支持する。特に精力的にコミンテルンは強國民族の中にあるショウヴィニズム、帝國主義ブルジョアによつても、その社會民主主義代理人——第二インタナショナルによつても説教されてゐるショウヴィニズムとの闘争を行ひ、たえず帝國主義的ブルジョアの實踐に、平等權を有する民族の友誼的關係を實現したソ聯邦の實踐を對置する。

帝國主義の國々においては共產黨は植民地解放と革命運動及び一般に被壓迫民族の運動に體系的助力を與へなければならぬ。かれらに最も積極的な援助力を與ふべきこの義務は先づ第一に、被壓迫民族が金融と經濟的乃至政治的關係において從屬してゐる國の勞働者に課せられる。共產黨の側からは植民地の分離權及びこの分離の宣傳、即ち、帝國主義國家からの植



民地の獨立の宣傳の公認、帝國主義からの武裝的擁護權(即ち蜂起と革命的戰爭との權利)の承認、あらゆる可能な手段によるこの防衛の唱導と積極的支持とが必要である。かゝる方針は一切の被壓迫民族に對しても共產黨にとつて義務的である。

植民地及び半植民地國自體において共產黨は、帝國主義諸國のプロレタリアートとの接近と同盟との思想を斷えず宣傳しつゝ外國帝國主義と極めて勇敢にして徹底的な闘争を行はなければならぬ。廣汎な農民大衆を地主の壓制打倒に向けつゝ、僧侶、傳導師その他の分子の反動的・中世的影響と闘ひつゝ、土地革命のスローガンを公然と提起し、宣傳し、實行しなければならぬ。

こゝで根本任務は労働者農民の獨自的組織化であり、(プロレタリアートの階級的共產黨、労働組合、農民組合、及び委員會、革命的情勢の下では——ソヴェートその他)、かれらを民族ブルジョアジーの影響下から脱せしむることである。民族ブルジョアジーとの一時的妥協は、かれらが労働者農民の革命的組織を阻害せず、眞の反帝闘争を行ふ限りでのみ許される。

自己の戰術的方針を決定するに當つては共產黨は、具體的な内外情勢を、階級勢力の相互關係を、ブルジョアジーの確固さと力との加減を、プロレタリアートの準備の程度を、中間層の立場等を計量しなければならぬ。これら一切の條件に依存して黨は自己のスローガンと自己の闘争方法を決定する、而してこの闘争の出来るだけ高い水準に出来るだけ廣汎な大衆を動員し組織する必要を出発点とする。形成せられた革命的情勢の下に一聯の過渡的スローガンを提起しつゝ、又具體的情勢によつて規定される一聯の部分的要求を提出しつゝ、黨はこれらの要求とスローガンを権力獲得とブルジョア資本主義社會打倒なる自己の革命的——目的に従へなければならぬ。労働階級の日常要求と日常的闘争からの隔離も、黨の活動がこれらの日常要求と日常闘争とに限られることも、許すべからざることである。黨の任務はこれらの日常的小要求から出發しつゝ、權力のための革命的闘争に向つて労働階級を導くことである。

……

植民地人民抑壓との闘争の分野において共產黨は、植民地における特殊情勢によつて規定される部分的要求、例へば一切の民族・種族の完全なる同權、外國人のための一切の特權の廢止、労働者農民組織の自由、労働日の短縮、兒童労働の禁止、債務奴隸的——高利貸的契約の廢止、小作料の輕減と廢止、租税の輕減、租税の不納等を、植民地自體において、提げなければならぬ。これら一切の部分的スローガンは共產黨の基本的要求に従はされなければならぬ。即ち、國の完全なる政治的獨立と帝國主義者の驅逐、労働者農民の政府、土地を全人民へ、八時間労働日等。帝國主義の國々において共產黨は、植民地自體においてこの闘争を支持しつゝ、帝國主義軍隊召還のためのカンパニアを行ひ、解放のために戦ひつゝある被抑壓國擁護の宣傳を陸海軍の内部に行ひ、軍隊武器輸送ボイコットのために大衆を動員し、これと關聯してストライキその他の大衆抗議形態等を組織しなければならぬ。



### 民族及び植民地問題に關するテーゼ

(ポトカラード) (一九二〇年、コミンテルン第二回大會において採擇、レーニンの草案にかゝる)

このコミンテルン大會はコミンテルンが活動的規律の本格的指導方針を確立し、レーニン自身の指導にあり、以後の指導方針、現段階の指導方針を指示し、二つの方向に、大合に於いては、これを以てその特質とする。ブルジョア民主主義は一般に人格の平等といふ外見の下に、所有者とプロレタリア、搾取者と被搾取者との形式的又は法律的平等を宣言し、かくして被搾取階級を欺瞞に陥れる。ブルジョアは人格の絶對的平等と稱するものゝ口實の下に、本來商品生産關係の反映たる平等の觀念を、階級絶滅に反對の闘争の道具に變化する。平等の要求の眞の意味は階級絶滅の要求の中にのみ存する。

- 一 ブルジョア民主主義は、その本來の性質上、民族平等を含めて一般に平等の問題を抽象的又は形式的に提起すること
- 二 ブルジョアジの桎梏を切斷せんがためのプロレタリアートの闘争の意識的表現者としての共産黨は、ブルジョア民主主義反對闘争及びブルジョア民主主義の虚偽・欺瞞の暴露といふその根本任務に従ひ、民族問題においても非抽象的・非形式的原則を掲ぐべきである。すなはち、第一に、歴史的具體的特に經濟的情勢を精密に考察すること、第二に、實際は支配階級の利害たる人民の利害一般といふ一般的概念から、被壓迫階級、勤勞者、被搾取者の利害を劃然と區別すること、第三に、極少數の富裕なる先進資本主義諸國による世界全住民の大多數の植民地的及び金融的隸屬といふ金融資本と帝國主義との段階に特有な事實を隠蔽してゐるところのブルジョア民主主義の欺瞞に抗して、壓迫し、搾取し、特權を有する民族と、壓迫され、隸屬させられ、平等の權利を持たぬ民族とを劃然と區別すること。
- 三 一九一四—一九一八年の帝國主義戦争は、全世界のすべての民族、すべての被壓迫階級の前に特にはつきりと、ブルジョア民主主義的言辭の虚偽を暴露した。「國民解放」、民族自決權の言葉にかくれて兩交戦國が行つたこの戦争は、一方で

はプレストリトフスクとバカレストの媾和、他方ではヴェルサイユとサンゼルマン媾和によつて、勝利せるブルジョアジが如何に無法に自分の經濟的利得に従つて國境を定めるかを明示した。ブルジョアジにとつては國境も取引の對象であつた。所謂國民の同盟(「國際聯盟」)は——この戦争の勝利者が相互に獲物を自己のものなりと認證するための保險契約に外ならない。「民族統一の復活」への、領土の割讓された部分の再合同への努力は、ブルジョアジの考へによれば、新たな戦争のために力を蒐めんとする敗北者の試みにすぎない。無理に引裂かれた民族の再合同はプロレタリアートの利益に一部合致する。だがプロレタリアートは自己の眞の民族的自由と統一とを、ブルジョアジに對する革命的闘争と勝利とを通じてのみ獲得し得る。國際聯盟と帝國主義聯合軍の戦後の全政策は、到る所で先進諸國のプロレタリアート並びに植民地、從屬國の全勤勞大衆の革命闘争を強めつゝ、資本主義下における民族の平和的共存及び平等の可能性に關する小ブルジョア民族的幻想の崩壞を促進しつゝ、一層明瞭に、峻烈に、この眞理を表示した。

四 以上述べた基本的命題から、民族及び植民地問題に關するコミンテルンの全政策の基礎には、地主とブルジョアジ打倒のための共同の革命闘争のためのすべての民族及びすべての國家のプロレタリアート及び勤勞大衆の結合が置かれなければならぬ。けだしかかる結合のみが資本主義に對する勝利を保證するのであり、この勝利なしには民族的抑壓と不平等との絶滅は不可能であるからだ。

五 世界政治情勢は現在プロレタリアート獨裁を日程に上せた、そして世界政治の一切の事件は不可避免的に一つの中心點の周圍に集中してゐる。即ち、一面では、萬國の先進勤勞者のソヴェート運動を、他面では、革命的プロレタリアートとの同盟と全世界帝國主義に對するソヴェート權力の勝利とを以ては自己救済の道がないことを苦い經驗を通じて信じつゝある植民地及び被壓迫民族の全民族解放運動を、不可避免的に自らの周圍に集めざるをえないソヴェート、ロシア共和國に對する、全世界ブルジョアジの闘争の周圍に集中してゐる。



六 従つて、今日は種々なる民族の勤勞者の接近を單に承認し又は宣揚するだけに止まつてはならない、進んで一切の民族及び植民地解放運動とソヴェート、ロシアとの最も緊密な同盟を實現する政策を行はなければならぬ。而してこの同盟の形態は、各國のプロレタリアートの中の共産主義運動の發展程度又は後進國での若くは遅れた民族の間でのブルジョア・民主主義的解放運動の發達程度に従つて、決定される。

七 聯邦は諸々の民族の勤勞者の完全な統一への過渡的形態である。聯邦は既に實際に、ロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國の他のソヴェート共和國（過去においてはハンガリー、フィンランド、ラトヴィア、現在においてはアゼルバイジャン、ウクライナ共和國）に對する關係においても、以前國家的存在をも、自治をも持たなかつた民族に對するロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國の内部關係においても（例へば一九一九年、一九二〇年に建設されたバシキール自治共和國、タタール自治共和國）、自己の合目的性を證明した。

八 この場合コミンテルンの任務は、ソヴェート体制とソヴェート運動との基礎の上に發生しつゝあるこれらの新たな聯邦を、ヨリ一層發展させること、並びに研究し實驗によつて檢討することに存する。聯邦を完全な統一への過渡的形態として認めつゝ、ヨリ一層緊密な聯邦的同盟の樹立に努めなければならぬ。その際考慮すべきことは、第一に、全世界の軍事的に比較にならぬ程ヨリ強力な帝國主義諸國家に包圍されたソヴェート共和國は、諸ソヴェート共和國のヨリ緊密な同盟なしには、その存在を維持し得ないこと、第二に、諸ソヴェート共和國の緊密な經濟的の必要。それなしには帝國主義によつて破壊された生産力の發展及び勤勞者の福祉の確保は實現不可能であること。第三に、凡ての國家のプロレタリアートにより一般的計畫に従つて規整される、統一的な全體としての全世界經濟の建設への傾向。かゝる傾向は既に資本主義の下において極めてはつきりと現はれてをり、社會主義の下において無條件にヨリ一層發展し完成する。

九 國內關係の領域ではコミンテルンの民族政策は、無意味な、形式的な、全く言葉の上だけの、實際には何らの義務を

も課さないところの、ブルジョア民主主義者がそこに止まるところの、民族同權の承認に満足することは出来ない。こゝにブルジョア民主主義者とは、公然とさう自稱するものたると、第二インタの社會主義者のやうに社會主義者の名稱にかくれてゐるものたるとを問はない。

共産黨の全宣傳・煽動において——議會の演壇からや、その外で「民主主義的」憲法の存するにも拘らず一切の資本主義國家の内で民族同權及び少數民族の權利保證が不斷に破壊されてゐることを常に暴露しなければならぬばかりでなく、なほ又、第一に、ソヴェート體制のみがブルジョアジーとの闘争において先づプロレタリアを次いで勤勞大衆を結合しつゝ、事實上民族同權を實現し得ることを常に説明すること、第二に、從屬的又は不平等民族（例へば、アイルランド、アメリカの黒人等）及び植民地の革命運動への凡ての共産黨の直接の援助が必要である。

この最後の、特に重要な條件がないならば、從屬民族及び植民地抑壓に對する闘争、並びに國家的分離權の承認は、第二インタの諸黨に我々が見る如く、欺瞞的看板に終つて了ふ。

十 單に言葉の上でだけインタナショナルイズムを承認すること、そしてこれを全宣傳、煽動、實踐的活動においては事實上小市民的民族主義と平和主義とに代へること、これは第二インタナショナルの諸黨の間ばかりでなく、このインタナショナルから分離した諸黨や、屢々今日共産黨と自稱せる諸黨の間にもさへも、最も普通に行はれてゐる現象である。この病患との、最も深く根ざした小ブルジョアの民族的偏見（例へば、人種的偏見、民族的迫害、ユダヤ人迫害の如きありとあらゆる形態において現れる）との闘争は、國家的獨裁（即ち、一國のみ存在し、全世界政治を規定する能力なき獨裁）から、國際的獨裁（即ち、全世界政治に決定的影響を與へ得る、少くとも若干の先進諸國のプロレタリアート獨裁）へのプロレタリアート獨裁の轉化の任務が緊急となればなる程、益々前面に押し出される。小ブルジョア民族主義が民族の同權の承認をインタナショナルイズムであるとなし、民族的エゴイズムには一指も觸れないでゐるに反して（かゝる承認が全く言葉の上だけの



ものであることは兎も角として)プロレタリア・インタナショナルイズムは、第一に、一國におけるプロレタリア闘争の利害を全世界的規模におけるプロレタリア闘争の利害に従属させることを要求し、第二に、ブルジョアジーに対する勝利を實現しつゝある民族に對して國際的資本打倒のために最大の民族的犠牲を拂ふ能力と準備とを要求する。

かくて、眞にプロレタリアートの前衛たる労働者黨を有するすでに完全に資本主義的な、國家においては、インタナショナルイズムの概念及び政策の日和見主義的、小市民的、平和主義的曲解との闘争が、第一の重要任務である。

**十一** 封建的又は家長制的、又は家長制的農民的關係の支配せる、ヨリ後れた國家と民族とに對しては、特に次の諸點を考慮しなければならない。

(イ) 凡ての共產黨はこれらの國々における革命的解放運動に事實上の援助を與へなければならない、而して援助の形態は、もし所與の國に共產黨が存在するならばその共產黨と共に、考究されなければならない、先づ第一に最も積極的な援助を與ふべき義務は、後れた民族が植民地的に又は金融的に従属してゐる國の労働者に、課せられる。

(ロ) 僧侶、宣教師その他の類似分子の反動的及び中世的影響との闘争を行はなければならない。

(ハ) 歐米帝國主義に對する解放闘争をトルコ及び日本帝國主義、貴族、大地主、僧侶等の力の強化と結合せんと試みつつある、汎イスラミズム、汎アジア運動等との闘争が必要である。

(ニ) 封建制度の一切の形態又は殘滓に對する後れた國々における農民運動を特に支持することが必要である。出来るならば、農民と一切の被搾取者とをソヴェートに結合しつゝ、かくて東洋及び植民地、一般に後れた國々における農民の革命運動と西歐共產主義プロレタリアートとの出来るだけ緊密な同盟を實現しつゝ、農民運動に最も革命的な性質を與へることに努めなければならない。

(ホ) 後れた國々における眞に共產主義的ではない革命的解放運動に、共產主義の外被をまとはせんとする企圖に對して

斷乎闘争しなければならぬ。コミンテルンは、單に名稱の上でばかりでなく共產主義的な未來のプロレタリア黨の分子を一切の後れた國々において蒐合し、かれらに自己の特殊任務、かれらの民族の内部でのブルジョア民主主義運動との闘争の任務の意識をたゞこむことを目的としてのみ、植民地及び後れた國々における革命運動を支持しなければならぬ。コミンテルンは植民地及び後れた國々のブルジョア民主主義と一時的協定又は同盟さへ結ばねばならぬが、かれと融合すべきではなく、その最も萌芽的な形態にある場合にさへもプロレタリア運動の獨立性を無條件に維持しなければならない。

(ヘ) 一切の、特に後れたる國々及び民族の最も廣汎な動勞大衆の間に、帝國主義諸國が被壓迫國の特權階級の助力を得て、政治的獨立國家形成の口實の下に、經濟的、金融的、軍事的に完全に自己に従属せる國家を建設しつゝ、體系的に實行してゐる欺瞞を、たえず説明し暴露しなければならない。聯合國の帝國主義と關係諸國家のブルジョアジーとの共同努力によつて行はれた、被壓迫民族の勞働階級を欺瞞した明瞭な實例は、シオニストのパレスチナの企圖、一般にシオニズムである。これはパレスチナにユダヤ人國家を形成するといふ口實の下に、勞働能力あるユダヤ人が極僅かしかるないパレスチナにおいてアラビヤ人を事實上英國の搾取の犠牲に供するものである。現代の國際情勢においてはソヴェート共和國同盟以外には從屬的弱小民族への救済の道はない。

**十二** 帝國主義國家にある植民地民族及び弱小民族の一世紀にわたる抑壓は、被抑壓國の動勞大衆の中に忿怒のみならずこれらの民族のプロレタリアートをも含めて、壓迫民族一般への不信を生んだ。社會シヨウヴィニストが「祖國擁護」によつて、植民地抑壓及び金融的隸屬國掠奪に對する「自國」ブルジョアジーの「權利」擁護を隠蔽した一九一四—一九一九年における、このプロレタリアートの公然の指導者の大多数が犯した社會主義への賤むべき裏切は、十分に理由のあるその不信を只強め得たのみであつた。不信及び民族的偏見は、先進諸國で帝國主義と資本主義とが根絶され、後れた國々の經濟生活の全基礎が根本的に改造されて始めて、消失するものであるから、これらの偏見の除去は極めて遅々たらざるを得ない。であ



るから、すべての國々の階級意識ある共産主義的プロレタリアートは極めて長く抑壓された國々と民族との中にある民族的感情の遺物に對して特に慎重な且つ特に注意深い態度を取る義務がある。又、上記の不信と偏見とのより急速な除去のために一定の讓歩をなす義務がある。全世界のすべての國々及び民族のプロレタリアート、次いで全勤勞大衆が自ら進んで同盟と統一と向はない限り、資本主義に對する勝利の事業は成功し得ない。

### 補助テーゼ

一 コミンテルン第二回大會の當面せる最重要問題の一つは、支那や印度のやうに資本主義的帝國主義がその上に君臨せる國々の革命運動に對するコミンテルンの關係を、より具體的に規定することである。世界革命の歴史はこの關係の正しい理解を必要とするやうな時期に入つた。歐洲大戰とその諸結果とは、例へば大戰の際における戦線への植民地軍隊と勞働者の大軍との派遣が示すやうに、世界資本主義の集中化の結果として、ヨーロッパ外の從屬國の人民大衆がヨーロッパのプロレタリア運動と不可分に結びついてゐることを示した。

二 ヨーロッパ資本主義が自己の基本的勢力を汲み出す所の主要な源泉の一つは、植民地領有及び隸屬國である。廣大な植民地市場と植民地搾取の廣汎な分野とを領有することなしには、ヨーロッパの資本主義諸國家はその生存を維持し得なかつたであらう。英國——帝國主義の要塞——はすでに百年以上も過剰生産に苦しんでゐる。その生産物の販賣のために又不斷に増大しゆく工業にとつての原料資源として必要な、廣大な植民地領有がなかつたならば、英國の資本主義體制は自己自體の重壓の下にとつての昔崩壊したであらう。アジア及びアフリカの數億の住民を隸屬することによつて英國帝國主義は今の所ブルジョアジーの權力下に英國プロレタリアートを従へることが出来てゐる。

三 植民地において獲得される超過利潤は、現代資本主義の資産の主要な源泉である、そして現代資本主義がこの超過利

潤の源泉を失はない限り、ヨーロッパ勞働階級が、資本主義體制を打倒することはたやすくはないであらう。植民地の人間勞働と資源との廣大にして強力な搾取の可能性のおかげで、ヨーロッパの資本主義諸國はその現在の破産から逃れる試みに必ずしも失敗してゐない。植民地大衆を搾取しつゝ、ヨーロッパ帝國主義は本國の勞働貴族に幾多の施物を供與することが出来る。ヨーロッパ帝國主義は、一面では、從屬國のより低い賃銀を支拂はされてゐる勞働者の生産物を利用しつゝ、本國のプロレタリアートの生活水準を低めることに努めてゐるのであるが、かれは、他面、以前通り植民地において自己の巨大な超過利潤を受け取れさへすれば、本國における超過利潤を犠牲にすることさへ敢て辭さない。

四 植民地統治權の絶滅は本國におけるプロレタリア革命と共にヨーロッパにおける資本主義體制をくつがへすであらう。従つて、コミンテルンは自己の活動範圍を擴大しなければならぬ。コミンテルンは政治的・經濟的に抑壓されてゐる國において帝國主義の打倒に努める革命的勢力と連絡を結ばなければならぬ。世界革命の最後の勝利を確保するためには、これら二つの勢力の共同行動が必要である。

五 コミンテルンは世界革命的プロレタリアートの集中的意志である。かれの使命は資本主義體制を打倒し共産主義を樹立するために萬國の勞働階級を組織するにある。第三インタナショナルは——世界のすべての國の革命勢力の統一を自己の任務となすべき戰鬥組織である。徹頭徹尾ブルジョアの教養に浸みこみ、一握りの政治屋に率ゐられる第二インタナショナルは植民地問題の全重要性を評價しなかつた。かれにとつてはヨーロッパ以外の世界は存在しなかつた。かれはヨーロッパにおける革命運動とヨーロッパ以外の國々における革命運動との提携の必要を理解し得なかつた。植民地における革命運動に精神的物質的俟助を與へる代りに、第二インタナの成員は帝國主義者に轉化した。

六 外國帝國主義は、自己の支配を東方民族に押付け、これらの民族が歐米の民族と等しく社會經濟的關係において發展することを妨げた。植民地の工業發展を阻害する帝國主義政策の結果、眞の意味のプロレタリアートはそこではやつと最近



になつて發生し得た。地方的家内工業は破壊されて、帝國主義國の集中化された工業に席をゆすつた。従つて住民の大多數は、國外輸出のために農業生産物と原料とを生産すべく土地に還ることを餘儀なくされた。他方、地主、資本家及び國家の手中への土地の急速な集中が起り、ために多數の土地なき農民が作り出された。住民の大多數は無學である。かゝる政策の結果として、各被壓迫民族の中に存する憤激は多數の教養ある中間層を通じてのみその表現を見出した。

外國の壓制は社會的勢力の自由な發展を阻害してゐる。だからその打倒は植民地における革命の第一歩でなければならぬ。植民地における外國の壓制打倒を助けることは土着ブルジョア階級の民族主義的努力を支持することを意味しない、只被壓迫植民地プロレタリアートに道を拓くことを意味するのみ。

七 從屬國には、日毎に相互が益々分離しつゝある二つの異つた運動が存在する。その中の一つは——ブルジョア體制の下での政治的獨立の綱領を掲げるブルジョア民主主義的民族主義的運動であり、他は——あらゆる形態の搾取から自己を解放するための無産農民と労働者との大衆的闘争である。第一の運動は第二のそれを指導せんと試み屢々一定の成功をもち得る、だがコミンテルンと關係諸黨とはかゝる指導に反對して闘ひ、植民地労働大衆の階級意識の發展を助長しなければならぬ。植民地における革命の第一歩としての外國資本主義の打倒のためには、ブルジョアの民族主義的分子の協力を利用することが有利である。

だが最も重要且つ必要な任務は、農民と労働者とを組織しかれらる革命とソヴェート共和國の樹立とに導く所の共産黨の建設である。かくして後れた國々における大衆は資本主義的發展を通じてではなく、先進資本主義諸國における階級意識あるプロレタリアートの指導の下に共産主義を達成することが出来るであらう。

八 植民地における解放運動の眞の力はもはやブルジョア民主主義的民族主義者の狭い圏内に止つてゐない。多くの植民地には既に、労働大衆と緊密な結合を保つてゐる組織された革命黨が存在する。植民地における革命運動とコミンテルンと

の相互關係はこれらの黨又はグループを通じて實現されなければならぬ、何となれば、これらは自己の國の労働階級の前衛であるから。現在これらの黨は餘り大きくはない、だがかれらは大衆の意志を反映してゐる、そして大衆はこれらの黨に從つて革命に進むであらう。諸々の帝國主義國の共産黨は植民地におけるプロレタリア黨と緊密な連絡を保つて活動し、これらの黨を通じて全體としての革命運動に絶大な精神的及び物質的援助を與へなければならぬ。

九 植民地における革命はその初期の段階においては共産主義的の革命ではないであらう、だがもしも指導權が當初から共産主義前衛の手中にあるならば、革命的大衆は革命的經驗を漸次獲得しつゝ、提起された目的達成への正しい道を進むであらう。勿論、東洋諸國の多くでは純共産主義の原則に基いて農業問題を解決せんとする試みは全く誤謬であらう。その初期の段階においては植民地革命は、土地の分配等の如き數多の小ブルジョアの改革項目を含む綱領に從つて行はなければならない。だがこのことから決して、革命の指導權がブルジョア民主主義者に與へられなければならないといふ結論は生れない。反對に、プロレタリア黨はソヴェートの觀念の精力的且つ體系的宣傳を行ひ、それが可能となり次第、農民及び労働者ソヴェートを建設しなければならぬ。これらのソヴェートは、先進資本主義諸國に建設されたソヴェート共和國と協力して全世界における資本主義體制の、來るべき最後の打倒のために、活動するであらう。



（モスクワ）  
コミンテルン第四回  
大會（一九二二年） 東洋問題に關する一般的テーゼ

一、東洋における革命運動の成長

東洋のコミンテルン大會は昔は  
最後大會であつたが、今は  
世界情勢の變化に伴ひ、  
9ヶ月前に重要な變化を  
大會であつた。

世界革命情勢の變化

コミンテルン第二回大會は、東洋におけるソヴェート建設の經驗と植民地における民族革命運動の成長とから出發して、

1. 資本主義の崩壊の開始 帝國主義とプロレタリア獨裁との間の長期闘争の時代における民族革命運動の嵐の如き成長、(二) 國內にお

2. 資本主義の崩壊の開始

爾來植民地・半植民地國における帝國主義的抑壓に對する闘争は、帝國主義の戦後の政治的・經濟的危機の深化に基づい

3. トロツキの革命論

て、著しく強まつた。その證明となるものは、(一) トルコ分割に關するセーヴル條約の廢棄とトルコの民族的・政治的獨立の完全な復活の可能

4. 一國の革命論

性、(二) 印度、メソポタミヤ、エジプト、モロッコ、支那及び朝鮮における民族革命運動の嵐の如き成長、(三) 國內にお

5. 革命の失敗

るブルジョア民主主義的分子の急速な成長をうながしつゝある日本帝國主義の救ひ難き内部的危機、及び獨立的階級闘

争への日本プロレタリアートの現時の移行、(四) 東洋の一切の國々における労働運動の勃興と其處——殆ど到る處——での

共産黨の形成。

上記の諸事實は植民地革命運動の社會的基礎に起つた變化を物語つてゐる。植民地の革命運動の社會的基礎に起つたこの

變化は反帝闘争の強化をもたらず。かくて反帝闘争の指導權は、帝國主義との妥協に進まんとする封建分子と民族ブルジョ

アジーの手中には今や全く残つてゐない。

一九一四——一九一八年の帝國主義戦争とそれに續いた資本主義の長期危機——特にヨーロッパのそれ——は、植民地に

對する強大國の經濟的後見を弱めた。

他面、世界資本主義の經濟的基礎と政治的勢力範圍とを狭めたこれらの諸事情は、植民地に原因する帝國主義的競争の激化を生んだ、かくして全帝國主義體制の均衡を破壊した（石油獲得競争、小アジアにおける英佛の衝突、太平洋における支配に緣由する日米の競争等）。

植民地に對する帝國主義的働らきかけが弱まつたといふことはまさに、各種帝國主義群間の益々強化しゆく競争と共に、大國の帝國主義的支配の垣を越えたる又越えつゝある植民地・半植民地國における土着資本主義的發展を容易ならしめた。今日まで大國の資本は、後進諸國の商業、工業、租税による搾取からの超過利潤取得の獨占權を固守しつゝ、後進諸國をして世界經濟循環から孤立化させることに努めた。植民地における民族主義的運動によつて提起せられる民族的經濟的獨立の要求は、これらの國々におけるブルジョアの發展の要求の表現である。植民地における土着生産力の漸進的運動はかくして世界帝國主義の利益と妥協し難い矛盾に陥る。けだし帝國主義の本質は、獨占的超過利潤捻出のため、世界經濟のあらゆる部分における生産力發展の差別的水準を利用するにあるから。

二、闘争條件

植民地の後進性は、封建的關係及び封建的家長制的關係から資本主義への移行の種々なる段階を反映せる反帝の民族主義的革命運動の不齊一さに現はれる。この不齊一さはこれらの運動のイデオロギーに一定の烙印を押しつける。植民地諸國における資本主義は、何よりも先づ商業資本をして支配せしめるところの、雜種的、中途半端的、中間的形態において封建的基礎から發生し發展するのであるから、封建的官僚主義的及び封建的農業的分子からのブルジョア・デモクラシーの分離は屢々複雑澁滞せる様式を以て發生する。このことは帝國主義的抑壓との成功的大衆的闘争によつて主要な障害をなす、何故ならば一切の後れた國々における土着資本主義は土着社會の封建的（一部分は半封建的、半ブルジョアの）上層をして自



己の支配の先導者たらしめるからである（支那における軍閥的縣長、督軍、印度における土着貴族と地租請負人——ゼミンダールとタルクダール、ペルシャにおける封建的官僚と貴族、エジプトにおける大地主——資本主義的構成の農場主等）。それ故に植民地・半植民地民衆の支配階級は、反帝國争が大衆の革命的運動に轉化するに應じて、この闘争を指導し得なくなり又欲しなくなる。例へば遊牧民や半遊牧民におけるが如く、封建的「家長制的組成が、土着貴族を人民大衆から完全にひきはなす程には未だ分解してゐない所でのみ、これら上層部の代表者は帝國主義的強力との闘争の積極的指導者として行動し得る（メソポタミヤ、モロッコ、蒙古）。

回教諸國においては初期の民族運動は、汎イスラミズムなる宗教的「政治的スローガン」のなかに自己のイデオロギーを見出してゐる。そしてこれは民族運動との闘争のために廣汎な人民大衆の迷信と無智とを利用する可能性を強大國の官吏と外交官とに與へる（汎イスラミズムと汎アラビズムとに對する英國帝國主義者の利用、英國の印度への回教主政治移植計畫、フランス帝國主義の「回教徒への同情」による馳引）。しかし民族解放運動の内的成長の擴大に應じて、汎イスラミズムの宗教的「政治的スローガン」は具體的政治的要求の前に影がうすくなつてゐる。最近トルコに起つた所の回教主政治からの世俗政權分離のための闘争がこれを確證する。

一切の民族革命運動に共通な、基本的任務は、民族統一の實現と國家的獨立達成の實現にある。この任務の現實的・徹底的解決は、あれこれの民族運動が廣汎な勤勞大衆を自己の軌道にひきつけ、反動的「封建的分子との一切の關聯を切斷し、これら大衆の社會的要求を自己の綱領のなかに體現することがどれだけ出来るかに、懸つてゐるのである。

國家的獨立への民族の意思の負擔者は種々なる歴史的條件の下では極めて多様であり得る事を明瞭に理解しつゝ、コミンテルンは反帝國主義の一切の民族「革命運動を支持する。しかし同時にコミンテルンは、極めて廣汎な大衆を積極的闘争にひきつけることを豫定せる徹底的革命的方針、及び自己の階級的支配のために帝國主義との一切の妥協的贊成者と無條件に分

離することのみが——被壓迫大衆を勝利に導き得る事を見逃さない。土着ブルジョアジーと封建的「反動的分子との結合は帝國主義者をして、封建的無政府制を、個々の指導者、氏族、種族の競争を、都市と農村間の對立を、民衆運動を瓦解するための身分及び民族的「宗教的分派の闘争を、廣く利用することを可能ならしめる（支那、ペルシャ、クルヂスタン、メソポタミヤ）。

### 三、農業問題

東洋の大多數の國々においては（印度、ペルシャ、エチプト、シヤム、メソポタミヤ）農業問題は強大國の支配の桎梏脱出のための闘争において第一義的の意義を有する。後れた民族の農民大衆を搾取し零落させつゝ、帝國主義はこれらの初歩的生存手段を奪ふ、同時に國の個々の重要地點にだけ分散してゐる貧弱な工業は、作り出される農村過剩人口を收容することが出来ない、かれらは同時に移民することも出来ない。土地に残存する農民「零細農は農奴となる。

戦前先進諸國では工業恐慌が社會的生産の規制者の役割を演じたとすれば、植民地においてはかやうな役割は飢饉によつて果されてゐる。資本を最小限に費消し利潤を最大限に受けとることに心からの利害を感じてゐる帝國主義は、後れた國々においては勞働力搾取の封建的「高利貸的形態を出来るだけ支持する、印度の如き國々では、帝國主義は土地に對する土着封建國家の獨占權を奪ひ、地租を強大國の資本とその番頭——ゼミンダールとタルクダールとへの年貢に變へる。他の國々では大土地所有の土着組織を通じて地代をひきだす、ペルシャ、モロッコ、エチプト等がそれである。封建的苛税と分壁からの土地の解放のための闘争はかくて帝國主義と封建的大土地所有とに對する民族解放戦の性質を取る（その例は一九二一年秋の印度における地主と英國人とに對するモブルの蜂起と一九二二年のシク教徒の蜂起）。大土地所有收奪を任務となす農業革命のみが、帝國主義との闘争に決定的意義を與ふべき使命を有する巨大な農民大衆を振ひ起したを得る。ブルジョア民族主義者が農業スローガンを怖れそれを極力ひつこめようとするのは（インド、ペルシャ、エジプト）土着ブルジョアジーが大封建



的及び封建的ブルジョア的土地所有と固く結合してをり、意識的・政治的にこの土地所有に依存してゐることを證明する。これらの動搖は、民族主義運動のブルジョア指導者の中途半端性を體系的に批判し暴露するために、一切の革命的分子によつて利用されなければならぬ。正にこの中途半端性こそは、印度における消極的抵抗（non-cooperation）戰術の破産がこれを示すやうに、勤勞大衆の組織と結束とを妨げてゐる。

東洋の後進諸國の革命運動は、もしそれが廣汎な農民大衆の行動に基礎を置かぬ場合には、成功し得ない。であるから一切の東洋諸國の革命的黨は、封建主義とその殘存物の完全な絶滅を要求すべき自己の農業綱領を明瞭に決定しなければならぬ。民族解放のための闘争に農民大衆を積極的にかきつけるためには、土地所有の基礎の急進的變革を宣言しなければならぬ、又同じくブルジョア民族黨をしてこの革命的農業綱領を出来るだけ深く把握せしめなければならぬ。

#### 四、東洋における勞働運動

東洋における若き勞働運動は——最近における土着資本主義の發展の產物である。今日までの所未だ勞働階級は、その基本的核を取つてみても、過渡的狀態に、小職場から大規模資本主義工場への途上にある。ブルジョア民族主義インテリゲンチヤが勞働階級の革命運動を反帝闘争にひきつける以上、このインテリの代表者が初期においては勞働階級の萌芽的組合組織とその活動とを指導する。初めはかれらはその活動においてブルジョア民主主義の「全民族的」利害の範圍を越えない（支那・印度における官僚制度と行政制度に對するストライキ）。屢々、コミンテルン第二回大會によつて指示された如く、ブルジョア民族主義の代表者は、ソヴェート・ロシアの道德的・政治的權威を利用しつゝ、又勞働者の階級の本能に調子を合はせつゝ、自己のブルジョア民主主義的志向を「社會主義的」及び「共產主義的」形態で纏ふ、かくて屢々自らは意識することなく、初期の萌芽的プロレタリア・グループを階級組織の直接の任務からひきはなす（トルコにおける汎トルコ主義を共產主義

的色彩に塗りかへた「エーシル・オールドウ」黨、「國民黨」の若干の代表者によつて説教された「國家社會主義」。

それにも拘らず、最近後進諸國における勞働階級の組合運動と政治運動とははるかに前進した。殆ど東洋の一切の國々における獨立的プロレタリア的階級の黨の形成は——顯著な事實である。尤もこれらの黨の壓倒的多數はまだ、家内工業的性質や、小グループ主義やその他多くの缺陷から離れるために大きな内部的活動を行はなければならぬ。コミンテルンが當初から東洋における勞働運動の潜在的重要性を評價した事實は、大きな意義ある事實である。何となれば共產主義の旗の下での全世界のプロレタリアの眞の國際的統一は、勞働運動の中に最も明瞭に表現されるから。第二及び第二半インタナショナルは今日まで後れた國のどこにおいても味方を持たなかつた、それはまさにかれらが歐米資本主義に對して「奉仕的役割」のみを演じてゐるからである。

#### 五、東洋共產黨の一般的任務

ブルジョア民族主義者はかれらの勝利達成にとつて勞働運動がどれだけ重要であるかの視角から勞働運動を眺めるに反して、國際プロレタリアートはその革命的將來の視角から東洋の若き勞働運動を評價する。資本主義の下では後進諸國は、強國の資本のために野蠻な搾取と抑壓との形で莫大な貢物を支拂ふことなしには、現代技術と文化との獲得に参加することが出来ない。先進諸國のプロレタリアートとの同盟が東洋の勞働者に命ぜられる所以は、帝國主義との共同闘争の利害によるのみならず、先進諸國の勝利せるプロレタリアートからのみ東洋の勞働者は自己の後れた生産力の發展のための誠實な助力を得るであらうからである。西歐プロレタリアートとの同盟はソヴェート共和國の國際的聯邦への道を切り拓く。ソヴェート構成は後れたる人民にとつては、全世界經濟において資本主義的生産分配様式を廢止すべき使命を有する共產主義の最高文化に向つて原始的生存條件から移行するに當つての最も健全な形態である。これは舊ロシア帝國の解放された植民地に



おけるソヴェート建設の経験によつて證明済みである。たゞソヴェート統治形態のみが農業と農民革命の徹底的完成を確保し得る。東洋の或部分における農業の特殊條件(人工灌溉)、それは過去においては封建的、家長制的基礎における集合的協働の獨特の組織によつて維持され、資本主義的掠奪によつて破壊されたのであるが、計畫的組織的に社會的要求に奉仕し得る如き型の國家組織を同じく要求する。特殊な氣象的・歴史的條件の故に、東洋における小生産者の協同組合は一般に過渡期において大きな役割を演ずべき運命をもつ。

植民地革命の客觀的諸任務は、その決定的勝利が世界帝國主義の支配と兩立し得ないといふことからだけでも既に、ブルジョア・デモクラシーの枠を出てゐる。初期において土着ブルジョアとブルジョア・インテリゲンチヤとが植民地革命運動の首腦者であるとすれば、この運動にプロレタリア・半プロレタリア農民大衆がひきつけられると共に、下層民衆の社會的要求が前面に出てくるに従ひ、大ブルジョア及びブルジョア地主要素の脱退が始まる、若い植民地プロレタリアートの前途には未だ相當の歴史的時代にわたる永續的闘争が、帝國主義的搾取及び、工業的文化的發展の全利得を獨占し廣汎な動勞大衆を以前の「先歴史的」状態に留めんと努める自國支配階級に對する闘争が、ひかへてゐる。

農民大衆に對する影響力獲得のための此闘争は、土着プロレタリアートをして政治的指導者の役割に向つて準備させざるをえない。自分自身並びに自己と隣接せる社會層に對してこの豫備活動をなしてのみ、土着プロレタリアートは、西歐におけるよりもつと形態的に後れた性質を有する後れた東洋におけるブルジョア民主主義に向つて闘ふことが出来るであらう。

植民地の共產主義者が、獨自の階級的利害を「擁護」といふ如き口實で以て、帝國主義的強力との闘争への参加を拒むことは、東洋におけるプロレタリア革命を不信用ならしめるにすぎないところの、最も惡質な日和見主義である。同じく亦「民族的結合」とかブルジョア民主主義者との「國內平和」とかを口實に労働階級の緊要な日常利害のための闘争から離れる試みも有害と認むべきである。植民地・半植民地國の共產黨・労働者黨の前には二重の任務が横はつてゐる。一面では、かれ

植民地・半植民地は、  
 1. 労働者農民大衆をその特有な階級的利害のための闘争に組織し、その際民族的ブルジョア民主主義陣營に存する一切の矛盾を利用する。社會的要求を提起しつゝ、かれらはかくて、ブルジョア自由主義的要求においては解決し得ない革命的エネルギーを激發し、發展させる。植民地・半植民地の労働階級は、強大國の帝國主義的抑壓との闘争の擴大と深化とのみが、かれらをして革命的指導者の役割を演じさせ得ることを、知らなければならぬ。そして、反對に労働階級及び半プロレタリア層の經濟的・政治的組織と政治的教育とのみが、帝國主義との闘争の革命的振幅を擴大させ得る。

2. 未だ多かれ少なかれ萌芽状態にある東洋の植民地・半植民地の共產黨は、かれらを大衆に近づかせる一切の運動に参加しなければならぬ。だが共產黨はこれらの萌芽状態にある労働組合組織をして改良主義的傾向からひきはなし大衆的闘争組織に轉ずるために、労働組合内部に存する家長制的職場的偏見とブルジョア的影響とに對し精力的闘争を同じく行はなければならぬ。かれらは、多數の男女農業労働者と男女手工業徒弟をかれらの日常利害擁護に基づいて組織するために全力を盡さなければならぬ。

### 六、反帝國主義統一戰線

西歐では、力の組織的蓄積と關聯せる過渡期的情勢にあつて、統一労働戦線のスローガンが提起されたとすれば、植民地東洋では現在統一反帝戦線のスローガンを提起することが必要である。このことが合目的であるといふのは、一切の革命的分子の動員を要求する世界帝國主義との永續長期の闘争の展望によるのである。かゝる動員は、土着支配階級が人民大衆の基本的利害に逆行するが如き、外國資本との妥協に傾いてゐる以上、益々必要である。西歐において統一労働戦線のスローガンが、プロレタリアートの利益に對する社會民主主義の裏切の暴露を助長したし又助長しつゝあるのと同様に、統一反



帝戦線のスローガンは、ブルジョア民族主義の個々のグループの動搖躊躇を暴露するに役立つであらう。このスローガンは同じく亦勤勞大衆を反帝のみならず、一切の封建的殘存物に反對の戦士の先頭部隊にひきいれつゝ、かれらの革命的意志の發展を助け階級的自己意識の鞏化を助けるであらう。

植民地・半植民地諸國の勞働運動は一般的反帝戦線において先づ獨立的革命的要因の地位を獲得しなければならぬ。勞働運動がこの獨立的意義を承認され、完全な政治的獨立を保存してのみ、ブルジョア民主主義との一時的協定が許されるし且つ必要となる。プロレタリアートは現在存する力の相互關係が自己のソヴェート綱領の實現をして當面の任務となすことを許さない限り、獨立的民主共和國、一初の封建的權利と特權の廢止、婦人無權利の廢止等の如き、部分的要求を支持し提起する。同時にプロレタリアートは農民・半プロレタリア大衆と勞働運動との政治的提携を助長する如きスローガンを提起せんと努める。廣汎な勤勞大衆に向つて國際プロレタリアート及びソヴェート共和國と同盟することの必要を説明することは、統一反帝戦線戦術の最重要任務の一つである。植民地革命は、先進諸國におけるプロレタリア革命と結んでのみ勝利をえ、自己の所得を固守し得る。

半植民地(支那、ベルシャ)又は帝國主義者相互間の競争のおかげで國家的獨立を獲得した國々(トルコ)におけるブルジョア民族主義者と敵對的帝國主義諸國の一又は數國との取引の危険性は、——植民地におけるよりもはるかに大である。一切のかゝる取引は、國を世界帝國主義に奉仕する緩衝的半植民地的國家たる以前の地位に止めつゝ、形式的獨立の見せかけの下に土着支配階級と帝國主義との間に非常に不均等に權力を分割することを意味する。

帝國主義との革命的解放闘争において息抜を得るために部分的・一時的な妥協が許されるし又必要であることを認めつゝも、勞働階級は、土着支配階級が自己の階級的特權を保存するために帝國主義との間に公然又は隱然と權力を分割せんと試みることに對して、斷乎非妥協的に戦はなければならぬ。プロレタリア・ソヴェート共和國との堅い同盟の要求は統一反帝

戦線の旗幟である。これと同時に、政治的・社會的に最も反動的な分子の支柱を國內から奪ひ階級的利害のための闘争に勤勞者を組織する自由を確保するために、政治制度の最大限の民主化を獲得すべく斷乎たる闘争を行はなければならぬ(民主共和國の要求、農業改革、徴税の改良、廣汎な自治の原則に立つ行政機關の組織、勞働立法、兒童勞働、母性兒童の保護等)。獨立トルコの領土においてさへも勞働階級は團結の自由を有してゐない。このことはプロレタリアートに對するブルジョア民族主義者の態度の特徵的指標たり得る。

### 七、太平洋沿岸プロレタリアートの任務

反帝戦線の組織が必要なる所以は帝國主義的競争の不斷の増大にもよる。この競争は今や、太平洋を舞臺とするであらう新たな世界大戰がもしも國際革命がそれを豫防しない限り、不可避である程尖鋭な形態を取るに到つた。

ワシントン會議はこの脅威を回避せんとする試みであつた、だが事實はそれは帝國主義の矛盾を深化し激化した。支那における馮玉祥と張作霖との最近の闘争はワシントンにおいて自己の利害を調和せんとする日本帝國主義と英米帝國主義との政策が失敗したことの直接の歸結である。世界を脅威する新戦争は、日本、アメリカ、英國のみならず、他の資本主義諸國(フランス、オランダその他)をもひき入れるであらう、そして一九一四——一九一八年の戦争よりもずつと破壊的となりさうである。太平洋沿岸の植民地・半植民地諸國の共產黨の任務は——迫り来る危険を大衆に説明しつゝ、かれらを民族解放のための積極的闘争に呼びかけつゝ、一切の被抑壓、被搾取大衆の支柱としてソヴェート・ロシアに據點を置くことを主張しつゝ、精力的な宣傳を行ふにある。

帝國主義諸國——アメリカ、日本、英國、オーストリア、カナダの共產黨は——來らんとする危険の故に、單に反戦宣傳に限ることなく、これらの國々の勞働運動を解體させ、民族間並びに人種間の對立の資本家による利用を強化しつゝある諸



要因を除去すべく全力を盡さなければならぬ。

これらの要因とは移民問題と低廉なる黄色人労働の問題である。

請負制度は今日にいたるまで、支那、印度から労働者を送られてゐる太平洋南部の砂糖農場への黄色労働者の基本的な雇傭方法である。この事實は帝國主義諸國の労働者をしてアメリカにおいても、オーストラリアにおいても移民及び黄色人労働者反対法の施行を要求せしめた。これらの禁止法は有色労働者と白人労働者との間の對立を深め、労働運動の統一を分散させ、弱める。

アメリカ、カナダ、オーストラリアの共産黨は、移民禁止法反對の精力的カンパニヤを行ひ、これらの國々のプロレタリア大衆に、かゝる法律は、人種的憎悪を激發するもの、結局自縄自縛させるものなることを教へなければならぬ。

他面、資本家は低廉な有色労働を自由に輸入し、以て白人労働者の賃金を下げんとする目的を以て禁止法を拒否してゐる。攻勢に出でんとする資本家のこの意圖は、——移民労働者は白人労働者の現存の労働組合に加入しなければならぬ——といふ一つの方法によつてのみうまく反撃され得る。同時に黄色人労働の賃金を白人労働者の賃金の水準にまで高める要求が提出されなければならぬ。共産黨の側からのかゝる方策は、資本家の意圖を暴露しつゝ、同時にはつきりと有色労働者に國際プロレタリアートは人種的偏見を、持たぬことを示すであらう。

上記の諸方策の實行のために太平洋諸國の革命的プロレタリアートの代表者は、正しい戰術を作成し太平洋沿岸の全人種のプロレタリアートを眞に結合するための適當な組織的形態を見出すために太平洋會議に出席しなければならぬ。

## 八、植民地における本國黨の任務

國際プロレタリア革命の事業にとつて植民地革命運動は重要な意義を有するのであるから、何よりも先づ帝國主義強國

の共産黨の植民地における活動を強化する必要がある。

フランス帝國主義は、反革命の戰鬪的豫備隊として自國の植民地奴隸を利用することによつて、フランス及びヨーロッパにおけるプロレタリア革命闘争を鎮壓することに期待をかけてゐる。

英米帝國主義は、植民地搾取の結果獲得される超過利潤の一定の分前を約束することによつて労働貴族を味方にひきつけつゝ、益々労働運動を分裂させんとし続けてゐる。

植民地を有する國々の各共産黨は、植民地の労働運動・革命運動への體系的な意識的、物質的援助の組織といふ任務を掲げなければならぬ。植民地における若干の範疇の高級ヨーロッパ労働者の似而非社會主義的植民者的傾向との斷乎頑強な闘争が必要である。植民地におけるヨーロッパの労働者＝共産主義者は、具體的經濟的要求（ヨーロッパ労働者の賃銀水準への土着労働賃銀の値上、労働保護、保險等）によつて土着プロレタリアの信頼を獲得しつゝ、かれらを自己の周りに組織することに努めなければならぬ。植民地において孤立的なヨーロッパ人の共産主義的組織を作ることとは、隠れた形態の植民者主義であつて帝國主義者の利益を助ける。民族的微標に従つて共産主義組織をうちたてんとすることは全く、プロレタリア國際主義の諸原則に矛盾するであらう。コミンテルンの一切の黨は、後進諸國における帝國主義的支配との闘争が極めて重要なことを、廣汎な勤勞大衆に斷えず説明しなければならぬ。強國で活動しつゝある共産黨は、上記の諸目的のために恒常的植民地委員會を中央委員會の中から作り出さなければならぬ。東洋の共産黨へのコミンテルンの側からの援助は、各自國語による定期的出版物と機關紙の印刷事業に先づ表はれなければならぬ。植民地におけるヨーロッパ労働者組織の間並びに駐屯軍の間での活動に特別の注意が拂はれなければならぬ。強國の共産黨は、自國の帝國主義諸黨及びブルジョア的妥協黨の強奪的植民地政策暴露のために如何なる機會をも見失つてはならない。







の蜂起(賈龍、葉挺の蜂起、湖南、湖北、廣東、江蘇における農民蜂起)において、労働階級と農民とは、帝國主義者、ブルジョアジー、地主の手中から権力をもぎとり、かくて革命の敗北を防止せんと試みた。だがこれは成功しなかつた。この革命の波の最後の強力な襲來は、ソヴェートのスローガンの下に農業革命を國民黨の打倒及びプロレタリアート、農民の獨裁樹立に結びつけんと試みた英雄的廣東プロレタリアートの蜂起であつた。

三 印度においては土着工業の發展を阻止しつゝあつた英國帝國主義の政策は、印度ブルジョアジーの非常な不滿を喚び起した。宗教的門派と族籍とへの以前の分散性に代り、且つ、一九一六年の印度國民會議——印度ブルジョアジーの機關と同教同盟との結合にあらはれた印度ブルジョアジーの階級的確立は、英國帝國主義を國內の統一民族戦線に直面させた。大戦時の革命運動に對する恐怖は英國帝國主義を驅つて、土着ブルジョアジーへの讓歩を餘儀なくせしめた。これらの讓歩とは、經濟の領域では輸入商品への關稅を引上げ、政治の領域では一九一九年に實施された貧弱な議會改良であつた。しかし帝國主義戦争の破滅的結果(一九一八年の飢饉と傳染病)、廣汎な勤勞住民層の地位の破滅的惡化、ロシア十月革命と種々なる植民地國での一聯の蜂起(例へば獨立のためのトルコ人民の闘争)は、印度民衆の中に強力な動搖を喚起した、これは英國帝國主義に對する一聯の革命的行動となつて流れ出た。印度におけるこの最初の大なる反帝運動は(一九一九——一九二二年)、民族革命の事業への印度ブルジョアジーの裏切を以て終つた、その主要原因は農民蜂起の高まりゆく波、同じく土着企業家に對する労働者のストライキに對する恐怖であつた。民族革命運動の壊滅とブルジョア民族主義の漸次的凋落は、英國帝國主義をして印度における工業發展を阻害する政策に再び歸ることを許した。印度における英國帝國主義の最近の方策は、英國の植民地獨占と印度の獨立的經濟的發展への傾向との間の客觀的矛盾が毎年々々激化し、新たな深刻な革命的危機に導きつゝあることを示す。

英國の支配への眞の脅威は、ブルジョアジーの陣營からではなく、大規模なストライキ形態において展開しつゝある印度労働者の成長しゆく大衆運動の側から出て来る。同時に農村における恐慌の激化は農業革命の成熟を證明する。これらの現象は印度における全政治情勢の根本的變化を齎らす。

四 インドネシアにおいては、オランダ帝國主義は、これらの植民地への外國商品と外國資本との輸入の可能性を、より強力な國家(アメリカ及び英國帝國主義)に益々多く與へることを、餘儀なくされた。かくてインドネシアにおけるオランダ帝國主義自體が事實上益々從屬的役割、いはゞ、憲兵と死刑執行人の機能を同時に遂行せねばならぬ所の、ブローカーの役割を演ずることを益々餘儀なくされた。一九二六年十一月ジャヴァに起つた蜂起への直接の動機は、廣汎な住民大衆の地位の惡化を喚び起した經濟恐慌であり、又民族革命運動に對する政府の激しい壓迫であつた。蜂起は大部分共產主義者の指導下に行はれた。政府は蜂起を血の中に溺らし、共產黨を破壊し、プロレタリアート・農民の數千の最良の闘士を殺し獄中に閉じこめることが出来た。その後政府が、廣汎な人民大衆の憎惡を和らげこれらの大衆の「鎮撫」工作への民族改良主義的指導者の支持を買ひとるために、上演したちつぽけな改良は、しかし、人民の勤勞層の地位を改善しなかつた。國內の繼續的な經濟恐慌、特に砂糖及びゴム工業のそれ、労働條件改悪のための資本の攻勢、増大しゆく失業、これらは支配的帝國主義に對する勞農大衆の不可避的な新たな進出のための客觀的前提をつくり出してゐる。

五 北アフリカでは一九二五年にフランス及びスペイン帝國主義に對するリフ・カビル族の一連の蜂起が始つた。それはフランス帝國主義に對する「委任統治領」シリアのドルーザ族の蜂起として繼續した。モロッコでは帝國主義者は長い戦争のあとでやつとこの蜂起を片付けることが出来た。これらの國々への外國資本の強力な侵入はすでに新たな社會的勢力を生ぜしめてゐる。都市プロレタリアートの發生と成長とは、始めパレスチナ、シリア、チュニス、アルジールに展がつた大衆的ストライキの波の中にあはられてゐる。次第に、非常に遅々としてではあるが、これらの國の農民も闘争にひつぱりこまれた。



六 ラテン・アメリカの國々における北米帝國主義の増大しゆく經濟的・軍事的膨脹は、この大陸を全帝國主義的植民地體制の矛盾の最も重要な結び目の一つとしてゐる。英國の勢力は、戦前はこれらの國々で決定的であり、その中の多くの國々を半植民地の状態にひき下げたのであつたが、戦後それは合衆國への益々緊密な從屬に代つた。莫大な資本輸出によつて北米帝國主義は、これらの國々の經濟における重要部門を獲得し、それらの政府を自己の金融統制下に置き、同時にこれらの國を相互にいがみ合はせてゐる。アメリカ帝國主義のこの侵略政策は、武装干渉に移行する公然の暴力の性質を益々多く取りつゝある（ニカラグア）。ラテン・アメリカに始つたところの反米帝國主義民族解放闘争は大部分小ブルジョアジーの指導下にある。住民の極小數部分であり（アルゼンチン、ブラジル、チリを除く）、一方では、大土地所有者と、他方では、アメリカ資本と結合してゐる民族ブルジョアジーは、反革命の陣營にある。

地主と教會とに對する土地獲得のための農民の革命的闘争を以て始つたところのメキシコ革命は同時に著しく反英米帝國主義の大衆闘争の性質を取つた。そして大土地所有者と北米帝國主義への讓歩によつて自らの地位を保たんとするプチ・ブル政府の創立を齎らした。エクアドルにおける、一九二五年の軍事的政變及び獨裁的軍事政府を以て終つたところの、海岸地方の地主の政府に對する及びグアヤコールの銀行家、商業ブルジョアジーの政府に對する、農民蜂起、労働者ストライキ等。チリにおけるソ聯の軍事的政變、北米帝國主義に對するニカラグアにおけるパルチザン戦争、南ブラジルにおける一聯の蜂起、アルゼンチンのパタゴニアの農業労働者の蜂起、ボリヴィア、ペルー、エクワドル、コロンビアにおける印度人の蜂起、ヴェネズエラ及びコロンビアにおける反亂、自生的ゼネスト、大衆的デモ、キューバにおける又全中央アメリカ、コロンビア等における大衆的反帝運動——最近年に起つたすべてこれらの事件は、革命過程の擴大深化を、又特に世界帝國主義に對するラテン・アメリカ諸國の益々増大しゆく憤激を證明する。

七 多くの場合帝國主義は今日まで植民地諸國の革命運動を血の中に溺らすことに成功した。だがこれらの運動を發生

せしめた一切の基本問題は、未解決のまゝだ。世界帝國主義の植民政策と植民地人民の獨立的發展との間の客觀的矛盾は、支那においても、印度においても、その他の植民地・半植民地諸國においても絶滅されてゐない。逆に、それは益々激化しつゝある、それは植民地における勤勞大衆の勝利的革命闘争によつてのみ克服され得る。この矛盾が克服されぬ限り、それは各植民地・半植民地において革命の最も強い客觀的要因の一つとして作用するであらう。同時に帝國主義列強の植民政策は、これらの列強間の對立と戦争との最も強力な激發者として作用する。この對立は益々激化し、且つ何處よりも先づ半植民地においては、帝國主義者のプロック形成が頻繁に行はれるにも拘らず、多かれ少なかれ著しい役割を演ずる。だが植民地における革命運動の發展にとつて最大の意義を有するものは、一方では、帝國主義世界と、他方ではソ聯邦及び資本主義諸國の革命的労働運動との間の矛盾である。

八 一方では、社會主義的世界革命（ソ聯邦と資本主義諸國における革命的労働運動）、他方では、帝國主義勢力の闘争戦線の形成は、世界歴史の現下の時期においては、基本的、決定的意義を有する。帝國主義的奴隸制に對する植民地勤勞大衆は、社會主義的世界革命の強力な援軍である。植民地諸國は現在世界帝國主義にとつてその戦線の最も危険な部分である。植民地・半植民地の革命的解放運動は、苦い經驗を経て、革命的プロレタリアートとの同盟なしには、世界帝國主義に對する世界プロレタリア革命の勝利なしには救済の道なきことを信じて、益々ソ聯邦の旗の周圍に結集しつゝある。ソ聯邦のプロレタリアートと、コミンテルンに率ゐらるゝ資本主義諸國の労働運動とは、解放闘争をなしつゝある一切の植民地その他の隷屬民族の解放闘争を支持してをり、これからも益々精力的に事實上支持するであらう。かれらは帝國主義の桎梏からの最後の解放のための闘争に立てる植民地民衆の唯一の有力な支柱である。のみならず、ソ聯邦及び帝國主義諸國の革命的プロレタリアートとの問題は、支那、印度、その他の一切の植民地・半植民地諸國の勤勞人民大衆のために、資本主義體制の支配の段階、又は資本主義關係一般の發展をすら避けつゝ、獨立の、自由な經濟的、文化的發展の可能性をうちたてる。



かくて植民地人民發展の全展望は、帝國主義、戦争及び革命の時代によつて、その中でプロレタリア獨裁が生れる時代によつて、新たな枠に移される。現代世界經濟全體の分析からは、決して資本主義的繁榮の新たな長い時期への展望は生じな  
 くて、却つて、自己の進歩的歴史的作用をすでに果し、もはやより以上の發展の障害となり、すでに解體過程にあり、す  
 でにプロレタリア獨裁に席を譲りつゝあり、人類を次から次の破綻に導きつゝある資本主義の崩壞の不可避性が生るのであ  
 るから、——後れた植民地の非資本主義的發展の道の客觀的可能性、進んだ植民地ではブルジョア民主主義革命が他の國々  
 の勝利的プロレタリア獨裁の援助を得てプロレタリア社會主義革命に轉化する可能性が存在するわけである。有利な客觀的  
 狀勢の下ではこの可能性は現實性に轉化する、しかも現實的發展過程は、競争によつて而も只競争によつてのみ規定される。  
 だからこの道程の理論的・實踐的擁護とこの道程のための自己犠牲的競争は——全共產主義者の義務である、この展望に關  
 聯して共產主義者の前にはツヴェイトに基いての革命的權力の問題が生ずる。

かくて植民地及び半植民地の革命運動の一切の根本問題は、資本主義體制と社會主義體制間の偉大なる劃時代的競争現在  
 は世界的規模において帝國主義によりソ聯邦に對して行はれてをり、各國資本主義國内部では——ブルジョアの階級支配と  
 共產運動との間に行はれてゐる競争と直接關聯してゐる。

この競争においては萬國の革命的プロレタリアートと植民地勤勞大衆との協働は、帝國主義に對する勝利の最も確固たる  
 保證である。この競争においては二つの帝國主義國家間の各軍事的衝突は、帝國主義者の反ソ戦争と同様に、植民地におい  
 ては大衆を動員しかれらを反帝、民族解放、勞働者農民の勝利のための決定的競争にひきつけるために利用されなければな  
 らぬ。

## 二、植民地經濟と帝國主義的植民政策の特徴

九 植民地の最新の歴史は、その最も初期の形態から始めてその最終の段階——帝國主義を以て終るところの、資本主義  
 的世界經濟の發展史の有機的構成部分として觀察されてのみ理解され得る。

資本主義が、搾取と利潤追求とに基ける自己の世界經濟の範圍内に、廣大な植民地領域を益々強くひっぱりこむ度合に應  
 じて、植民地・半植民地諸國の經濟的政治歴史には、鏡に物の寫るが如く、資本主義的生産様式とブルジョア社會制度との  
 所謂(文明の先驅者的)、文化的使命の一切の特徴が寫される。植民地・半植民地の經濟的政治的歴史は、特に無慈悲な眞實  
 性を以て、「資本の原始的蓄積」の一切の方法と實踐とを表示する。植民地掠奪と懲罰遠征とを伴ひ、亞片戦争と海賊的襲撃  
 とを伴ひ、火酒、聖書その他歐米の極めて基督教的な諸國によりて生産されたガラタの、土着住民への強制的供給を伴ふ  
 ところの、その慘酷さにおいて比類なき征服・抑壓の政策は、資本主義體制の確立を促進した最重要要因の一つであつた。

帝國主義は「福祉、進歩、文化のために後れた人民を教育する」と主張した帝國主義者とその改良主義的番犬(マクドナル  
 ド、オットー・パウエル一派)の醜惡な欺瞞にも拘らず獨占資本主義の時代への移行は植民地諸國の巨多の大衆の上にのしか  
 かつた抑壓を軽減しなかつた。特にその存在の第一段階において資本主義的發展が到る所で齎らす破壊的結果は、植民地に  
 おいては外國資本の導入のおかげで非常に高度に且つ急速なテンポで再生産される。資本主義の進歩的結果は、むしろ、そ  
 こでは殆ど全く現はれない。支配せる帝國主義植民地において社會的支柱を必要とする場合は、かれらは何よりも先づ舊社  
 會體制の支配層——封建領主、商業、高利貸ブルジョア——と結び、多數の民衆に對抗する。何處でも帝國主義は、その  
 反動的同盟者の存在の基礎たる一切の先資本主義的搾取形態(特に農村における)を、保存し永久化せんと努める。これらの國  
 々の人民大衆は、植民地制度の軍隊、憲兵、行政機關の維持のために、巨額を負担させられる。特に貧窮農民の間における  
 饑餓と傳染病の増大、土着住民の土地の大量收奪、屢々真正正銘の奴隸制度でも劣悪な非人間的勞働條件(白人資本家の農  
 場、鑛山等)は、——いたるところで植民地住民に破壊的作用を與へ屢々全種族の死滅を招來する。植民地における帝國主

「帝國主義と植民地」  
 建つては、  
 好むは、



義國家の「文化的教育的役割」は、事實上は死刑執行人の役割に歸する。

十 植民地諸國に關しては、次の二つを區分すべきである、即ち、資本主義諸國の過剰人口にとつての移民地となり、かくてこれらの國の資本主義制度の繼續となつた植民地(オーストラリア、カナダ等)と、特に販賣市場、原料資源、資本投下地として使用される植民地とを。この區分は歴史のみならず、大きな經濟的・政治的意義を有する。前者はその一般的發展に基いて自治領、即ち所與の帝國主義體制の同權の又は殆ど同權の成員となつた。そこでは資本主義的發展は、移住せる白色住民の内部に本國の階級構成を再生産する、一方土着住民は大部分殲滅される。そこには第二の型の植民地に現はれるやうな形態での何らかの植民地制度は問題となり得ない。これら二つの型の間には過渡的な型(變種)が存在する、そこで本國からやつて來たブルジョアジーは、本質上これらの國々(移住植民地)では本國のブルジョアジーの植民地的「繼續」に外ならない。かかるブルジョアジーの利害は大部分本國の植民地利害と一致する。本國はある程度まで植民地におけるその資本主義的「支店」の強化に利益を感じる、特に帝國主義のこの支店が原住民の土着住民を隸屬化し又は全く殲滅することにさへ成功した場合において然りである。他面、これらの半獨立國における勢力獲得のための諸々の帝國主義體制の競争の結果、これらの國々が本國から分離したり、本國の競争諸國と結合したりすることさへあり得る。これらの原因は、屢々、當該帝國主義に對する同質的親近の勢力の地位に立つこれらの植民地(自治領)内の自己の代理人の若干の政治的、經濟的獨立性と妥協することを、帝國主義をして餘儀なくさせる。

十一 本質上、帝國主義的植民地制度は、經濟的壓迫にのみならず、經濟外的強制にも基く、當該從屬國における帝國主義國のブルジョアジーの獨占である。加ふるに、二つの基本的機能に表現された獨占である。一面、それは植民地の無慈悲な搾取といふ目的に奉仕する(種々なる形態の直接・間接の貢納收取、自國の工業製品の販賣と、自國工業のための低廉な原料の供給と、非常に低廉な勞働力の利用とに結びついてゐる超過利潤等)。他面帝國主義的獨占はそれ自體の生存條件の保存と發展といふ目的に奉仕する。即ち、植民地大衆隸屬化の機能。

植民地搾取者の機能においては植民地國に對する支配的帝國主義は、主として、植民地國の經濟的有機體から血液をすひるところの、寄生蟲である。この寄生蟲が自己の犠牲者に比べて高度文化の社會であると言ふことは、かれをして益々強力な危険な搾取者たらしめる。しかし植民地國の觀點からみてかれの機能が寄生蟲的性質であることに決して變りはない。各帝國主義國における資本主義的搾取は生産力の發展の道を進んだ。同じ英國、佛蘭西その他の國のブルジョアジーによつて實現される、資本主義的搾取の特殊な植民地的形態は、結局において夫々の植民地の生産力の發展を阻害する。國內を軍事的に支配し租税重壓の不斷の作用を確保するためにも、帝國主義國の商業の要求のためにも必要な最小限度の建設作業(鐵道、港灣等)が實施される。植民地の農業は大部分輸出のために働らかされる、だがこれによつて農民經濟は決してかれを抑壓する。資本主義的諸道程から解放されない。それは、「一般原則としては、資本主義的生產形態の金融資本の要求への屬從を通じ又急速に發展しつつある商業・高利貸資本の桎梏の下への農民經濟の隸屬とか、租税負擔の強化とかによる。資本主義的搾取方法の深化を通じて、「自由なる」商品經濟に轉化する。農民の搾取は強化される、だがその生産方法は新しいものとはならない。一般原則としては、植民地原料の工業的加工は植民地自體においては行はれないで、資本主義國特に本國において行はれる。植民地において獲得される利潤は大部分生産的に消費されることなく、國外に出され、本國とか、關係帝國主義の新たな膨脹範圍とかに投資される。かくて植民地搾取はその基本的傾向としては植民地生産力の發展の抑止、天然資源の收奪に、特に植民地の人的生産力の豫備軍の疲弊の方向に作用する。

十二 しかしながら、植民地搾取が植民地における生産發展の若干の助長を豫定するとしても、この發展は、帝國主義的獨占の故に、本國の利益特にその植民地獨占維持の利益に合致するが如き軌道を取り且つかゝる程度において助長されるで

植民地半植民地國の或る形態

資本主義的帝國主義的搾取の植民地的様式



あらう。植民地的搾取は、例へば、穀物播種から棉花、砂糖、ゴム生産への移行に向つて一部農民を動かし得る（スーダン、キューバ、ジャヴァ、エジプト）。だがこれは、植民地國の独立的經濟的發展の利益に合致しないで、却つて、帝國主義本國への植民地の隸屬を一層強化するが如き方法と様式とによつて行はれるのである。世界帝國主義の原料基地の擴大のために、植民政策によつて絶滅されたものの代りに新たな農作物が作られる。同様な目的で破壊された舊きものの代りとして裝備された新たな灌漑設備は、帝國主義者の手中においては農民の強力な搾取の道具に轉化する。國民市場を擴大するために、一部は植民政策自體によつてうちたてられた農業關係を資本主義的生產様式に適應させる試みがなされる。種々の農場は本國の金融資本の利害に奉仕する。植民地の礦物資源の開発は、本國工業の要求、特に所要の帝國主義の獨占が及ばないところの他の國々の原料資源への依存を切斷せんとするその本國の要求に應じて、行はれる。これが——植民地生産の主要範圍である。製造行程が極めて簡單であり（タバコ工業、砂糖工場等）、或は原料輸送費が、現地における第一次加工の故に、著しく低廉な所では、植民地における生産の發展は比較的大なる規模をとる。とにかく、帝國主義者により植民地にうちたてられる資本主義的企業は（軍事的必要な場合にうちたてられた若干の企業を除いては）、主として又は全く農業＝資本主義的性質を有し、資本の低率の有機的構成を以てその特徴とする。植民地國の眞の工業化、特に國の生産力の独立的發展を助成し得る如き、強力な機械製造工業の創設は、本國により助長されるどころか、むしろ阻止される。

以上述べたところに本國の植民地隸屬機能が存する。即ち植民地國は、植民地國の勤勞階級を犠牲にして帝國主義國內部でのブルジョアジーの經濟的及び政治的權力を鞏化せんがため、かれの當該植民地における獨占を永遠ならしめ残りの世界に對するかれの膨脹を強めんがために、自己の独立的發展の利益を犠牲にすること及び外國資本主義への經濟的（農業＝原料的）附加物の役割を演ずることを餘儀なくされる。

すでに先帝國主義時代の「古典的資本主義」が、植民地におけるその強盜的經濟によつて、新たなものゝ同等な創造的建設

なき古きものゝ破壊の一切の否定的特性を、極めて明瞭に表明したやうに、帝國主義の没落の最も特徴的な徴表、その高利貸的、寄生的本質は、その植民地經濟において特に明白となる。帝國主義列強がその獨占化せる植民地を本國の資本主義經濟の要求に益々多く益々排他的に合致せしめんとする努力は、土着植民地住民の傳統的經濟體制を破壊するばかりでなく、同時に、各生産部門間の均衡の破壊に結局、植民地生産力の發展の人工的阻止に導く。

あらゆる本國の一般的傾向は、自らを他の帝國主義體制に對立せしめうる經濟的アウトルキーを確保せんがため、植民地をひつぱりこんでこれを新なる帝國主義體制の從屬的構成部分たらしめ、他方、全體としての世界經濟との直接的交渉から植民地をひきはなし、植民地と外界との一切の經濟的聯繫の仲介者、最高の規制者の機能を果さんとする意向である。帝國主義國が自國への植民地の一方的隸屬を鞏化せんとするこの傾向は、諸々の帝國主義國家、インタナショナル・トラスト等の相互間の競争を激化する。

これらの事情により制約された資本主義的諸關係の發展と植民地人民大衆の搾取とは非常に多様な形態を採る。

十三 植民地住民の壓倒的大衆が土地に張りつけられ農村に住む限り、帝國主義とその同盟者（地主階級及び商業＝高利貸資本）とにより採用される強奪的農民搾取形態は、重要な意義を有する。帝國主義の干渉（課税、本國からの工業商品の輸入等）のおかげで、貨幣・商品經濟の領域への農村の導入には、農村經濟の貧窮化の過程、農村家内工業の絶滅等が伴ふ、しかもかつての先進資本主義諸國におけるよりも、極めて急激なテンポで行はれる。反對に、遅々たる工業的發展はプロレタリア化の過程をして狭い限界の中に止めた。舊經濟形態破壊の急速なテンポと新經濟形態の遅々たる發展との間のこの大きな不均衡は、支那、印度、インドネシア、エジプト等において「異常な土地饑饉」と農村過剩人口、地代の吊上げと農民耕作土地の極端な分散性を生んだ、同時に、搾取と債務奴隷との以前の封建的又は半封建的條件の全負擔は、若干「近代化された」だが決してより軽くはない形態において、以前通り農民の肩にかけられてゐる。資本主義は植民地農村をその租



税體制とその商業機構とを以て把へ先資本主義關係に變革を起した(例へば、農村共同體の破壊)のであるが、決して農民を債務奴隸と搾取との先資本主義的形態の極端から解放しないで、それらに貨幣的表現を附加した(賦役と現物地代とは一部貨幣地代となり、現物租税は貨幣租税となつた如く)、このことは農民の貧困を一層強めた。農民の貧困な状態を高利貸が「救助」する、彼は農民を収奪し一定の条件下では(例へば、印度と支那の若干の地方)相續債務奴隸をつくり出しさへする。

個々の植民地諸國において又同一國内の種々の地方においてさへ非常に異つてゐるにも拘らず、農民大衆の貧困な地位は殆どいたるところで同一である。一部は不等價交換により、一部は直接の搾取により、これらの國々の農民は自己經濟の技術的又は組織的水準を高めない。かれの仕事の生産性は、その需要と同じく、低下する。これらの國々の農民の貧困化は——一般的現象である。印度、支那、インドネシアにおいて農民の貧困化は、現在農村の主要人物が貧困なる土地なき又は屢々飢餓に陥る殆ど土地なき農民であるといふ程度に達した。大土地所有はこゝでは殆ど全く大規模農業と關聯がなく、たと農民から地代をしぼり取る手段たるのみ、加ふるに屢々賃借人と轉借人とか、勤勞農民と大土地所有者(土豪、劣紳)又は國家との間の寄生的中間的環とかの多階的階層が存する。舊人工灌漑設備は、これらの國では農業にとり大きな意義を有するのであるが、帝國主義の干渉のおかげで、先づ崩壊し、それが再び資本主義的基礎の上に復興した時は、農民にとりその利用は餘りに高價となる、不作はますます頻繁な現象となる。あらゆる種類の他の自然的災害と傳染病の前に農民は全く無防備である、廣汎な農民大衆は生産過程から放り出され、都市において仕事の見付け、稀には農村に仕事を見付ける、又ははれた苦力となる。

かゝる農民の貧窮状態は、同時に、工業にとつて國內市場の危機であり、他面、國の資本主義的發展の道における強い障害である。印度、支那、エジプトの民族ブルジョアジーも、帝國主義も、この農民の貧困がこれらの搾取擴大の道に横はる障害であることを感じてゐるのだが、かれらは皆經濟的政治的利害の故に大土地所有、並びに農村の商業及び高利貸資本と固

各工業手工業の崩壊と高利貸資本の発展

く結びついてゐて、何とか廣い意味での農業改革を行ふことが出来ない。

農民の家内工業と手工業生産とはますます崩壊する。商業的發展は土着商業ブルジョアジーの廣汎な層をつくりだす、かれらも亦買占人、高利貸等の機能を遂行する。植民地經濟の特殊状況下の商業は高利貸資本の支配とヘゲモニーとは産業資本の成長をおくらせる。國內市場のための闘争において民族資本は、植民地國自體における輸入外國資本の競争に、農村における先資本主義的關係の抑止的作用に、屢々ぶつつかる。これらの障害にも拘らず、若干の生産部門においては土着大規模工業(主として輕工業)が生れる。民族資本と民族銀行とが発生し發展する。

植民地制度にとつて損のない農業改革を施行しようとするケチな試みは、半封建的地主を資本主義的土地所有者に徐々に轉化し、ある場合には——稀薄な富農層を形成することを以てその目的とする。實際はこのことは只農民の壓倒的多数の一層の貧困化をもたらすのみであつて、このことが更に又、國內市場の發展を麻痺する。これらの矛盾せる經濟的過程に基いて植民地運動の最重要な社會的力が發展する。

植民地への資本輸出の持債

十四 帝國主義時代には植民地での經濟的政治的獨占獲得事業において金融資本の役割が特に明瞭に表はれてくる。このことは、特に、植民地への資本の輸出により發生した一定の經濟的結果に表はれる。輸入された資本はこゝでは主として商業の範圍に流れこみ、主に高利貸的貸付資本として機能し、植民地國における帝國主義國家の抑壓機關の維持及び強化(國債その他の助力を得て)、又は半植民地諸國における土着ブルジョアジーの似而非獨立國家機關に對する完全なる統制の獲得といふ任務を追究する。

植民地への資本の獲得と主要原料の獲得

植民地への資本の輸出はそこにおける資本主義的關係の發展を促進する。生産的目的のために植民地に向けられる輸入資本の一部は、ある程度は工業的發展の促進をもたらすものゝ、それは植民地經濟が帝國主義國の金融資本から獨立するといふ方向にはなく、その依存の強化の方向に向つてなされる。一般的に言つて輸入資本は植民地においては殆ど全く原料の

交通網の拡大への投資

植民地・半植民地諸國における革命運動について



獲得と採集とに、又はその第一次加工に集中される輸入資本は、原料輸送を容易にし、植民地と本國とをヨリ一層緊密に結びつける交通制度(鐵道、造船、港灣設備等)の擴大のために用ひられる。農業において常用される投資形態は、廉價の食料産物を生産し廣大な原料資源を獨占するための大規模農場への資本の投下である。植民地奴隷の低廉な勞働力からしぼりとつた剩餘價値の大部分が本國に移される事實は、著しく植民地國經濟の昂揚とその生産力の發展とを遅らせ、植民地の經濟的解放の障害となる。

資本主義國家と植民地國間の相互關係のもう一つの基本的徵表は、個々の植民地・半植民地國の外國貿易全體を獨占し、かくて、植民地經濟と世界市場とを結びつける一切の運河を自己の下に統制し規制せんとする金融資本の種々なる獨占主義的群の努力である。少數の獨占主義的輸出會社による外國貿易が、植民地における資本主義的發展行程に及ぼす直接の影響は民族的國內市場の發展によりもむしろ、植民地の分散せる國內商業を輸出の要求に適合させることに帝國主義的寄生者による植民地諸國の天然資源の吸収に表はれる、植民地商業のこの獨自的發展は、主として植民地の外國貿易への融資等のために土着住民の預金を動員する植民地の帝國主義銀行の形態と性質とにもその特別の表現を見出す。

十五 植民地に對する帝國主義の全經濟政策は、植民地の從屬性を維持強化し、搾取を増大し、出来るだけ多くその獨立的發展を阻止せんとする努力を以て一貫する。只特別の事情の壓迫の下にのみ、帝國主義諸國家のブルジョアジーは、植民地における大工業の發展を助成せざるをえないことが起り得る。例へば、戰爭の實行又は準備の必要上、戰略的に極めて重要な若干の植民地(例へば印度)に金屬加工工業及び化學工業の諸企業が創設される。ヨリ強力な競争者の競争は、關稅政策の諸問題において、本國をして一定の讓歩を餘儀なくさせ得る。その際本國は特惠關稅を自己に確保する。植民地・半植民地諸國のブルジョアジーの一定の層を、特に革命運動昂揚期において買収するために、かれらはある程度その經濟的壓迫を弱めることがある。だがこれらの異常にして大部分經濟外的な事情がその影響を失ふに従つて、帝國主義列強の經濟政策は

植民地における  
主要經濟政策の  
調

直ちに植民地の經濟的發展の壓迫及び阻害に向けられる。それ故に植民地の民族的經濟的發展特にその工業化、その工業の全面的獨立的發展は、帝國主義の政策と極めて鋭く對立してのみ實現され得る。それ故に植民地諸國の發展の特質は、生産力の増大が非常な困難を以て、痙攣的に、人爲的に、個々の産業部門に限られつゝ、實現されるといふ點に特に表はれる。

以上一切の事實は、不可避的に植民地・半植民地諸國への帝國主義の壓迫がその都度高度に再生産され、帝國主義自體によつて生み出された社會經濟的要因の側から益々強力な反作用を喚起するといふ事情をもたらす。獨自的發展の異常的阻害は、帝國主義に對する植民地人民の對立を益々強化し、革命的危機を、ポイコット運動を、民族革命的蜂起等をもたらす。

一面、植民地における資本主義的發展の客觀的内在的矛盾は強まり、かくて植民地の獨立的發展と帝國主義諸國のブルジョアジーの利害との間の矛盾が擴大し、他面、新たな資本主義的搾取形態は、巨萬の農民大衆が金融資本の桎梏に組織的反抗をなすために益々多くその圍りに結集するところの、眞に革命的な勢力——プロレタリアートを舞臺に上せる。

帝國主義者によつて行はれる植民地脱化政策とか、「植民地の自由な發展」助成とかを、帝國主義者やその番犬共は喋々してゐるが、これは帝國主義的欺瞞以外の何ものでもない。

### 三、支那、印度及び類似植民地諸國における共產主義的

#### 戰略、戰術について

植民地・半植民地  
における革命的  
暴徒の階級

十六 一切の植民地・半植民地におけると同様に、支那でも印度でも生産力の發展と勞働の社會化とは比較的低い程度にある。この事情と他民族的壓迫、並びに封建主義及び先資本主義關係の強力な遺物の存在は、これらの國々における革命の最近の段階の性質を決定する。これらの國々の革命運動においては、問題はブルジョア民主主義革命、即ちプロレタリア獨裁及び社會主義革命の前提準備たる段階にある。それ故に植民地・半植民地におけるブルジョア民主主義革命の一般的基本



的任務として——次の如き諸々の任務を定め得る。

(イ) 力の相互関係をプロレタリアートに有利に移動させること。帝國主義の桎梏からの國の解放（外國利權、鐵道、銀行等の國有）及び未だその實現されてゐないところでは國の民族的統一の樹立、帝國主義者がその背後に立てる搾取階級の權力の打倒、勞農ソヴェートと赤軍の組織、プロレタリアートと農民の獨裁の樹立、プロレタリアートのヘゲモニーの鞏固化。

(ロ) 農業革命の實行、一切の先資本主義的及び植民地搾取や債務奴隸的條件からの農民の解放。土地國有。都市農村間の出來るだけ緊密な經濟的提携の樹立の目的を以てする農民の地位の急進的改善手段。

(ハ) 工業、運輸等のより一層の發展及びそれと固く關聯したプロレタリアートの成長に照應して——勞働階級の組合組織の擴大、共産黨の業化、勤勞大衆間での確固たる指導的地位を共産黨のために獲得すること、八時間勞働日の獲得。

(ニ) 民族及び兩性の同權の樹立（婦人同權）、國家からの教會の分離、階層的差別的撤廢。政治的教化及び都市農村の大衆の一般的文化水準の昂揚等。

如何なる程度にまでブルジョア民主主義革命は實際に自己の全基本任務を實現し得るか、これらの任務の如何なる部分が社會主義革命によつてのみ實現されるかは——革命的勞農運動の行程に、帝國主義者、封建領主、ブルジョアジーに對する闘争におけるその成功又は敗北に依存するであらう。特に帝國主義的桎梏からの植民地の解放は、資本主義世界で社會主義革命が展開されることによつて容易となり、先進資本主義諸國におけるプロレタリアートの勝利によつてのみ完全に確保され得る。社會主義段階への革命の移行は一定の最少限度の前提、例へば、國の産業的發展の一定水準、プロレタリアートの組合組織、強力な共産黨の存在を要求する。最も重要なものは——大なる大衆的影響力を有する強力な共産黨の發展である、尤もこれは、すでにこれらの國々の客觀的條件の中から成長しつゝあるブルジョア民主主義革命によつて促進されない

限り、これらの國々では極めて遅々たる困難なる過程であらう。

十七 植民地におけるブルジョア民主主義革命は獨立國におけるブルジョア民主主義革命は主として次の點で區別される、即ちそれが帝國主義的隷屬に對する民族解放闘争と有機的に結びついてゐる點で。民族的要因は一切の植民地において、並びに帝國主義的隷屬がすでにそのむき出しの、人民大衆を憤激せしむる如き形態で現はれてゐる半植民地において、革命的過程に著しい影響を與へる。一方、民族的抑壓は革命的危機の成熟を促進し、勞農大衆の不滿を強化し、これらの動員を容易ならしめ、革命的爆發に大衆的自然成長の力と眞の人民革命的な性格とを賦與する。他方民族的要因は勞働者農民の運動のみならず、一切の残りの階級の立場にも影響を與へ、その立場を過程において變形し得る。誰よりも先づ、貧困なる都市小ブルジョアジーは小ブルジョア・インテリゲンチヤと共に眞先に大規模に積極的革命的勢力の働らきかけをうける。第二に、ブルジョア民主主義革命における植民地ブルジョアジーの立場は、大部分は獨立國のブルジョアジー（例へば、一九〇七—一九一七年のロシア・ブルジョアジーにおける）よりも、はるかに心もとなく、その動搖は革命の行程に應じてはるかに強い。植民地革命の獨自性を著しく規定する民族的モメントの特殊な影響を、具體的情勢に依存して詳細に考究し、それを夫々の共産黨の戦術において考察することが極めて重要である。

民族解放闘争と並んで農業革命の問題は先進植民地諸國におけるブルジョア民主主義革命の樞軸をなす。それ故に共産主義者は農業恐慌の發展及び農村における階級的矛盾の激化を非常に注意深く考究しなければならぬ、かれらは、勞働大衆の不滿と生れたばかりの農民運動とに、意識的の革命的な方向を與へなければならぬ。即ちこれらを農民經濟を困難に陥れ瓦解させ破滅させる種々の現存の先資本主義的——封建的・半封建的——關係の桎梏に對して向けると同様に、帝國主義的搾取と債務奴隸制に對して向けなければならぬ。農業の有り得べからざる態の後進性、債務奴隸的借地關係の支配、商業の高利貸資本の抑壓は、植民地農業において生産力の發展の道に横はる最大の障害である、而して植民地の農業生産と世界市場と



の間の、獨占的帝國主義によりうちたてられた高度に組織された交換形態と、鋭く對立する。

十八 これらの植民地諸國における民族ブルジョアジイは帝國主義に對して單一の立場を取らない。このブルジョアジイ特に商業ブルジョアジイの一部は、帝國主義資本の利害に直接に奉仕する（所謂買辦ブルジョアジイ）。民族ブルジョアジイは全體としては、帝國主義の封建的同盟者及び高給の土着官吏と同様に、全民族運動に反對する反民族的帝國主義的見地を多かれ少なかれ徹底的に擁護する。土着ブルジョアジイの残りの部分、特に土着工業の利害を反映する部分は、民族運動の地盤の上に立つてをり、民族改良主義又は、第二回大會のテーゼの言葉では、「ブルジョアジイ民主主義的」一派と呼ばる特殊の動搖的な、妥協に傾く一派をなす。革命的陣營と帝國主義陣營間の民族ブルジョアジイのこの中間的地位は、尤も、支那では一九二五年以後は見られない。ここでは民族ブルジョアジイの大部分は初め獨特の情勢のおかげで、民族解放戦争の先頭に立つた。やがてかれは最後の反革命の陣營に移つた。印度とエジプトにおいて我々は今の所まだ典型的なブルジョア民族主義的運動——日和見主義的な、大いに動搖し勝たぬ帝國主義と革命との間にバランスをとつてゐる運動を見る。

全植民地人民の利害たる、帝國主義に對する國の獨立は、民族ブルジョアジイの利害にも合致するのであるが、帝國主義體制の全本質とは和解し難く矛盾する。尤も、種々なる土着資本家は、自己の直接的利害から言へば、大部分は多様な糸によつて帝國主義資本と結びついてゐる。帝國主義は直接かれらの大部分を買収することが出来る、又今までよりすつと大なる部分のために、一定の買辦的地位、商業的仲介者、下級搾取者、隸屬人民の監視者の地位をさへ作り出し得るであらう。だが奴隸所有者、獨占主義的上級搾取者の地位は、帝國主義者は自分自身のために残しておく。獨立的支配「自由たる」獨立的資本主義的發展の將來、「獨立民族」へのヘゲモニー、——これらすべてを帝國主義は決して自發的に民族ブルジョアジイに譲ることはない。この點において、植民地國の民族ブルジョアジイと帝國主義との間の利害の對立は客觀的に根本的性質

を帯びる。この點において帝國主義は民族ブルジョアジイ側からの屈伏を要求する。ヨリ弱き側面としての、土着ブルジョアジイは、帝國主義の前に落城に次ぐに落城を以てする。だが彼の落城は、大衆の側からの階級的の危險が直接に現實的、尖鋭的、脅威的とならぬ限り、最後の落城とはならぬ。一方では、この危險を避け、他方では——帝國主義に對する自己の立場を強めるために、これらの植民地におけるブルジョアの民族主義は小ブルジョアジイ、農民及び一部労働階級の支持を獲得とする。労働階級に對してはかれは成功のチャンスを除き持たない（これらの國で労働階級が一般的に政治上覺醒したあとでは）のであるから、かれにとつては農民の側からの支持を獲得することが益々重要となる、だがこゝに——植民地ブルジョアジイの最も弱い點がある。植民地農民の堪え難い搾取は、農業革命によつてのみ廢絶されうる。支那、印度及びエジプトのブルジョアジイは、自己の直接の利害から言つて土地所有と、高利貸資本と、農民大衆一般の搾取と固く結びついてゐるので、かれは農業革命に反對の行動をとるばかりでなく、一切の斷乎たる農業改革に對してもさうである。かれが、農業問題を公然と提起するだけですら農民大衆内の紛擾の革命的過程を助成しそのテンポを促進するであらうといふことを危惧するのは、根據のないことではない。かくて、改良主義的ブルジョアジイは、この基本的緊急問題に實際にとりかゝることを殆ど決意し得ない。

その代りにかれは、空虚な民族主義的言辭とヂエスチュアとを以て小ブルジョア大衆を自己の影響下に置き帝國主義者をして若干の讓歩を行はしめんと試みる。だが帝國主義者は益々盛んに指導者を味方にひきつける、けだし民族ブルジョアジイは多少とも根強い反抗をなす能力がないからである。それ故に民族ブルジョアジイは、帝國主義との衝突毎に、一方では、自己の民族主義的「不屈」を偽裝し、他方では——帝國主義との平和的妥協の可能性の幻想をまきちらさんとする。前者の場合にも後者の場合にも、大衆は不可避的に幻滅し、かくて次第にその改良主義的幻想をすてる。

十九 これらの植民地國における民族ブルジョアジイの基本的な民族改良主義的方向の評価を誤るならば、夫々の共産



黨の戦略戦術に重大な誤謬が生じ得る。特に、以下の二種の誤謬が可能である。

(イ) 民族改良主義的方向と民族革命的方向との間の差別の無理解は、ブルジョアジーに對する追隨政策を、ブルジョアジーからのプロレタリアートの不明確な政治的・組織的區劃を、最重要な革命的スローガン(特に農業革命のスローガン)の抹殺等を齎らす。これは一九二五——一九二七年に支那共産黨が陥つた基本的誤謬であつた。

(ロ) 少くとも運動の初期の段階において小ブルジョアジー、農民、一部分は労働階級さへもの陣列内に有する自己の大衆的影響のおかげで、ブルジョア民族改良主義が封建的・帝國主義的陣營とは異つて有するところの、特殊な意義を過少評價することは、セクト的政策に、勤勞大衆からの共産主義者の孤立化等をもたらし得る。

前者の場合においても後者の場合においても、すでにコミンテルン第二回大會が植民地國の共産黨の特殊任務、即ち、民族自體内部のブルジョア民主主義運動に對する闘争の任務として特徴づけた任務の實現に、餘り注意が向けられてゐない。この闘争なしには、ブルジョアジー、民族改良主義の影響下からの勤勞大衆の離脱なしには、ブルジョア民主主義的革命の場合における共産主義運動の基本的戦略的目的は——プロレタリアートのヘゲモニーは達成され得ない。共産黨の指導的地位をその有機的部分となすところの、プロレタリアートのヘゲモニーなしには、ブルジョア民主主義革命は徹底的に遂行され得ない、況んや社會主義革命においてをや。

植民地・半植民地諸國における小ブルジョアジーの役割

二十 これらの植民地・半植民地國における小ブルジョアジーは非常に重要な役割を演ずる。かれらは、民族革命運動のいろんな時期において非常に多様な役割を演ずるところの、種々様々の層から成る。外國輸入商品の競争に苦しめられる手工業者は、帝國主義者に對して敵對的氣分を有する。同時にかれは自分の職人・徒弟の無制限の搾取に利害關係を有する。だから階級的意識的労働運動に對しては敵對的氣分を持つ。同時にかれは大部分商業・高利貸資本の搾取に苦しめられてゐる。この層の極めて二重性的で絶望的な地位はかれの動搖を規定する、かれは屢々空想的反動家の影響下に陥る。商人——

都市農村の——は、商業と高利貸とによる農村での搾取に結びついてゐて、舊搾取形態を固守し、國內市場の擴大の見透しよりも舊搾取形態を選ぶ。だがこれらの層も一樣なものではない。何らかの形で買辦と結びついてゐる商業ブルジョアジーの層は、その活動が主として國內市場に制限されてゐる層とは異つた立場を取る。小ブルジョア・インテリゲンチヤ、學生その他は極めて屢々小ブルジョアジーの特殊な利害のみならず、全民族ブルジョアジーの一般的客觀的利害の最も確乎たる代表者である、そして民族運動の初期には、かれらは屢々、民族的志向の表現者として行動する。運動の表面におけるかれらの役割は比較的大である。一般にかれらは農民利害の負擔者とはなり得ない、何となれば多くの場合かれらの出身の社會層が土地所有と結びついてゐるからである。革命的波の増大しゆく昂揚はかれらを労働運動にもおしやる事が出来る、かれらは、この運動に、自己の動搖せる不決斷的小ブルジョアのイデオロギーをもちこむ。只かれらの中の若干の者だけが、闘争の過程において、自己階級と別れ、プロレタリアートの階級闘争の任務の理解にまで昂まり、その利害の積極的擁護者となる事が来る。小ブルジョアのインテリゲンチヤが、自己のイデオロギーを社會主義的な又更に共産主義的な色調にぬりかへることが屢々ある。反帝闘争においてかれらは、革命的役割を演じたし、印度とかエジプトとかの國々においては現在もまだ幾分かゝる役割を演じてゐる。大衆運動はかれらをひきつけ得る、だがかれらを極端な反動の陣營におしやつたり、又はかれらの陣列中に空想的反動的潮流の傳播を助けることもありうる。

これらの層と並んで植民地都市には都市貧民の廣汎な層が存在する、その地位は客觀的にかれらを革命の側におしやる。他人労働を搾取しない手工業者、街頭商人、失業インテリ、仕事を求めてゐる零落農等。この外に、植民地の都市にも、農村にも多數の「苦力」——半プロレタリア——の層がある。かれらは工場生産の學校を通らず、偶然的勞賃で以て生活する。

農民はプロレタリアートと並んでその同質者として、革命の原動力である。巨大な、數百萬の農民大衆は、最も發展せる植民地においてさへも住民の壓倒的多數をなす(若干の植民地においては住民の九〇パーセント)。貧困によつて、あらゆる



先資本主義的及び資本主義的搾取形態によつて壓へ付けられ、その大部分が借地においてさへ經營を失ひ、生産過程から放り出され、徐々に飢餓と疾病とのために死滅してゆく饑乏たる借地人、小農の數百萬大衆、農業労働者、——これが農村におけるプロレタリアートの最も重要な同盟者である。農民はプロレタリアートの指導下にのみ自己の解放をとげうる、プロレタリアートは農民と同盟してのみブルジョア民主主義革命を勝利にまで導き得る。封建主義及び先資本主義的關係の強力な遺物があるところでは、植民地・半植民地における農民の階級分化の過程が、比較的遅々たるテンポを以て行はれる。それでもなほ市場關係はこれらの國では、農民がすでに階級關係において一様な大衆ではないといふ程度に、發達した。支那及び印度の農村において、特にこれらの國の若干の部分において、すでに農民出身の把取分子を見出し得る、かれらは高利貸なり、商業により、雇傭労働の利用により、土地の賃貸により、借地の再賃貸により、家畜や農具の賃貸によりなどして、農業労働者・農民を搾取する。一般に、地主に對する農民の闘争の第一期においてプロレタリアートは全農民を指導しうる。だが、其後の闘争行程において農民の若干の上層は反革命の陣營に移り得る。プロレタリアートは、農民の部分的要求のため、農業革命の完全な完成のための、自己犠牲的闘争を條件としてのみ、農業問題の革命的解決のために廣汎な農民大衆の闘争の先頭に立つことを條件としてのみ、農民に對する自己の指導的役割を獲得しうる。

二十一 植民地・半植民地國の労働階級は、これらの國々における獨立的労働運動及びプロレタリア的階級イデオロギイの形成上少なからず重要な役割を演ずるところの、自己の特性を有する。植民地プロレタリアートの歴史的部分は、貧窮な農村出身であり、工場にあつてさへ労働者は前農村と結びついたのである。大多數の植民地においては（上海、ボム、ベイ、カルカッタその他の如き若干の大工場都市を除いて）、一般原則として、我々は工業プロレタリアートの第一世代のみを有する。

他の一部は、最も先進的な植民地にさへ廣汎に行きわたつてゐる、解體されつゝある職業から押出された、破産家内工業

者である。破産家内工業者、小主人は、植民地の労働運動への民族改良主義的影響浸潤のための素地となる職場的氣分とイデオロギイとを、労働階級に持ち込む。組成の流動性（工場における労働力の頻繁なる流動、歸農、貧窮農民の新大衆の生産への流入）、婦人・児童の高率、言語の多様性と文盲、宗教的・階層的迷信の傳播——これらは體系的宣傳・煽動を困難にし、労働者の階級的自己意識の成長を抑止する。しかし土着及び外國資本が極めて強奪的な形態において行ふ無慈悲な搾取、労働者の完全な政治的無権利は、植民地における労働運動がそれに基づいて一切の困難を急速に克服し、毎年益々廣汎な労働階級の大衆を土着搾取者と帝國主義者とに對する闘争にひきつけるところの、客觀的前提をつくり出す。

植民地・半植民地國における労働運動の昂揚の第一期（即ち一九一九—一九二三年）は、世界大戰に續いた民族的革命運動の一般的昂揚と有機的に結びついてゐる。そして土着ブルジョアジーを先頭とする反帝國主義闘争の利害への労働階級の階級的利害の從屬を特徴とする。労働者のストライキ及びその他の行動が組織的性質を有する限り、それは普通小ブルジョアのインテリゲンチヤによつて組織される。かれらは労働者の要求を民族闘争の問題に制限する。反對に、第五回大會以後植民地に始まつた労働運動の昂揚の第二段階の最も重要な特殊性は、植民地労働階級が、自己を民族ブルジョアジーに對立せしめるところの、かれと共に自己の直接の階級的利害のため及び民族革命一般におけるヘゲモニーのための闘争に進出するところの、獨立的階級的勢力として、政治の舞臺に進み出たことにある。最近年の歴史は植民地革命の新段階のこの特殊性を、特に支那大革命、次いでインドネシアでの蜂起の例において、明らかに確證してゐる。印度においても労働階級は民族的及び社會改良主義的指導者の影響下から離脱してをり、英國帝國主義者と自國ブルジョアジーとに對する闘争において獨立的政治的要因に轉化したことを。一切が物語つてゐる。

二十二 革命的運動の緊急任務をより正しく定めるためには、この運動が個々の植民地國において達成したところの成熟の度合を考察し出發點としなければならない。支那における革命運動は、印度における現運動とは、兩國における運動の成



熟の様々の度合を特徴づける一聯の本質の様相を以て區別される。支那革命の嘗ての経験は、無條件に、印度及びその他の類似植民地國の革命運動において利用さるべきである。だがもしも現在我々が印度、エジプト等において緊急任務、スロークン及び戰術的方法を、それが嘗て支那において例へば武漢時代に適切であつたと同じ形態で、又は現在支那で提起しなければならぬやうな形態で、提起したとすれば、それは支那の経験の全く誤つた適用であるだらう。印度、エジプト等における革命運動の現段階の不可避的困難と特殊な任務とを飛び越えんとする傾向は、有害なるのみである。これらの國では、労働者農民の闘争の直接の任務として、支那の武漢時代において全く適切であつた如き任務の實現を計つて成功のチャンスを取らふ前に共産黨の建設と準備とについて、プロレタリアートの労働組合組織について、組合の革命化について、經濟的・政治的大衆行動の展開について、大衆の獲得と民族改良主義的ブルジョアジーの影響下からの、かれらの解放について、大いに活動すべきである。

民族ブルジョアジーの階級的支配のための闘争の利害は、印度、エジプトにおける最重要なブルジョア政黨（スワラジスト、ワフディスト）をして、支配的な帝國主義的封建的プロククに對して反對派の態度を示させる。この反對派の態度は革命的ではなく、改良主義的・協同的であるとはいへ、このことは決して、この反對派の態度が特別の意義を有しないといふことを意味しない。民族ブルジョアジーは、帝國主義に對する闘争勢力たる意義を有しない。だがこのブルジョア改良主義的反対派は、それが一般に大衆的影響を有する限り、革命運動の發展にとつてその現實的な、特別な意義——しかも否定的並びに肯定的意義を有する。重要なことは、かれらが勤勞大衆を指導し、革命的闘争からひきはなすことに成功する限り、革命運動の發展に對し抑止的影響を與へることである。だが、他面支配的封建的プロククに對するブルジョア反對派の行動はたとひそれらが深刻な性質を有しないとしても——、廣汎な勤勞大衆の政治的覺醒の過程に一定の促進的影響を有し得る。民族改良主義的ブルジョアジーと帝國主義との具體的な公然の衝突は、それ自體としては取るに足らぬ

ものであつても、一定の情勢の下では間接的に大規模な革命的大衆行動さへもの展開原因となり得る。尤も、改良主義的ブルジョア自體はかれの反對派行爲のかゝる作用を喜ばず、前以て何としかしてかゝる作用を喰止めようと努める。だが深刻なる政治的危機のための客觀的前提條件の存する所では、民族改良主義的反対派の行動、革命の眞の根源と結びつき、最も少ない些細な帝國主義との衝突でさへ最も重大なる意義を有することがあり得る。共産主義者はありとあらゆる衝突を利用し、それらを激發し、それらの意義を強め、それらと革命的スロークンのための煽動とを結びつけ、これらの衝突の報道を廣汎な大衆に傳へ、自己自身の要求をかゝげた獨立公然の進出に向つてこれらの大衆を覺醒せしむることを學ばなければならぬ。

二十三 スワラジストやワフディストのやうな黨に對する闘争での正しい戰術は、現段階においては、かれらの眞の民族改良主義的性質をうまく暴露するにある。これらの黨はすでに一度ならず民族解放闘争を裏切つた、だがかれらは國民黨のやうには未だ最後の反革命的陣營に轉落してはゐない。疑ひもなく、かれらはまだこののちも裏切るであらう、だが現在かれらは、かれらの眞の面貌が廣汎な労働大衆の面前で未だ暴露されてゐないが故にこそ、危険なのである。この暴露のためには、なほ非常に大なる共産主義的教化的活動と、これらの大衆の非常に大きな、新たな、身を以てする政治的經驗とを必要とする。もしも共産主義者がすでに現段階において、民族運動のブルジョア的民族改良主義的指導への勤勞大衆の信頼を、動搖せしめ得ないならば、この指導は革命的波の近き將來の昂揚に當つて大きな危険となるであらう。それ故に所與の段階の條件に照應せる正しい共産主義的戰術によつて、印度とエジプト、インドネシア其他の植民地の勤勞大衆がブルジョアの政黨の影響下から離脱することを、助けなければならぬ。このことは、反對派的民族改良主義者（スワラジスト、ワフディスト等）と英國帝國主義者又はかれらの封建的反革命的同盟者との間に差別がないといふことを、喧嘩な、外見は非常に急進的であらうある言葉を以て説明しても、成功しないであらう。かゝる過誤は、大衆を共産主義者にけしかけるため民族改良主義的指導者の容易に利用するところとなり得るであらう。大衆は民族解放の直接の主要敵を帝國主義的封建的



ロツクの中に見る、而してこのことは、印度、エジプト、インドネシアにおける運動の現段階ではそれ自體は正しい（問題が事態の一面にのみ關する限り）。この支配的な反革命的な勢力に對する闘争において、印度、エジプト、インドネシアの共產主義者は先頭に立たねばならぬ、かれらは如何なる小ブルジョアの民族革命のグループにもましてヨリ決定的に、ヨリ徹底的に、ヨリ果敢に、闘はねばならぬ、勿論それは何らかの一揆とか、革命的少數派の側からの時に非ざる蜂起の試みとかを組織するためではなく、出来るだけ多くの勤勞大衆をデモンストレーションやその他の行動に動員し、かくて革命闘争のヨリ進んだ段階において勝利的蜂起へのこれらの大衆の眞の参加を確保するためである。だが同時に勤勞大衆の面前でスワラジスト、ワフデリスト等の民族主義諸黨特にその指導者の民族改良主義的性格を、民族運動におけるかれらの中途半端性動搖を、かれらの取引を、英國帝國主義者との妥協へのかれらの志向を、かれらの嘗ての屈伏と反革命行動を、プロレタリアートと農民との階級的要求へのかれらの反動的反對を、かれらの空虚なる民族主義的言辭を、國の平和的植民地脱化に關する有害なる幻想のかれらによる傳播を、民族解放闘争における革命的方法の採用に對するかれらのサボタージュを無慈悲に暴露することは少なからず重要である。共產黨と民族改良主義的反対派との如何なるプロツク化をも排撃しなければならぬ。尤も、ブルジョア反対派の行動が大衆的運動の展開のために利用され得るならばかゝる協定が決して大衆の間での煽動と組織とに關する共產黨の自由を制限しないならば、帝國主義反對の一定の進出に關聯して個々の行動の一次的協定と提携となすことを妨げない。勿論、その際共產主義者は同時に、ブルジョアの民族主義に對しても勞働運動内部からのブルジョア主義の影響の最小の顯現に對しても最も無慈悲な意識的政治的闘争を行ひ得なければならぬ。かゝる場合共產黨は特に、自己の政治的獨立性を完全に保ち、自己自身の面貌を表明するばかりでなく、同時に事實に基いてブルジョア反対派の影響下にある勤勞大衆に眼を開かせ、かれらがこの反対派の頼り無さとそれが傳播させたブルジョア民主主義的幻想の危険性に氣付くように、努めなければならぬ。

二十四 大民族ブルジョアジの黨の主要な方向を誤つて評價するならば、小ブルジョアの黨の性格と役割とを誤つて評價する危険性が生ずる。これらの黨の發展は、一般原則としては、民族革命的反対派から民族改良主義的反対派への道を行く。支那における三民主義、印度のガンヂー主義、インドネシアのサレカート・イスラムの如き運動でさへ、初めは急進的小ブルジョアの觀念的流派であつたが、やがて大ブルジョアに奉仕してこのブルジョアジの民族改良主義的流派に轉化した。それ以來印度、エジプト、インドネシアにおいて新たに、多少とも徹底的な民族革命の見地に立つ種々なる小ブルジョアの分派（例へば共和黨、ワタニ、サレカート・ライヤト）から或る急進的翼が形式された。印度の如き國土では、若干の新たな類似的な急進的小ブルジョアの群や黨も發生する可能性がある。だがこれらの黨も、本質的に言へば、民族ブルジョアジと結合してゐることを見逃してはならぬ。これらの黨を率ゐる、小ブルジョアのインテリゲンチヤは、民族革命的要求を提起する、だが同時に——多かれ少なかれ意識的に——その國土の資本主義的發展の代辨者である。これらの分子中の若干のものはあらゆる種類の反動的空想の信奉者となり得る、だが封建主義と帝國主義とに面してはかれらは、大民族ブルジョアジの黨と異なり、初期においては、國內の革命的過程の發展がブルジョア民主主義革命の内部的根本問題、特に農業革命及びプロレタリアート・農民の獨裁の實現の問題を、明確な尖鋭な形態で日程に上せない限り、植民地ブルジョアジの反帝國主義的利害の、改良主義的ではなく多かれ少なかれ革命的な擔當者である。だが次の場合には通常小ブルジョアの革命の終焉が来る。革命が、プロレタリアートと農民との階級的利害を、封建的帝國主義的プロツクに對してのみならず、ブルジョアジの階級的支配に對しても亦危機的な對立たらしめたあとでは、小ブルジョア群は普通は再び民族改良主義黨の立場に退く。

これらの國の共產黨は、當初から政治的にも組織的にも、一切の小ブルジョア黨と分派とから極めて明確に自らを區劃することが、絶対に必要である。革命的闘争の合目的性がそれを要求するならば、一時的協働は許される、而して、民族革命



運動が本當に支配権力に對して戦ふ限り、眞に革命的である限り、その代表者が共產主義者に農民と廣汎な層の被搾取者とを革命的精神において教育し組織することを妨げない限り、共產黨と民族革命運動との間の一時的同盟でさへも許される。だが如何なる協働にあつても、協働は共產主義運動とブルジョア革命運動との融合に變質してはならないことを、はつきりと意識する必要がある。共產主義運動は、如何な情勢の下でもプロレタリア運動の獨立性を無條件に維持し、煽動、組織、言動において獨立性を保持しなければならぬ。小ブルジョア分派の中途半端性と不決斷とを批判し、かれらの動搖を豫見しその動搖への準備をなし、同時にこれらの層の一切の革命的可能性を利用し、プロレタリアートへの小ブルジョアの影響に對して徹底的闘争を行ひ、小ブル黨の影響下からの廣汎な農民大衆の離脱に全手段をあげて努力し、小ブル黨から農民へのヘゲモニーを奪ひ取ることに——以上が共產黨の任務である。

**二十五** 印度、エジプト等における革命運動が、どれだけ早く支那において達成されたやうな高度な成熟を遂げるかは、本質的には、そこにどれだけ速く大きな革命の波が発生するかに懸つてゐる。著しく遅れる場合には、革命の原動力の政治的及び組織的成熟は、漸時的な、むしろ比較的ゆつくりしたテンポを以て發展するであらう。だがもしも、最も近き將來の強力な革命的波がそこにヨリ早く来るならば、運動は急速により高い成熟度にまで昇まることが出来る。極めて好條件の下では、該地の革命が一つの強力な波となつてプロレタリアートと農民とによる権力の獲得にまで進展することさへ可能である。だが、一つの段階から他のヨリ成熟せる段階への革命の轉化の過程が、多かれ少なかれ長期に亘つて切斷されること、特に革命的昂揚の最新の波が比較的高くなく、繼續しない時にそうであることも亦可能である。それ故に、具體的情勢を其の都度極めて明確に分析しなければならぬ。

一つの段階から他のヨリ高度な段階への革命の直接的轉化にとつて決定的意義を有するのは、次の契機である。

一、運動の革命的プロレタリア的指導、即ち、所與の國の共產黨の發展の度合（黨員數、黨の獨立性、意識性、戰鬥力、

同じくその權威、大衆との結び付、勞働組合と農民運動とに對する影響力）。

二、勞働階級並びにある程度農民の組織と革命的經驗との度合。

大衆の革命的經驗は、闘争の經驗を、就中、ブルジョアの及び小ブルジョアの黨の影響下からの離脱を意味する。これらの前提條件は、革命の最初の大なる大衆的爆發に當つては最良の場合にでも不充分にしか存在しないのが普通であるから、ブルジョア民主主義革命が、すでにこの一つの波の助力を得て、プロレタリアートと農民との完全な勝利に導き得るためには、革命的危機の異常な深さを、革命的波の非常に高度な昂揚と著しい繼續性を必要とする。かやうな可能性は、例へば、支配的帝國主義が夫々の植民地國の境界の外で長期の戦争の渦に同時的にはまりこむ場合に非常にたやすく現れるであらう。

**二十六** 支那におけるブルジョア民主主義革命の過ぎし第一段階が我々に示した生きた具體的歴史的辨證法は、共產主義者、特に植民地國で活動せる共產主義者に、貴重な經驗を與へる、かれらはこれを詳細に研究し、適切な正しい結論を、特に植民地における共產主義活動の過程に犯された誤謬の中から引出さなければならぬ。革命的波の昂揚はここでは、極めて長期（二箇年以上）に亘つた、何となればこの昂揚は内戦の延引と結びついてゐたからである。北伐が帝國主義列強に對して直接にはなく行はれ、後者が、相互間の競争のために、初期においては幾分消極的であつた限り、民族運動のブルジョアの指導はすでに數年間に亘つて廣東——一定の、制限的とはいへ領土——及び軍隊によつて支持された中央權力等を自己の手に保持したのであるが、——まさにはこの故にこの非常時的情勢においてブルジョア階級の大部分は差當り民族解放戦争を自己の事業として見たのである。かれらがその中で事實上指導的役割を演じたところの國民黨は、暫らくの間民族解放運動を領導した、この事情はその後の事件の過程において革命にとつての最大の危険となつた。他面、支那における情勢の特殊性の一つとして加ふべきは、この國のプロレタリアートがそのブルジョア階級に對する關係において、他の植民地のプロ



レタリアートよりもその力が強いといふ事實である。尤も、その組織化は貧弱である、だが革命的波の昂揚に當つては労働者組織の成長は非常なテンポで行はれる。共産黨はまた短期間に少數グループから六〇〇〇名(その後はもつと多く)の黨員と労働者間での廣汎な影響力とを有する黨に成長した。勿論、その際黨には多くの小ブルジョア分子も流れこんだ。黨は革命的経験も、更にそれ以上ポリシエヴィキ的傳統も足らなかつた。その指導部には初めは、小ブルジョアの日和見主義的傳統から未だ、非常に少ししか離脱してゐない、共産黨の独立的任務と役割とを不充分にしか理解してゐない、農業革命のあらゆる斷乎たる展開に反対した、動搖分子が頭をもたげてゐた。民族革命の指導黨——國民黨への暫時の共産主義者の加入はそれ自體戰鬪情勢の要求に照應したものであり、且つ、この黨に率ゐられたかなり廣汎な勤勞大衆の間での必要な共産主義的活動の利益に應じたものであつた。加ふるに始め中國共産黨は、國民黨政府の支配下にある領土において、労働者農民大衆の間及び國民黨革命軍の兵士とその諸組織との間で独立的な煽動を行ふ可能性を有した。黨には當時、それが事實上利用した以上に多くの可能性があつた。その當時黨は、孫文主義やその他の小ブルジョアの流派と異なる自己のプロレタリア的革命的階級的立場を大衆に説明することが餘り充分ではなかつた。國民黨の陣列内では共産主義者は、プロレタリアの必要性があるにしてもブルジョアの分子に對し無條件に批判的態度を取り常に独立的勢力として行動しなければならぬことを忘れ、非獨立的政策を行つた。共産主義者は、民族ブルジョアジー、ブルジョア民主主義的民族主義の動搖を暴露することを放棄した。しかるにこの暴露は第一段階においては共産黨の最主要任務の一つとならねばならなかつた。國民黨の不可避的分裂は國民黨革命軍の前進につれて近づきつゝあつた、だが中共指導部は、分裂の場合への黨の準備のために、獨立的立場の確保のために、自らを國民黨の指導部に對立せしむべき獨立的戰鬪的プロレタリアへの革命的労働者農民の團結のために、何らの乃至殆ど何らの方策を講じなかつた。

かくて、蒋介石のブルジョア反革命的クーデターは革命的プロレタリアートを全く無準備のまゝに襲撃し、かれらの陣列に困亂を起した。だが共産黨の指導部は、當時になつてもまだ一段階から他の段階への革命の移行の過程をよく理解せず、このクーデターに應じたる黨の正しいコースを採用しなかつた。國民黨の小ブルジョアの指導者の左翼が、まだ若干の期間共産黨と合作した限り、領土的區分が行はれた。即ち南京政府と武漢政府が発生した。だが共産黨は武漢においても指導的地位を占めてゐなかつた。まもなく武漢區域においては第二の時期が始つた。この時期の特徴は、特に、一方では、生れつつある、だが未だ明確には形成されてゐない二重政權の存在(農村における幾多の權力機能の農民同盟による奪取、權力諸問題を「平民的」自主的に解決せんとする大衆の志向がそうさせた、労働組合の機能の擴大であり、他面——革命を裏切つたブルジョアジーを代表して南京政府に對して未だ革命的闘争は武漢政府が行つた限り、武漢政府に對する蜂起機關としての、ソヴェートを組織するための充分に成熟せる條件が存在しないことである。共産黨は當時革命的大衆の独立的進出を直接阻止した、力の蓄積及び組織の任務をかれらに容易ならしめなかつた、國內及び軍隊内における左翼國民黨指導者とかれらの地位との影響力を切斷することを助成しなかつた、そして政府への自己の参加を以上のために利用しないで、この政府の全活動を蔭蔽した(個々の小ブルジョアの指導的黨員は、武漢における労働者ビケットの武装解除や長紗遠征の裁可にさへ参加するに到つた)。

この日和見主義的政策の根底には、武漢政府の小ブルジョアの指導者との決裂を避けんとする希望が横はつてゐる。だが實際はこの決裂はたゞ暫らくの期間延期されたにすぎぬ。大衆的蜂起が脅威的性質を取るに到つた時、武漢國民黨の指導者はバリケードのかなたにある同類と結合せんとし始めた。革命的労働農民運動は、勝利を獲んがために愈々自己の努力を續けた。現在は中國共産黨も亦自己のコースを訂正し、自己の指導部を選出し、革命の先頭に自己の席を占めた。だが革命の波はすでにひいた。ソヴェートのスローガンの下での英雄的大衆的闘争においては、小なる一時的成功が達成されたにすぎなかつた。たゞ個々の地方においてのみ農業革命の昂揚は相當早くやつて來た、他の地方では數百萬の農民後衛が遅れてや



つて来た。日和見主義的指導部の嘗ての粗雑な誤謬に代つて、現在は、反對に、種々の地方に極めて一時的な一揆的な誤謬が暴露された。蜂起の準備においても共産主義者は多くの失策をまぬかれなかつた。慘澹たる敗北が再び、南方ではすでに發展の第二段階に入つてゐた革命を、この段階の出発點に戻らしめた。

二十七 支那民族ブルジョアが権力への参加を獲得したおかげで、帝國主義者と軍閥との以前のプロツクの構成は部分的に變更された、そして新たな支配プロツクは今や革命の直接の主要敵である。かれを倒すためには、プロレタリアートと農民の決定的大衆を革命の側に獲得する必要がある。この點に近き將來における中國共産黨の最も重要な任務がある。支那労働者はすでに巨大な經驗を獲得した。労働組合運動のより一層の強化、革命化及び共産黨のより一層の牽化が必要である。支那農民の若干の部分はすでにブルジョア民主主義的幻想を棄て、革命的闘争において著しく積極性を表はした。だがこれは支那の巨大な農民人口の極小部分にすぎない。一定のブルジョア民主主義的反対派の態度によつて勤勞大衆への影響を獲得せんがために、若干の小ブルジョア分派が民族改良主義の立場に立つ(國民黨内外において)ことも、大いにあり得る(かゝる小ブルジョアの改良主義者として譚平山や社會民主主義的労働組合指導者がある)。これらの試みの意義は決して過少評價してはならない。正しい共産主義的戦術によつて大衆の面前でかれらを孤立化し暴露することは、共産黨が支那における革命的波の迫り来る新たな昂揚の時機に眞に指導的な地位を占め得んがための絶対必要前提条件である。すでに現在黨は、大衆の中にソヴェートの觀念を、プロレタリアートと農民の獨裁の觀念を日常宣傳し、來るべき大衆的勝利的武装蜂起の不可避性を宣傳しなければならぬ。黨は今やすでにその煽動において支配プロツク打倒の必要を強調し、革命的デモンストレーションに大衆を動員しなければならぬ。成熟し續けてゐる革命の客觀的條件を詳細に考量しつゝ大衆動員のあらゆる可能性を利用しつゝ、黨は國家權力の把握への、蜂起機關としてのソヴェートの組織への、地主の收奪への、外國帝國主義者の驅逐への、かれらの財産沒收へのコースを、徹底的且つ不偏に把持しなければならぬ。

#### 四、共産主義者の當面の任務

中國のブルジョア階級の特徵

二十八 植民地及び半植民地諸國における共産黨の建設と發展、客觀的革命的情勢と主觀的要因の弱さとの間の極端な不一致の除去はコミンテルンの最も重要にして第一義的な任務の一つである。この任務は、これらの國の歴史的發展と社會的構成によつて規制される幾多の客觀的困難にぶつつかる。工業の貧弱な發展に應じて、これらの國の労働階級は未だ若く且つ(その人口に)比較して少數である。植民地制度のテロにも、文盲、言語の多數等も、一般的に労働階級の組織と發展とを、特殊的に共産黨の急速な發展を、困難ならしめる。労働階級内部の流動性、婦人・兒童の高率が、植民地プロレタリアートの特徴である。多くの地方では季節的労働者が支配的である。そしてプロレタリアートの基本部隊はまだ一足は農村に立つてゐる。このことは労働階級と農民との間の聯繫を容易ならしめる、だがプロレタリアートの階級的意識の發達を困難ならしめる。經驗は、大部分の植民地・半植民地諸國では、壓倒的ではないにしても大部分の黨員が運動の初期の段階においては小ブルジョアから、特に革命的氣分を有するインテリゲンチヤ、屢々學生層から形成されることを示した。これらの分子が入黨するのは、黨こそ最も斷乎たる帝國主義の敵であるとするからであり、しかも共産黨が帝國主義的搾取と民族的抑壓とに對する闘争の黨であるばかりでなく、プロレタリアートの黨として、一切の搾取と抑壓とに對する斷乎たる闘争を行ふものであることを、充分に理解しないからであるといふことが、普通である。これらの黨員中の多くのものは革命的闘争の行程においてプロレタリア的階級の見地にまで昂まり、他の部分は終りまで小ブルジョア階級の氣分、動搖、中途半端なイデオロギイから離脱することがむづかしい。これらの黨分子こそは危機において民族ブルジョア階級の役割を正しく評價し、徹底的に何らの動搖なしに農業革命等の問題において行動することが特に困難である。植民地國は社會民主主義的傳統を有しない、だがかれらはマルクス主義的傳統をも有しない。我々の若い黨は、闘争の過程において、黨建設の過程に



においてポリシエヴィキへの道を發見するために「民族主義的小ブルジョアのイデオロギーの殘滓を克服しなければならぬ」。

これらの客觀的困難はコミンテルンをして、植民地・半植民地諸國における黨建設の任務に全く特別の注意を向けさせる。これに關聯して特に大きな責任が帝國主義諸國の共產黨の上に振りかゝる。このためには正しい政治的方針の作成についての助力や、組織と煽動との分野における經驗の詳細な分析ばかりでなく、黨員の系統的教育や、マルクスレーニン主義文獻を相當に出版し種々の植民地國の言語に翻譯することや、植民地・半植民地國の經濟的・社會的問題の研究及びマルクス主義的分析の點での、又黨新聞の創刊等の點での積極的助力が必要となる。植民地・半植民地國における共產黨は、労働階級自體の中から役員部隊を創り出すべく全努力を傾注しなければならぬ。黨員——インテリゲンチヤ——を宣傳サークルや、合法的及び非合法的黨學校の指導者、講師として利用しつゝ、進歩的労働者の中からレーニン主義を以て武装せる煽動者、宣傳者、組織者を教育しなければならぬ。

植民地諸國における共產黨は、その社會的組成の點でも眞のプロレタリア黨とならねばならぬ。共產黨は革命的インテリゲンチヤの最良分子を自らの中に含めつゝ、日常闘争と大規模な革命的闘争の過程において鍛えられつゝ、工場における、鑛山における、運輸労働者の間における、農場の半奴隸の間における黨諸組織の鞏化の任務に主な注意を向けなければならぬ。資本主義がプロレタリアートを集中してゐる所では何處でも、共產黨は自己の細胞を植えつけねばならぬ。即ち、労働者住宅區に、工場労働者の宿舎に、堅固なそして煽動家が這入れないやうにした農場の労働者宿舎に。手工業の職人、徒弟、苦力の間でも活動をないがしろにしてはならぬ。土着労働者と本國の労働者は同一の黨組織に團結しなければならぬ、合法的活動と非合法的活動との正しい結合についてより古い黨が有する經驗は、例へば、支那において起つた事態、即ち巨大な大衆的組織が比較的急速に且つ大なる内部的抵抗なしに反動の強打によつて壊滅せられ、共產黨と大衆との結合を非常に弱

めた如き事態を出来るだけ避けるために種々なる植民地國の情勢に應じて利用されなければならぬ。

二十九 共產黨の進展と同時に、植民地・半植民地における、共產主義者の一般的緊急性任務の中で最も重要なものは労働組合活動でなければならぬ。特に大産業部門(冶金業、鑛山業、運輸、紡織工場等)の非組織労働者の組織、眞の階級的労働組合への現存組織の轉化、組織(組合)の指導権を獲るための民族改良主義的及び反動的組合指導者との闘争、——これらすべて組合活動の任務である。他の範疇の任務は、企業家との闘争において、特に、ストライキの斷乎たる正しい指導において労働者の經濟的利害及び緊切の要求を固守するにある。労働者大衆を抱擁せる反動的組合においては、共產主義者は革命的宣傳活動を行はなければならぬ。情勢が別個の労働組合の創設の必要を命ずる國々においては、(反動的組合指導部が非組織者の組織を妨害し、組合デモクラシーの最も初歩的な要求を破壊し、労働組合をストライキ破り組織に轉化する等のために)、この問題をプロフィンテルンの指導に合致せしむべきである。植民地諸國(支那、印度、北アフリカ)におけるアムステルダム・インタナショナルの奸策を特に注意深く觀察し、大衆の面前にかれらの反動的性格を暴露しなければならぬ。關係「本國」の共產黨は、自己の忠言及び不斷の訓令送付によつて植民地の革命的組合運動に精力的助力を與へなければならぬ。この點については今日まで餘りに僅かしかされてゐない。

三十 農民組織——それが眞に大衆的組織でありさへすれば、その性質が如何なるものであるかは全然問はない——の存する所では、共產黨はこれらの組織への喰込み手段を講ずべきである。黨の最も緊切な任務の一つは、労働階級の陣列内で農業問題を正しく提起すること、農業革命の重要性と決定的役割とを労働階級に説明すること、農民の間での煽動、宣傳及び組織活動方法を黨員に教育することである。各黨組織は自己の活動區域における特別の農業事情を研究し、それに應じて農民の當面の要求を一定の形に纏めなければならぬ。共產主義者は到る處で現存の農民運動に革命的性質を賦與すべく努めなければならぬ。かれらは新たな革命的農民組合をも農民委員會をも組織しなければならぬ。兩者と共產黨との間には正



常な聯繫を保たねばならぬ。農民大衆の中でも、プロレタリアートの陣列の中でもプロレタリアートと農民との戦闘的ブロックのために精力的宣傳を行はなければならぬ。特殊な「労働者—農民黨」は、それが個々の時期に革命的性質を有するにせよ、非常にたやすく普通の小ブルジョア黨に轉化し得る、であるから共産主義者はかやうな黨を組織しない方がいい。共産黨は決して、二つの階級の融合を基礎としては自己の組織を建設することを得ない、それと全く同様に黨は小ブルジョアグループにとつて特徴的なこの基礎の上に他の諸黨を組織することをも亦自己の任務として提起し得ない。労働者と農民大衆との戦闘的ブロックは革命的農民組合又は委員会と労働組合との代表者の、綿密に準備せられ週期的に召集される共同會議の形を取る。即ち一定の情勢下にあつては、労働者農民の組織の活動を共同せしめ、種々なる大衆的行動を率ゐるが如き、革命的行動委員会の創設は合目的である。あらゆる條件の下で共産黨は、農民運動に對して決定的影響を獲得し、労働者、農民のブロックの組織形態——農民運動指導の任務を非常にたやすからしめ、これらの形態を、蜂起と権力との機關としてのソヴェートに向つて一段と轉化させるための前提條件を創り上げる如き——を發見し適用しなければならぬ。

三十一 植民地諸國ではプロレタリア青年は特にひどい苦難の下にある。植民地諸國の労働階級内部でのかれらの比重は舊資本主義諸國におけるよりも、はるかに高度である。未成年者の擄取はそこでは何ら立法的に制限されない。無制限の労働時間、前代未聞のひどい労働條件、企業家と監督とからの非人間的取扱ひ。農民青年の状態もこれに劣らない。労働青年が植民地諸國の一切の革命運動に積極的に参加してゐるのも、不思議ではない。支那における革命的組織と農民軍の、日本の植民者<sup>コロニアル</sup>に對して闘ひつゝある朝鮮バルチザン部隊の、インドネシアにおける英雄的蜂起の参加者等の大部分はこの青年から成つてゐる。

植民地國における青年コミンテルンの最も緊急な基本的任務は、共産主義的指導下にあるプロレタリア青年の革命的大衆的組織、即ち大衆的共産青年同盟の建設である。その際青年運動の眞に共産主義的指導幹部の教育は、コムソモール組織の大衆的性質及び基本部分におけるプロレタリア的組成と同様に、重要である。同盟の指導機關内のプロレタリア分子を強化しつゝ労働青年と同時に、學生及び農民青年の最良の、献身的な革命的分子をひきつけることが合目的である。非プロレタリア層の青年を共産青年同盟に大衆的にひきつけることは、そこに壓倒的プロレタリア的組成と確固たる共産主義的指導とが確保されるに従つてのみ、可能である。

共産黨の全闘争に参加しつゝ、共産青年同盟は労働階級の指導の點での黨の地位に自らを立てんとする志向(所謂「前衛主義的」傾向)をも、青年共産運動の必要の否定や共産青年同盟の意義を學生的又は一般的無形的青年組織に歸着せしむることに表はれる、獨特の清算派的氣分をも、避けなければならぬ。

植民地の共産青年同盟は、労働者、農民青年、學生層中革命分子を獲得し、かれらを民族改良主義及び似而非革命的流派の影響下からひきはなすために、共産青年同盟の副次的、補助的、合法的組織體系を利用し、それらを革命的綱領の上に建設し、共産黨と共産青年同盟との手中に指導権を確保しなければならぬ。

共産青年同盟は、既存のかゝる種類の組織の中で活動と、これらの組織を革命的行動にひきつけ、その中で影響力と指導権とを獲得しなければならぬ。これら一切の組織を利用しつゝ、且つ青年勤勞大衆を革命的闘争にひきつけつゝ、共産青年同盟の組織は自己の獨立性を失つたり又は自己の直接的活動を減少させたりしてはならぬ。自己の共産主義的面貌の喪失、この喪失に由來して可能な青年革命運動の指導権の喪失は大なる危険である。それ故に、補助組織を作りつゝ、發展させつゝ、共産青年同盟は自己自體の活動を強め、公然と勤勞青年大衆の面前に進み出、共産青年同盟の陣列内に大衆組織の最良分子をひきつけなければならぬ。これらの組織に屬するものは労働組合と農民組合の青年部、労働青年團、反帝國主義同盟、スポーツ團、學生地方同盟等である。

コミンテルン第六回大會は植民地諸國の一切の共産黨に對し、共産青年運動の創設と發展とを極力助長すること、又労働



青年の利害の無視や被搾取未成年者の生活改善要求闘争への参加拒否に表はれる、労働階級内部や労働組合内部の一切の偏向と後れた見解とに對して闘ふことを、義務づける。

三十二 植民地諸國の婦人兒童労働の搾取は特に大規模であり野蠻な形態である。極く僅少の飢餓賃銀、堪え難く長い労働日、若干の地方では農場その他での奴隸的條件下の労働のための婦人・兒童の賣買、労働者の家屋における監獄的生活、虐使と嘲弄——これがかれらの労働條件である。同時にブルジョアジーや、相當の資金を有する傳道師がプロレタリア婦人の間で廣汎な反動的活動を行ふ。だが絶望するに到つた植民地婦人は次第に階級的自意識にまで覺醒し、革命的道に進み出、闘争しつゝある植民地プロレタリアートの陣列に斷乎として且つ大膽に加はる。これを證するものは特に、支那勤勞婦人の革命的諸事件への自己犠牲的参加である。(婦人の大衆的ストライキ、個々の婦人労働者の英雄主義、パルチザン部隊への農婦の加入) 植民地・半植民地の共産黨は、これらの勤勞層の内での、特に婦人労働の支配的な企業での活動に大いに注意を拂ひ、體系的に婦人を労働組合にひきつけ、かれらの中の最良の分子を共産黨に獲得しなければならぬ。敵對的組織の影響に對して闘ひつゝ、黨は、口及び筆の、合法的及び非合法的の煽動、宣傳の全手段を用ひて、勤勞婦人を獲得しなければならぬ。

これらの一般的任務の外に、個々の植民地の共産黨は、各國の社會經濟的構成と政治的情勢との特殊性から生ずる一聯の特別任務をも有する。本大會は、行動の具體的計劃における任務の總體の作成は各國共産黨に委せつゝ、なほこれらの當面の任務の中の若干の重要なものを以下に指示する。

三十三 支那においては革命の迫り来る昂揚は、新たに黨の前に、ブルジョア民主主義革命の完成への及び帝國主義者、地主及び民族ブルジョアジーの權力、國民黨權力の打倒への唯一の道としての、武装蜂起の準備及び實行を、——當面の、實踐的任務として提起する。根本的には支那人民の廣汎な大衆の革命的昂揚がないことを以て特徴とする、現在の情勢にあ

つては。黨の一般方針は大衆獲得の闘争である。反帝國主義運動が強まり、ストライキ闘争及び繼續してゐる農民運動が若干活潑となつてゐる情勢下でこの方針を實行するには、黨は、全力を緊張させて黨の基本的スローガンの周圍にプロレタリアートを結束し、蒐合し、統一し、革命的労働組合、農民組合の鞏化について大なる組織的活動を行ひ、プロレタリアート。農民の大衆内での日常の經濟的・政治的活動の實行に最大限に適應し、革命の現時期の經驗をプロレタリアートに説明する活動を懸命に行はなければならぬ。同時に黨は、國民黨權力と軍閥との打倒及びソヴェート權力の樹立なしには大衆の地位の急進的改良が不可能であり、帝國主義者の支配打倒と農業革命の任務の解決とが不可能であることを、大衆に説明しなければならぬ。

黨は、工場における労働者と資本家との間の、農村における農民と地主との間の、軍隊における兵士と士官との間の、一つ一つの、たとひ取るに足ら程の、衝突でも利用し、廣汎な労働者・農民大衆の動員及び自己の側への獲得のために、これらの階級的衝突を深め激化しなければならぬ。黨は、現在個々の地方の軍事的奪取の性質を取りつゝある支那民衆に對する國際帝國主義の暴力、並びに猛り狂つた反動のあらゆる血のしたゝる襲撃を、支配階級に對する大衆的人民抗議の擴大のために利用しなければならぬ。

この大衆獲得闘争の成功如何は、情勢の正しい評價の上に基礎を置いた戦術がどれだけ適用され得るか、黨内に存した極壓的性質の誤謬と風潮(一揆主義、軍事的冒險主義、個人的テロル等)と國民議會の召集と國民黨による大衆運動の復活との要求に表はれた日和見主義的性質の誤謬とがどれだけ除去され得るかに、懸つてゐる。同時に黨は、激しい階級的テロルの下にあつて甚だ重大な危険たる黨と大衆との分離を強めるところの、大衆説得・教育の方法の代りに強制、命令、指令の方法を取る一切の傾向を、克服しなければならぬ。

黨内部の活動分野においては、黨は反動によつて破壊された細胞と地方黨委員會とを復活し、黨の社會的組成を改良した



ければならぬ。而してその際に最重要生産部内、大工場、鐵道工場における黨細胞建設に特別の注意を集中しなければならぬ。中國共產黨は又農村組織の社會的組成の調整に大いに注意を向け、これらの組織が根本において農村のプロレタリア的、半プロレタリア的及び貧農分子から成るやうにしなければならぬ。民主主義的集權主義の原則の實行、非合法的活動條件が許す限り、黨内デモクラシーの確保、諸問題の集會的審議決定への移行、同時に——若干の組織に見られる、黨規律の破壊に對する、無責任の増大に對する指導的黨中央部の權威の破壊を齎らす超民主主義的傾向に對する闘争。

黨員の理論的教育、かれらの政治的水準を高める活動を強化すること、マルクス主義、レーニン主義の體系的宣傳の組織、支那革命の過去の段階(武漢時代、廣東蜂起等)の經驗と教訓との研究。ブルジョア地主反革命の道具たる「第三」黨(譚平山、汪精衛の黨)に對しては、中國共產黨の任務は、かれらに對し決定的闘争を行ふこと、支配階級の代理人としてのこれらの黨の民族改良主義的活動を反帝國主義的大衆的運動の實踐に基づいて暴露することに歸着する。

- (一) 帝國主義者の支配の絶滅
- (二) 外國企業と銀行の没收
- (三) 國の統一と各民族自決權の承認
- (四) 軍閥と國民黨の權力の打倒
- (五) 勞働者、農民、兵士、代議員のソヴェート權力の樹立
- (六) 八時間勞働日、賃銀の値上、失業者への扶助及び社會保險
- (七) 全地主土地の沒收、土地は——農民と兵士に
- (八) 一切の政府、軍閥、地方の租税、公課の廢止、單一累進所得税

(九) ソ聯及び世界プロレタリア運動との同盟

三十四 印度共產主義者の根本任務は——國の解放のため、一切の封建主義殘存物の絶滅及び農業(革命)のため、ソヴェート共和國の形態におけるプロレタリアート農民獨裁樹立のための、英國帝國主義に對する闘争にある。これらの任務は、勞働階級、農民及び一切の勤勞者の廣汎な大衆の先頭に立ち封建的帝國主義的プロツクに對する武装蜂起に向つてかれらを指導し得る強力な共產黨が創られる場合にのみ、成就されるであらう。

現在展開されつゝある印度プロレタリアートのストライキ運動、ブルジョア民族主義からのその獨立、この運動の全印度的性質、殆どあらゆる生産分野へのこの運動の傳播、ストライキの頻發と長期性、勞働者がストライキの實行に當つて示す頑強さと最大の決意、勞働者自體の中からのストライキ指導者の推選、——すべてこれは印度プロレタリアートの闘争史における轉換點を意味し、大衆的共產黨創立にとつての必要な前提が、印度において成熟したことを示す。國內に散在する一切の共產主義がループと個々の共產主義者を、單一の、非合法的な、獨立の且つ中央集權的な黨に集結することが、印度共產主義者の第一の任務である。二階級の基礎に立つ黨建設の原則を排しつゝ、共產主義者は、結束せる、頑強なる、マルクス主義の理論になつて武装された共產黨の存在なしには、プロレタリアートのヘゲモニーが實現され得ないことを銘記しつゝ、現在の勞農諸黨と勤勞大衆との結合を自己の黨の鞏固のために利用しなければならぬ。共產黨の煽動は勞働者の緊急の要求のための闘争に結びついてゐなければならぬ、同時に共產黨が提起する一般的目的及び黨が目的達成のために適用する方法を勞働者に説明しなければならぬ。勞働運動に、ストライキと政治的行動との組織及び實行に積極的に、参加すべき企業細胞を建設しなければならぬ。共產主義組織は、勞働者の中から指導的黨員を形成することに特別の注意を當初から拂はなければならない。

勞働組合においては印度共產主義者は、民族改良主義指導者を無慈悲に暴露し、プロレタリアートの眞の階級的組織に勞



働組合を轉化させるため且つ労働大衆の鍛錬された革命的な代表者によつて現在の改良主義指導部を入れ替へるために、斷乎たる闘争を行はねばならぬ。労働者と企業との間の「公平な」裁判官として英國帝國主義の代表者に依頼して紛争を解決せんとする改良主義者の好んで用ひる方法を、特に暴露しなければならぬ。この闘争においては労働組合デモクラシー、組合機關の労働者化等の要求を提起しなければならぬ。共産主義分派並びに共産主義者及びその同情者から成るグループは、労働組合における黨活動のための支柱點とならねばならぬ。非組織労働者を組織するために、現在のストライキの波を利用しなければならぬ。鑛夫と金屬労働者、農場に働らく苦力と一般に農業労働者は、印度プロレタリアートの最も組織されてゐない部隊である、共産主義者はかれらに必要な注意を向けなければならない。

共産主義者は、印度國民議會の民族改良主義を暴露し、消極的反抗に關するスワラヂイストやガンディー一派等のあらゆる言辭に對し、國を解放し帝國主義者を驅逐するための武装蜂起といふ非妥協的スローガンを對立させねばならぬ。

農民と農民組織に對しては、印度共産主義者は、先づ第一に農業問題における黨の一般的要求を廣汎な農民層に知悉すべき任務を有する。そのために黨は農業行動綱領を作らなければならない。農村と結びついた労働者を通じて、又は直接に共産主義者は部分的要求のための農民の闘争を刺戟し、闘争の過程において農民組合を組織しなければならない。新たに建設された農民組織が農村の搾取層の影響下に陥らぬやうに特に警戒しなければならない。現在の農民組織には具體的要求をかゝけた明確な綱領を與へ、都市における労働者のデモンストレーションによつて農民の行動を支持しなければならない。

如何なる情勢下にあるとも共産主義者は、かれらの活動する大衆組織の指導部の日和見主義的・改良主義的戰術の公然の批判の權利を護つてはならないことを、銘記すべきである。

三十五 インドネシアにおいては(一九二六年の蜂起の壊滅、わが黨員數千名の逮捕と流刑はその陣營をひどく破壊した。壊滅の黨組織を復活する必要は、黨に、オランダ帝國主義の警察制度によつて創り上げられた非合法的條件に照應する新た

な活動方法を要求する。都市農村プロレタリアートの集合地點への工場、農場への黨の全活動の重心の移動、解散させられた労働組合の復活、それらの合法化のための闘争、農民の部分的實際的要求への特別の注意、農民組織の發展と鞏化、共産黨が其處でフラクションを形成し、かれらの周圍に民族革命の分子を集集すべき一切の大衆的組織における活動、政府の支持を利用しつゝ、土着プロレタリアートの中に基地を獲得せんと試みつゝあるオランダ社會民主主義者に對する斷乎たる闘争、多數の支那労働者を階級闘争と民族革命闘争とにひきつけること、支那、印度における共産主義運動と聯絡をとること——これがインドネシア共産黨の最重要任務の若干である。

三十六 朝鮮においては共産主義者は、プロレタリアート陣列内での活動を強化し、且つ労働者農民聯盟の積極性の全面的向上及び組織鞏化のために労働組合を再組織し、労働組合によつて労働階級最重要層を獲得し、政治的要求をかゝけた經濟闘争を展開しなければならぬ。同時にこれらの組織は、國の民族的解放の要求を、強盜的植民制度の下に増大しゆく農民の貧窮化の結果ますます現實的な意義を獲得しつゝある農業革命のスローガンと、固く結びつけなければならない。大規模な宗教的民族同盟(天道教等)に屬する労働大衆の中で、盛んに革命的啓蒙的活動を行ひ、かれらを民族改良主義指導者からひき離さなければならぬ。一切の現存の革命的大衆的組織において、共産主義的影響力が牽められなければならない。個人的資格を基礎とする單一民族革命黨の建設を試みる代りに、共同行動委員會を作つて種々の民族革命組織の行動を協同統一し、プロレタリア的共産主義的指導の下に革命的分子の事實上のプロットをうちたてることに努むべきである。その際小ブル的民族主義者の中途半端性と動搖とを批判し、大衆の面前はたえず彼等を暴露しなければならぬ。共産黨には新たな勢力を、特に工業労働者の間から、ひきつけなければならない。このことは、黨のポリシエウイキ的發展の最良の保證であり、特にその陣列における有害な分派的精神の絶對に必要な除去を容易ならしむるものであらう。

三十七 エジプトにおいては、共産黨は組織プロレタリアートに依據する場合にのみ、民族運動において重要な役割を演



するであらう。エジプト労働者の労働組合の組織、階級闘争の強化及びその指導は、それ故に共産黨の第一義的な最重要な任務である。現在エジプト労働運動にとつて最大の危険は、ブルジョア民族主義者による組合労働者の獲得である。かれらの影響との断乎たる闘争なしには、労働者の眞の階級的組織は不可能である。過去におけるエジプト共産主義者の本質的缺陷の一つは、かれらが都市労働者の間でのみ活動したことにあつた。農業問題の正しい設定、農業労働者農民の廣汎な大衆を革命的闘争に全力を盡してひきつけること、及びかれらの組織——これが黨の重要任務の一である。未だ非常に弱い黨自體の建設は特別の注意を向けなければならぬ。

三十八 北アフリカのフランス植民地においては共産主義者は、一切の現存の民族革命的大衆的組織の中で働らき、労働者、農民の戰闘的プロツクの徹底の方針と明確な政綱との上に立つて、これらの組織の中に眞の革命的分子を結合しなければならぬ。「エトアル・ノルド・アフリカン」團體については、共産主義者は、それを黨の形においてではなく、工業・農業労働者の一切の労働組合、農民組合等を集合的に結合する諸革命的組織の戰闘的プロツクの形において、これが發展を達成しなければならぬ。その際革命的プロレタリアートの指導的役割を確保しなければならぬ、そしてそのために特に、共産主義的影響のための最重要な組織された大衆的基地としての、労働運動を展開しなければならぬ。白人プロレタリアートの革命的部分と土着労働階級との益々緊密な協働が、我々の不斷の任務でなければならぬ。農業問題においては、フランス帝國主義の行ふ搾取政策によつて眼覚まされた農村住民の増大しゆく憎惡を、合目的に組織された闘争の軌道に導き得なければならぬ(農業労働者のストライキの最良の組織、アルジールにおける農業労働者の組合の鞏化等)。各個々の國における共産主義組織は、先づ第一に土着労働者を自己の陣列にひきつけ、かれらに對する蔑視的取扱と闘はねばならぬ。土着プロレタリアートに眞に依據せる共産黨は、形成的にも實質的にもコミンテルンの獨立的な支部とならねばならぬ。

三十九 植民地問題と並んで第六回大會は、黑人問題に共産黨の特別の注意を向ける。諸々の國における黑人の地位は夫

々異つてゐる。だから具體的研究と分析とが必要である。一般的に、ネグロ大衆が集つてゐる地域は次の群に分ち得る。

- (一) 合衆國と若干の南米諸國、そこでは黒人大衆は白人住民に比し少數である。
- (二) 南アフリカ聯邦、そこでは黒人は白人植民者に比し多數である。
- (三) 事實上帝國主義の植民地・半植民地たる黒人國家(リベリヤ、ガイチ、サン・ドミンゴ)。
- (四) 種々なる帝國主義諸國(英、佛、葡等)の植民地及び委任統治領たる全中央アフリカ。

具體的情況に應じて黨の任務も規定すべきである。合衆國には約千二百萬の黒人が住む。かれらの大部分は小作人であつて、現物地代を支拂ひ、半植民地的・半農奴的條件下に住む。これらの小作人の地位は、農業労働者のそれと同様に、立法上は廢止された奴隸制と只形式的に異なるのみ、地主、商人、高利貸を一身に兼ね具へ、黒人のリンチとか、獨特の定住政策とかその他アメリカ・ブルジョア民主主義の方法を適用してゐる。白人地主は、奴隸所有時代の最惡の搾取形態を再生産する。南部の工業化のおかげで、すでに黒人プロレタリアートが發生し始めてゐる。同時に益々急速なテンポで黒人の北部移住が續けられてゐる、そこでは大多數の黒人が不熟練労働者に轉化する。黒人プロレタリアートの増大は——最近の最重要現象である。だが同時に黒人區域に小ブルジョアジーが生れ、そこからインテリゲンチヤと、帝國主義の代辨者たるブルジョアジーの少數層とが出來てゐる。

共産黨の最重要任務の一は、黒人の完全な、事實上の同權のため、一切の人種的、社會的、政治的不平等の廢止のための闘争に存する。共産黨は白人シヨヴィニズムの一切のあらはれに對し最も精力的な闘争を行ひ、リンチに對する積極的反抗を組織し、黒人プロレタリア間での活動を強化し、黒人労働者の最も意識的な分子を自己陣列にひきつけ、白人労働者のあらゆる組織、特に、労働組合への黒人労働者の獲得のために闘ひ(このことは必要な場合には、かれらを別個の労働組合に組織することを妨げない)、南部の農民及び農業労働者大衆を組織し、ガルヴェイズムの如き、小ブルジョアの流派の空想的



反動的性質を説明しつつ、黒人小ブルジョア大衆の中で活動し、労働階級と農民とに對するこれらの流派の影響に抗して闘争しなければならぬ。黒人大衆の密集せる南部地方では、黒人のための自決權のスローガンを掲げなければならぬ。南部諸州の農業構成の急進的改造は、革命の基本的任務の一である。黒人共産主義者は、黒人労働者農民に向つて、かれらと白人プロレタリアートとの緊密な同盟及びアメリカ・ブルジョアジーに對するかれらの共同闘争のみが、かれらを野蠻な搾取から解放せしむることが出来、プロレタリア革命の成功のみが國內の黒人住民の歴史的な大衆のために合衆國南部における農業及び民族問題を總體的に確實に解決するであらうことを、説明しなければならない。

南アフリカ聯邦では、住民の大多數を成す黒人大衆は、その土地を白人植民者と國家から收奪され、政治的權利、自由な移住の權利を奪はれ、極めて野蠻な形式の人種的階級的抑壓にさらされ、同時に先資本主義的、資本主義的搾取、抑壓様式の重壓の下にある。すでに黒人プロレタリアートの間である程度の成功を収めた共産黨は、益々精力的に黒人の完全な同權のために、黒人に對する一切の特別手段と法律との廢止のために、地主土地の沒收のために益々精力的に闘争しなければならぬ。黒人労働者を自己の組織にひき入れつつ、かれらを労働組合に組織しつつ、白人労働者の組合への黒人の獲得のために闘ひつつ、黨は極力白人労働者の陣列内の一切の人種的偏見に對して闘ひ、自己自身の陣列内に存するそれを根絶しなければならぬ。黨は、白人少数派の權利の同時的確保を條件とする獨立土着共和国建設のスローガンを斷乎として且つ首尾一貫して提起し事實上その實現のために闘はねばならぬ。資本主義的關係の發展が人種的構成を破壊するにつれて、黨は、黒人住民の被搾取者層の階級意識を高めるための教育活動を強化し、益々帝國主義の代辨者となりつつある人種の搾取者層の影響下からかれらを引きはなすことを助成しなければならぬ。

帝國主義の中央アフリカ植民地においては植民地搾取は、奴隸所有者的、封建的、資本主義的搾取様式を結合しつつ、最悪の形態を取つてゐる。戦後帝國主義本國の資本は、アフリカ植民地に益々盛んに流れ込み、農場、鑛業企業等における收奪されプロレタリア化された住民の著しい集中を助長した。大會は、夫々關係本國の共産黨に對し、これらの植民地の大衆運動に對するその無關心を棄て、本國並びに植民地自體においてこれらの運動に精力的支持を與ふことをその義務となし同時に帝國主義の血のしたたる進出を暴露し、帝國主義によつて最も無慈悲に搾取されてゐるこれら植民地の發生しつつあるプロレタリア分子との組織的聯繫の可能性をつくりだすために、これらの國々の状態を注意深く研究することを、その義務として課する。

四十 ラテン・アメリカにおいては共産主義者は、地主制度と帝國主義とに抗す革命的大衆運動に、日常積極的に参加しなければならぬ。たとひこの運動がまだ小ブルジョアジーの指導下にあるにしても同様である。その際共産黨は、如何なる條件下にあるとも、自己の可能なる一時的同盟者に對して政治的に屈從してはならない。革命運動におけるヘゲモニーのために闘ひつつ、共産黨は、先づ第一に自己の黨の政治的・組織的獨立に向つて進み、それをプロレタリアートの指導黨に轉化することを達成しなければならない。その煽動において共産黨は次のスローガンを特に強調しなければならない。

- (一) 大農場とラチフンヂウムとの無償沒收、その一部分を集團的耕作のために農業労働者に移譲し、他の二部分を農民、借地人、移民の間に分配すること
- (二) 外國企業(炭坑、工業企業、銀行等)及び民族ブルジョアジーと大土地所有者との大企業の沒收
- (三) 國債の破棄と帝國主義の側からする國に對する一切の統制の廢止
- (四) 八時間労働日の實施と半奴隸的労働條件の撤廢
- (五) 労働者、農民の武装と、勞農民軍への軍隊の轉化
- (六) 大地主と教會との階級的支配の代りに、勞、農、兵ツヴェイト權力の樹立。小ブルジョアジーの軍事的獨裁のいはゆる「革命」政府に對抗して、勞、農、政府のスローガンが共産主義的煽動における中心的地位を占めなければならない。



これらの國々における全革命運動の成功の基本的前提は、共産黨のイデオロギイ的、組織的鞏化に、黨と勤勞大衆及び大衆組織との結合に存する。共産黨は、倦まずたゆまず、工業労働者、特に帝國主義所有の大規模企業の労働者を階級的労働組合へ組織することに、かれらの政治的、階級的意識の水準を高めることに、改良主義的、アナルコサンチカリスト的、同業組合的イデオロギイを根絶することに努めなければならぬ。同時に農民、借地人、移民を農民組合に組織するを要する。共産主義フラクションは、反帝同盟において活動し、その支部擴大に努むべきである。労働者農民の一切の革命的大衆組織、特にラテン・アメリカ諸國の共産黨が最も緊密に相互的協働をなすこと、これらの組織と關係國際組織並びに合衆國の革命的プロレタリアートとが聯絡を保つたか大切である。

四十一 植民地問題における帝國主義諸國の共産黨の當面の任務は、三重の性質を有する。第一に、共産黨と、一方、本國の革命的労働組合組織、他方、植民地の夫々の革命的組織との間の積極的連繫の樹立。今日までに本國の共産黨と夫々の植民地國の革命運動との間に結ばれた連繫は、少數の場合を除いて、充分だとは考へられない。この事實はほんの部分的には客觀的困難によつて説明され得る。必ずしもコミンテルンのすべての黨は、植民地の革命運動に積極的支持を與へ直接的實際的に援助を與へるためにこれらの運動との緊密な、正常な、不斷の結合をはかることが、如何に決定的な、意義を有するかを完全に理解してはゐないことを認めなければならぬ。帝國主義諸國の共産黨が植民地における革命運動に實際に實踐的援助を與へる限りでのみ、かれらの支持が帝國主義に對する當該植民地國の闘争を本當に容易ならしむる限りでのみ植民地問題におけるかれらの立場は眞にポリシエヴィキ的であると認められ得る。こゝに——かれらの革命的行動一般の標準がある。

第二のカテゴリー任務は、プロレタリアートの大衆的行動其他活潑な行動を組織して、植民地人民の反帝闘争を眞に支持することに存する。この領域においても最大資本主義諸國の共産黨の積極性は不充分であつた。かゝる連帶活動を準備し組

織することは、無條件に、資本主義諸國の労働大衆の間での共産主義的煽動の基本的要素の一つとならなければならぬ。共産主義者は、その有する一切の煽動手段(新聞、公然のデモ、議會演壇)によつて、資本主義的植民地制度の眞の強奪的性質を暴露し、植民地體制は文明と一般的進化との事業であるとなす偽瞞の網を無慈悲に破らなければならぬ。この分野における特殊任務は、帝國主義的膨脹と植民地人民隷屬化との點で最も積極的な支柱たる傳導組織に對する闘争である。

共産主義者は、植民地人民の完全な國家的獨立と主權との無條件的無留保的要求に基いて、資本主義諸國の廣汎な勞農大衆を動員しなければならない。植民地蜂起への鮮血したる壓迫との、民族革命に對する帝國主義者の武装干渉との、帝國主義の軍事的侵略、新たな武装占領との闘争は、國際プロレタリアートに、體系的、組織的、自己犠牲的闘争を要求する。資本主義諸國のどのコミンテルン支部も、世界帝國主義の不斷の進攻に對し支那革命を眞に擁護するために大衆を充分に動員し得なかつた事實から、一切の教訓をひき出すべきである。世界戦争の準備、「鎮撫」の目的を以てする「自國の」植民地人民に對する帝國主義者の攻撃は、植民地革命の積極的支持の任務を、資本主義諸國のプロレタリアートの注意と闘争との中心たらしめる。

被抑壓國からの帝國主義の武装勢力の即時撤退の達成に努めつゝ共産黨は、植民地への軍隊と裝具との輸送を妨害するた

めの大衆的行動を組織すべく、うますたゆまず活動しなければならぬ。植民地の蜂起大衆との交驛のための軍隊内部での體

系的煽動、組織活動は、勞農革命及びその武装勢力の側への占領軍の移行を準備しなければならぬ。社會民主主義の植民政策に對する闘争を、共産黨は、帝國主義に對するその闘争の有機的構成部分であると観なければならぬ。第二インターナショナルは、その最近のブリュッセル大會において、植民地問題に關する自己の立場を通じて、戦後に帝國主義諸國の諸々の社會黨の實踐的活動がすではつきりと表明した所のもの、最終的に確認した。社會民主主義の植民政策は、植民地人民搾取と抑壓とについて帝國主義を積極的に支持する政策である。この政策は、一つの觀點を正式に採



用したものである。その観點とは、「國際聯盟」の組織の基礎であり、資本主義諸國の支配階級がよつて以て地球の大多數の人民の上に君臨し、これらの人民を搾取と隷屬との慘酷な制度に従はせる「權利」を有するところの、観點である。勞働階級の一部を僞瞞し、かれを強盜的植民地制度維持の事業における協力者たらしめるために、社會民主主義は、植民地における帝國主義の最も破廉恥な最も不快なる進出を擁護する。かれは、資本主義的植民地制度の眞實の内容を蔭蔽し植民政策と、萬國のプロレタリアート及び動勞大衆を脅威する新帝國主義戰爭の危険との間の關聯を、黙殺する。植民地人民の憤激が帝國主義に對する解放闘争に燃え上る所では、社會民主主義は實際上、自己の僞瞞的言辭にも拘らず、常に帝國主義的革命絞殺者の側に立つ。最近一切の資本主義國の社會黨は、自由のために闘ひつゝある植民地人民に對する戰爭の實行のためにこれらの國々の政府が要求せるクレヂットに賛成し（モロッコ、シリヤ、インドネシア）、自ら植民地遠征に直接参加し（フランス社會主義者は、帝國主義諸政府の任命により植民地の縣知事となり、ベルギーの社會黨協同組合は、コンゴ州の黒人住民の搾取のための植民地企業に参加してゐる）、かれらは植民地蜂起の最も慘酷な鎮壓手段を承認する（英國勞働黨指導者による支那における干渉の擁護、インドネシアにおける蜂起鎮壓のためのオランダ社會黨の行動）。資本主義的植民地制度が改良され「良き植民地制度」に轉化され得るかの如く主張する社會民主主義理論は、社會民主主義者がその下にかくれて自己の眞の社會帝國主義的面貌を蔭蔽せんと試みるマスクである。共產主義者は、かれらからこのマスクをもぎ取り、帝國主義諸國の動勞大衆に、社會黨が——帝國主義植民政策の参加者であり直接の協力者であることを、かれらがこの領域において極めて破廉恥に自己の社會主義的綱領を裏切つたことを、かれらは本國及び植民地における強奪的帝國主義の代辨者となつたことを示さねばならぬ。

共產主義者は、資本主義諸政府の助力を得て植民地における自己の影響力を擴大し、そこに支部と組織とを植えつげんと試みる社會民主主義の一切の試圖に、最大限の注意を拂はなければならぬ、これらの試みは、一定の土着層の買収によつて植民地における自己の立場を鞏化する目的を有する一部の帝國主義植民者の政策に合致する。若干の植民地の特殊條件は、この政策の若干の成功を助け、これらの國々における改良主義運動を一時的に資本主義諸國の社會民主主義の影響下に發達させ得る。共產主義者の任務は——かやうな試みに對して斷乎闘ひ、土着民大衆の面前に社會黨の植民政策を暴露し、かくて、被壓迫植民地人民が帝國主義に對して懐ける當然の憎惡を、社會民主主義的指導者——帝國主義の番犬——に向けるにある。

これら一切の領域において資本主義諸國の共產黨が成功を勝ち得るのは、植民地問題における共產主義的觀點を説明するために、この問題における社會民主主義イデオロギーの一切の殘滓を根絶し、正しいレーニンの方針からの一切の逸脱に打撃を加へるために、自己自身の陣列においても亦強度なプロバガンダを行ふ場合においてのみである。



## 附 ファシズムの進出と労働階級の反ファシズム統一のための闘争におけるコミンテルンの任務

### 一のための闘争におけるコミンテルンの任務

(ディミトロフの報告に基く決議、一九三五年八月二十日採決)

#### 一、ファシズムと労働階級

一 コミンテルン第七回大会は、以下に述べる世界情勢の基本的變化が國際舞臺における階級勢力の配置と世界労働運動の諸任務とを規定することを、確認する。

(イ) ソヴェート國家における社會主義の決定的にして動かし難い勝利、全世界の被搾取者と被壓者との堡壘としてのソ聯邦の威力と役割とを大いに高め、勤勞者をして資本主義的搾取、ブルジョア反動とファシズム反對、平和擁護、人民の自由と獨立獲得のために闘争に奮起せしむる、全世界的意義の勝利。

(ロ) 資本主義史上最大の經濟恐慌、ブルジョアジーが、數千萬の失業者を飢餓と死滅とに運命づけ、勤勞者の生活水準を嘗てなき程度まで引下げて、人民大衆を破滅させることによつて其處から脱しようとした恐慌。一聯の國々における工業生産の増大と財閥の利潤の増大にも拘らず、全體としての世界ブルジョアジーは恐慌及び不況から脱することも、資本主義の矛盾の一層の激化を抑制することも出来なかつた。或國々(フランス、ベルギー等)では恐慌は續いてゐる、他の國々では恐慌は不況の状態に移つた、而して生産が恐慌前の水準を超えた國々(日本、英國)では、新たな經濟的動搖が成熟してゐる。

(ハ) ファシズムの進出、ドイツにおけるファシスト権利掌握、資本主義世界がよつて以て自己の矛盾の迷路からの出口を求めてゐる新たな世界的帝國主義戦争と對ソ聯攻勢との脅威の増大。

(ニ) ファシズムに對するプロレタリアートの勝利は未だ齎らさなかつたが、ブルジョアジーに自己のファシスト獨裁を確立することを妨げたところの、オーストリアとスペインの労働者の反ファシストの武装闘争に發現した政治的危機。一九三四年の二月デモとプロレタリアート總罷業とを以て開始された、フランスにおける強力な反ファシスト運動。

(ホ) 全資本主義世界における勤勞大衆の革命化。これは、ソ聯邦における社會主義の勝利と世界經濟恐慌との影響をうけて、更に又、ヨーロッパの中央ドイツ、並びにオーストリアとスペインにおける組織労働者の大部分が社會民主主義を支持した國々における、プロレタリアートの一時的敗北の教訓に基いて、發生した。國際労働階級内には行動統一への盛んな氣運が生じつゝある。植民地諸國には革命運動が、支那にはソヴェート革命が擴大しつゝある。世界的規模における階級勢力の相互關係は、愈々革命勢力成長へと變移しつゝある。

この情勢下に、支配的ブルジョアジーは愈々その救済をファシズムに、金融資本の最も反動的な、最も排外愛國主義的な最も帝國主義的な分子の公然且つテロリスト的獨裁の樹立に求め、以て勤勞者に對する極端なる掠奪的方策を實現し、強資的帝國主義戦争を準備し、ソヴェート聯邦を攻撃し、支那を隸屬、分割し、これらすべてを基礎として革命を防止せんとする。金融資本は、そのファシスト代理人の手を借りて、小ブルジョア大衆の反資本主義の憤懣を抑制せんと努めてゐる。これらファシストは、自己のスローガンを、これらの層の氣分にデマゴグ的に適合させてゐる。かくしてファシズムは、大衆的地盤を創り出しつゝ又これらの層をアンチ労働階級の反動的勢力として方向づけつゝ、更に一層全勤勞者を金融資本に隸屬させようとしてゐる。一聯の國々ではファシズムはすでに政權を握つてゐる。だがファシズムの成長とその勝利とは、社會民主主義とブルジョアジーとの階級協調の分裂政策の結果組織を破壊された労働階級の弱さを證するばかりでなく、労働階級の闘争の統一實現に對し、革命に對し、恐怖を感じ、自己の獨裁をブルジョア民主主義の舊方法によつてはもはや維持し得なくなつたところの、ブルジョアジー自體の弱さを物語るものである。



二 ファシズムの最も反動的な變種——これはドイツ型のファシズムである。かれは厚顔にも國民社會主義と自稱してゐるが、社會主義とも、ドイツ人民の眞の國民的利害とも何ら共通なるものを有しないのであつて、専ら大ブルジョアジーの下僕の役割を演じてをり、ブルジョア國民主義であるばかりでなく、野獸の如き排外愛國主義なのである。

ファシズムの勝利の暁に人民大衆を待つものは何であるかを、ファシスト獨逸は全世界の面前に明示してゐる。狂暴なるファシスト権力は、牢獄と強制收容所において労働階級の華たる、その指導者と組織者とを撲滅しつゝある。ファシスト獨逸は労働組合を、協同組合を、一切の労働者合法組織を、その他一切の非ファシスト的政治・文化團體を破壊した。かれは労働者からかれらの利益擁護の基本的権利を剝奪した。かれは、文化國を、暗黒、野蠻、戦争の根源地と化した。ドイツ・ファシズムは、新帝國主義戦争の主要な點火者であり、國際的、反革命の鐵拳としての行動を取つてゐる。

三 全資本主義諸國におけるファシズムの脅威の増大を強調しつゝ、コミンテルン第七回大會はファシスト危険の如何なる過少評價に對しても警告する。大會は又ファシズムの勝利の不可避性に關する宿命論的諸見解をも排撃する。これらの見解は根本的に誤つて、只受身的態度を生じ、ファシズムに對する大衆闘争を弱め得るのみ、もし労働階級がその闘争の統一を實現し得、適時その闘争行動を展開しつゝ、ファシズムをして鞏化せしめないならば、又、正しい革命的指導の下に都市農村の廣汎な勤勞層を自らの圍りに結集し得るならば、労働階級はファシズムの勝利を妨害し得る。

四 ファシズムの勝利は鞏固ではない。ファシスト獨裁が労働運動に對して加へた非常に困難にも拘らず、ファシスト権利の下でブルジョアジーの支配の基礎が一層動搖しつゝある。ブルジョアジーの陣營内の内部的軋轢は特に激化しつゝある。大衆の合法主義的幻想は崩潰しつゝある。労働者の革命的憎惡が累積しつゝある。ファシズムの社會的デマゴギーの卑劣と偽善とが益々暴露しつゝある。ファシズムは、約束した物質的狀態の改善を大衆に齎らさなかつたばかりでなく、勤勞者大衆の生活水準の低下によつて益々資本家の利潤を増大し、一握の財閥による搾取を強化し、資本のために一層の強奪を行つ

た。ファシストにより欺瞞されてゐた都市小ブルジョア層と勤勞農民との幻滅は増大してゐる。ファシズムの大衆的地盤を解體し狭まりつゝある。しかし大會は、ファシスト獨裁の自動的崩潰の危険な幻想に向つて警告を發し、且つ全勤勞者の先頭に立つ労働階級の統一、革命的闘争のみがファシスト獨裁の打倒を齎らすことを注意する。

五 ドイツにおけるファシズムの勝利及びその他の諸國におけるファシスト危険の増大と關聯して、ファシスト・ブルジョアジーに對する決定的反抗に益々以て移行しつゝあるプロレタリアートの階級闘争が激化したし、又激化しつゝある。一切の資本主義國において、資本とファシズムとの進攻に對する統一戦線の運動が發展しつゝある。ドイツにおけるナチスのテロルの狂態は、プロレタリアートの國際統一戦線への最も強力な拍車となつた(ライプツヒの裁判——デイミトロフ及びその他の同志の釋放、カンパニヤ・テールマン等の擁護)

統一戦線運動が今の所わずかにその發展の初期にあるにも拘らず、互ひに手を携へて闘ひつゝあるフランスの共產主義労働者と社會民主主義労働者とは、ファシズムの最初の攻撃を粉碎し、かくて國際的規模における統一戦線の運動への動員的作用を示した。オーストリアとスペインにおける社會民主主義労働者と共產主義労働者との共同武装闘争は、他の諸國の勤勞者に英雄的模範を示したのみならず、もしも右翼のサボターージュと社會民主主義の「左翼」指導者の動搖(スペインにおいては同じく大多数のアナルコリサンチカリスト指導者の公然の裏切)とがなかつたならば、反ファシズムの成功的闘争が完全可能なことを示した。大衆へのかれらの影響力は、プロレタリアートから斷乎たる革命的指導と明瞭な闘争目的とを奪つたのである。

六 第二インタナショナルの指導黨——自己の全政策によつてファシズムの勝利をたやすからしめたドイツ社會民主黨の破産、同じく又ファシズムとの迫りつゝあつた不可避的な武装衝突に直面してさへ廣汎な大衆を闘争から引き離したオーストリアの「左翼」改良主義的社會民主黨の崩壊は、——社會民主黨の政策に對する社會民主主義労働者の失望を非常に強めた。



第二インタナショナルは深刻な危機を味ひつゝある。社会民主主義諸政黨及び第二インタナショナルの内部には、二個の基本的陣營への分化が生じつゝある。即ちブルジョアジーとの階級協調政策を続けることに努めつゝある反動的分子の現存の陣營に並んで、統一的プロレタリア戦線樹立のために行動しつゝあり且つ革命的階級闘争の陣地に益々移行しつゝある革命化された分子の陣營が形成されてゐる。

コミンテルン第七回大會は、共産主義者との統一戦線への社会民主主義労働者の志向を歓迎し、この中にかれらの階級意識の成長と、反ファシズム、反ブルジョアジーの成功的闘争のための労働階級の分裂の克服の端緒を見る。

## 二、反ファシズム労働階級統一戦線

労働階級とその一切の獲得物とに對する、一切の勤勞者とかれらの初歩的權利に對する、人民の平和と自由とに對するファシズムの最大の脅威に直面して、コミンテルン第七回大會は、労働階級闘争統一戦線の實現が現歴史的段階においては國際労働運動の主要な、切實な任務であることを、聲明する。資本の進攻に對する、ブルジョアジーの反動的方策に對する、政治的信念の差異を問ふ所なく一切の權利と自由とを奪はれた全勤勞者の最悪の敵たるファシズムに對する、成功的闘争はあれこれの組織への所屬を問ふところなく、労働階級のあらゆる部分の行動の統一を樹立することを、絶對的に要求する。それは、労働階級の大多数が資本主義打倒及びプロレタリア革命の勝利のための共同闘争政綱の上に結合するに至るまで、行はるべきである。だが正にこの故に、この任務は共産黨をして、變化せる情勢を考量し、統一戦線、戦術を新たに適用し、工場的、地方的、州的、全國的及び國際的規模において各種の政治的傾向を有する勤勞者の組織との共同行動の協定を達成すべきことを、義務づける。

こゝから出發して、コミンテルン第七回大會は各國共産黨に向つて、統一戦線、戦術施行に當り次の如き指示を遵奉すべき

ことを提言す。

一 労働階級の直接的な經濟的・政治的利益の擁護、ファシズムに對する労働階級の擁護が、一切の資本主義國における労働者の統一戦線の出發點であり、主要内容を成さなければならぬ、廣汎な大衆を運動に誘引するためには、大衆の日常要求から、所與の發展段階における大衆の闘争能力の水準から發する如きスローガン及び闘争形態を、掲げなければならぬ。共産主義者は、プロレタリア獨裁のための闘争に呼びかけることに止まらず、大衆は資本主義の掠奪と野蠻とから自己を擁護するためには今日何をなすべきかを、大衆に指示しなければならぬ。共産主義者は労働者組織の共同行動によつて、恐慌の歸結を支配階級の肩に實際に轉嫁することを目指せる要求をかいげその實現のための闘争がファシズムを解體し、帝國主義戦争の準備を困難ならしめ、ブルジョアジーを弱めプロレタリアートの陣地を鞏化するが如き要求をかいぐる綱領の圍りに、大衆を動員しなければならぬ。

労働階級をして情勢の變化に應じて闘争形態と方法とを急速に變化せしめるように準備しつゝ、運動の成長に從つて防禦から資本への攻勢への移行を組織し、その國の基本的労働組合の参加を絶對に確保しつゝ大衆的政治ストライキの組織へのコースを取らなければならぬ。

二 大衆の共産主義的啓蒙、組織、動員についての自己の獨立的活動を一瞬と雖も拒否することなく、共産主義者は、行動の統一への道を労働者にたやすからしめるために、プロレタリアートの階級的敵に對する社会民主黨、改良主義労働組合その他の勤勞者組合との共同行動を、短期又は長期の協定に基いて、達成しなければならぬ。

その際主要な注意は、地方的協定によつて下級組織が行ふところの、地方における大衆的行動の展開に向けられなければならない。

三 統一的プロレタリアート戦線の實現の形態は、労働者組織の状態と性質及び具體的情勢に應じて、多様でなければならぬ。



らぬ。その形態は、例へば、具體的動機、個々の要求又は共同綱領に基づくその都度々々の労働者の共同行動、個々の企業、又は生産部門別の共同行動、地方的、州的、全国的、國際的規模における共同行動、労働者の經濟闘争の組織、失業者の利益の擁護、大衆的政治行動の實行に關しての共同行動、ファシスト攻撃に對する共同自己防衛の組織における共同行動、獄にあるものとその家族とへの救援事業における、又社會的、反動に對する闘争分野における共同行動、青年婦人の利益擁護に對しての共同行動、協同組合、文化スポーツの分野での共同行動、勤勞農民の要求の支持のための共同行動等々。労働者同盟、労働者、農民同盟の創設(スペイン)。「労働黨」又は「勞農黨」の形での長期聯合の形成(合衆國)等。

四 社會民主黨指導者が、労働者をしてその日常利害の擁護のための闘争を回避させ、統一戦線を破壊せんと試みて、誇大な「社會主義的」プラン(ドリマン・プランその他)を提出す場合には、權力がブルジョアジーの手中にある限り社會主義の實現が不可能なることを労働者に對して説明しつゝ、かやうなプランのデマゴギー的性質を暴露しなければならぬ。しかし同時にこれらのプランに掲げられた個々の方策の中で労働者の日常要求と結びつけらるゝものは、統一戦線による大衆闘争の展開のための出發點として、社會民主主義労働者と共に、利用しなければならぬ。

社會民主主義政府(又は社會主義者の参加せる聯立政府)が政權を握つてゐる國々では、かゝる政府の政策の宣傳的暴露のみに限ることなく、彼等がその實現を政綱で聲明した實際的、日常的階級的要求、特にかれらが政府を取るに到らず又は關係とならなかつた頃に掲げた要求の實現のための闘争に、廣汎な大衆を動員しなければならぬ。

大衆自體の事業として統一戦線運動を展開せんがために、共產主義者は、選挙されたる(ファシスト獨裁の國々においては——最も權威ある運動参加者から選抜されたる)

統一戦線黨外階級機關の創設を、企業に、失業者の間に、労働者住宅街に、小都市民衆の間に、農村に達成しなければならぬ。決して統一戦線参加諸組織に代つてはならない。それらの機關のみが、統一戦線の運動によつて労働者の巨大な

非組織大衆を把握し得るであらう、又資本の進攻反對・ファシズム反對の闘争における大衆のイニシアチヴの展開を、そしてこれに基いて統一戦線の廣汎な労働者積極分子の創設を、助長し得るであらう。

五 社會民主主義の黨及び組織との共同行動は、ブルジョアジーとの階級協調のイデオロギー・實踐としての改良主義・社會民主主義の批判と、社會民主主義労働者への共產主義の原則及び綱領の熱心な説明とを、排除しないばかりでなく、却つて、益々必要ならしめる。

統一戦線反對の右翼社會民主黨指導者のデマゴギー的議論の意味を大衆の面前で暴露しつゝ、社會民主主義の反動部分にする闘争を強めつゝ、共產主義者は、改良主義政策に對して闘つてをり、共產黨との統一戦線に左視してゐる左翼社會民主主義労働者と最も密接に協働しなければならぬ。ブルジョアジーとプロレタリアをなしてゐる、社會民主主義の反動的陣營に對する我々の闘争が強くなればなる程、社會民主主義の革命化されつゝある部分への我々の援助は益々有效となるであらう。共產主義者が社會民主黨との統一戦線のために斷手として戦へば戦ふ程左翼的陣營内部においても、その個々の分子の決意が固められるであらう。

統一戦線の實踐的實現に對する態係の問題は、種々なるグループの社會民主主義の眞實の立場の主要な表示者であらう。統一戦線の實踐的實現のための闘争において、口先では左翼の如く行動してゐる社會民主主義指導者は、かれらの中誰が本當にブルジョアジーと右翼社會民主主義者とに反對の闘争に向ひ、誰がブルジョアジーと共に——労働階級の事業に反對の闘争に進むかを、行動において明示しなければならぬやうな状態に置かれるであらう。

六 選挙カンパニアをプロレタリアートの闘争の統一戦線のヨリ一層の發展、鞏固のために利用すること。共產主義者は獨自的に選挙戦に乗り出し、大衆に共產黨のプログラムを示しつゝ、社會民主黨や労働組合(同じく勤勞農民や手工業者等の團體)と統一戦線を結び、反動的候補者やファシスト候補者の當選を防ぐべく、全力を盡さなければならぬ。



ファシヨの危険に直面し、統一戦線運動の成長と成功とに依存して、又現存の選挙体制に依存して、共産主義者は、政治的煽動及び批判の自由を保持しつゝ、反ファシスト戦線の共同綱領と共同名簿とを以て選挙戦に臨むことが出来る。

七 プロレタリアートの指導の下に、勤勞農民、都市小ブルジョアジー、被壓迫民族勤勞大衆の闘争を統一することに努めつゝ、共産主義者は、プロレタリア統一戦線に基づく廣汎な反ファシヨ人民戦線をうちたて、プロレタリアートの根本利害と軌を一にするこれらの勤勞者層の一切の特殊な要求のために戦はねばならぬ。特に基本的農民大衆を掠奪するファシヨ政策に對して勤勞農民を動員しなければならぬ。即ち、獨占資本とブルジョア政府との搾取的物價政策反對、租税、小作料、借金の堪へ難き重荷反對、農民財産の強制販賣反對、窮乏農民への國家的援助獲得の運動に動員しなければならぬ。到る所で都市小ブルジョアジー及びインテリゲンチヤ、勤勞者の中で活動しつゝ、かれらを租税の加重と、物價騰貴反對、獨占資本やトラストによる掠奪反對、利子奴隸制反對、官公吏の解職や減俸反對の運動に動員しなければならぬ。進歩的インテリゲンチヤの利益と權利とを擁護しつゝ、文化的反動に對する彼らの運動を極力支持し、反ファシズム闘争における労働階級側への移行を容易ならしめねばならぬ。

八 支配階級が既に大衆運動の強力な成長を處理し得ざる政治的危機の下では、共産主義者はブルジョアジーの經濟的・政治的權力を一層動搖せしめ、労働階級の力を擴大せしめ、協同的政黨を孤立せしめ、労働大衆をして權力の革命的把握に赴かしむることを目的とする根本的革命的スローガン（例へば生産、銀行の管理の警察の解散、その代りとして労働者民警の設置）もしも大衆運動のかゝる昂揚の下でプロレタリア獨裁政府ではないが、ファシズムと反動とに決定的方策の實行を自己の任務とする。プロレタリア統一戦線又は反ファシヨ人民戦線の政府の樹立が可能であり、且つプロレタリアートのために必要であるならば、共産黨はかやうな政府の樹立を獲得しなければならぬ。統一戦線政府樹立の本質的前提は次の如き状態である。

1. ブルジョア國家機關がひどく無力となり、従つてブルジョアジーがかゝる政府の樹立を妨害する能力なきこと。
  2. 廣汎な勤勞大衆がファシズムと反動とに向つて怒濤の如く攻撃するがなほまだソヴェート權力獲得闘争に迄騒起せんとする用意なきこと。
  3. 統一戦線に参加せる社會民主主義その他の黨の組織の大部分がすでに、ファシスト及びその他の反動家に對して容赦なき手段を要求し、共産主義者と共にこれらの手段の實行のために闘ふ用意あること。
- 統一戦線政府が實際に反革命的財閥とその手先たるファシストに對して斷乎たる方策を取り、且つ共産黨の活動と労働階級の闘争とを決して制肘しようとしないう限り、共産黨は極力かゝる政府を支持するであらう、しかして統一戦線政府への共産黨の参加は具體的情勢に依存して各個の場合に決定されるであらう。

### 三、労働組合運動の統一

本大會は、プロレタリアートの統一戦線鞏化における最重要段階として労働者の經濟闘争の分野における統一戦線の樹立及び労働組合運動の統一の樹立の有する特殊な重要性を強調しつゝ、産業的規模並に全國的規模における労働組合の統一實現に向つて一切の實際的手段を執る義務を、共産主義者に課する。

共産主義者は斷乎として、各國における及び國際的規模における労働組合の統一復活のために、資本とファシズムとの攻撃に對する労働階級の最も重要な保壁の一としての統一的階級的労働組合のために、各産業における統一労働組合のため各國における労働組合の統一的合同のために、産業別労働組合の統一的國際的合同のために、階級闘争に基ける労働組合の統一的インタナショナルのために闘ふ。

小規模の赤色労働組合が存する國々では、自己の見解の保持の自由と除名者の復歸とを要求しつゝ、大改良主義労働組合



への加盟を達成しなければならぬ。大なる赤色労働組合と改良主義的労働組合とが並存する國々では、——平等原理の上に資本の攻勢反對闘争及び組合デモクラシー確保の政綱に基いて、兩者合同を達成しなければならない。

改良主義的労働組合及び合同労働組合内においては、共産主義者は積極的に活動し、これらの組合を鞏固化し、その中に未組織労働者を吸収し、これらの組織が實際に労働者の利益を擁護し、實際に眞の階級的組織たるべく全力を傾注しなければならない。このためには共産主義者は、總ての組合員、役員及び組織全體の支持を獲得しなければならない。

共産主義者はブルジョアジーとファシズムとが労働組合の権利を制限し或は之を破壊せんとする一切の企圖から、労働組合を擁護しなければならない。

もしも改良主義的指導者が労働組合からの革命的労働者又は革命的組織全部の除名政策或はその壓迫手段を取るならば、共産主義者は指導部の分裂行動に對して全労働組合員大衆を動員し、同時に除名者と組合員大衆との聯絡を組織し、除名者の復歸のため破壊されたる労働組合統一の復活のための、共同闘争を組織しなければならない。

赤色労働組合とプロフィンテルンとは、あらゆる傾向の労働組合の共同闘争を樹立し、階級闘争と組合デモクラシーとに基いて、全國的及び國際的規模における組合運動の統一を達成せんとするにあたり、共産黨の側から全面的支持をうけなければならない。

#### 四、反ファシスト運動の各部門における共産主義者の任務

一 本大會は、體系的な反ファシズム・イデオロギー闘争の必要に深甚の注意を向ける。ファシスト・イデオロギーの主要な、最も險な形態がシヨウヴイニズムであることに鑑み、ファシスト・ブルジョアジーが全國民的利益擁護の口實の下に他國民の掠奪と隷屬化と同時に自國民の抑壓と搾取との貧慾な階級政策を行ひつゝあることを、大衆の面前に暴露しなければ

ならない。労働階級は、一切の負債勞役と民族的壓迫に對して闘ひつゝ、民族的自由と人民の獨立とを擁護する唯一の眞の闘士であることを示さなければならぬ。共産主義者は、勤勞大衆の面前にこれら自體の國民の過去を歴史的に正しく、眞のレーニン・スターリンの精神で以て説明するために、又自己の現在の闘争を過去の革命的傳統と結合するために、一切の手段を執り、人民の歴史のファシスト的偽造と極力闘はなければならない。本大會は民族獨立の問題及び廣汎な人民大衆の民族的感情に對する一切の輕視的態度が、ファシズムに對し、その排外愛國主義的カンパニアの展開を容易ならしめること（ザアール、チエツコスロヴァキアにおける獨逸人居住地方等）を警告し、且つレーニンのスターリンの民族政策の正しい具體的な適用を主張する。

共産主義者は、凡ゆる種類のブルジョア民族主義の非妥協的な原則的反對者であるが、決して民族的ニヒリズムの支持者、自國民の運命に對する冷淡な態度の支持者ではない。

二 共産主義者は、所與の國において合法性を獨占する一切の大衆的ファシスト的組織に加入しなければならない、そしてこれらの組織に加入してゐる大衆の利害をファシズムの政策に對置し、その大衆的地盤を崩壊せしむる爲に、これらの組織内における活動のたとひ極僅かな合法的、半合法的の可能性をも利用しなければならない。勤勞者の日常要求を中心とする最も初歩的な抗議運動から始めて、共産主義者は、屈伸性ある戰術を以て一層廣汎な大衆、特に無意識的にファシストに追隨してゐる労働者を運動にひき入れなければならない。運動が廣く深く進展するにつれて、ファシスト組織内に在る大衆自體の援助によつてファシスト・ブルジョア獨裁の爆破を準備しつゝ、闘争スローガンを變更しなければならない。

三 共産主義者は、失業者の利害と要求とを精力的且つ徹底的に擁護しつゝ、かれらを組織しつゝかれらを仕事受納のため、充分なる扶助料、保險その他のための闘争に導きつゝ、失業者を統一戦線の運動にひき入れ、かれらの間に存するファシズムの影響を極力驅逐しなければならない。此の際、失業者の種々なる範疇の特殊性（熟練労働者か不熟練労働者か、組



織労働者か未組織労働者か、男子か婦人か、青年か等）を、厳密に考慮しなければならぬ。

四 本大會は、資本主義諸國の全共産黨に對し、ファシズム反對闘争における青年の絶大な役割を強調する。主として青年の隊列の中から、ファシズムは、自己の突撃部隊を募集する。共産黨は、勤勞青年の間における大衆活動の重要性の過少評價と闘ひつゝ、共産青年同盟の閉鎖性克服のために有効な手段を執りつゝ、労働組合、協同組合等の青年部組織を含めて一切の非ファシスト的大衆的青年組織の勢力の統一を助成しなければならぬ。それはファシズム反對、青年の未曾有の無權利と軍國主義化反對、青年の經濟的・文化的利害擁護の闘争のための各種の一般的組織の樹立に到るまでの、廣汎な統一戦線に基いて行はれねばならぬ。階級闘争の政綱に基いて共産青年同盟と社會主義青年同盟との反ファシスト聯合樹立の任務を提起しなければならぬ。共産黨は共産青年同盟の發展並に鞏化を極力援助しなければならぬ。

五 數百萬の勤勞婦人大衆、特に婦人労働者と勤勞農婦を、その黨派の見解や宗教的信仰の如何に拘らず、統一人民戦線にひきつける緊急の必要性は、かれらの日常要求と利益擁護のための闘争の周圍に、特に物價騰貴、婦人の不平等地位、そのファシスト的隷屬化反對大衆解雇反對、「同一労働に對する同一賃銀」の原則に基く賃銀の値上げ、戦争の危険反對の闘争において、勤勞婦人の大衆運動を發展させるために強度積極性を、共産主義者に要求する。各國においても、國際的規模においても、意見と批判の自由とを留保しつゝ、革命的・社會民主主義的及び進歩的婦人團體との接觸及び共同活動の樹立のために、極めて多様な組織形態を臨機應變に採用すべきであり、必要な場合には個別的な婦人團體の樹立をも躊躇してはならない。

六 共産主義者は、プロレタリアートの統一戦線及び反ファシスト人民戦線の隊列に協同組合組織をひき入れるために闘争しなければならぬ。

共産主義者の側からは、協同組合員の日常利益のための組合の闘争、特に物價騰貴反對、信用獲得、掠奪的關稅と新たな

租稅反對、ファシストによる協同組合の活動制限及び解散反對の闘争において、最も積極的な援助が與へられなければならぬ。

七 共産主義者はイニシアチヴを取つて、統一戦線運動の鍛え上げられた、試練を経たる分子を以て、ファシスト暴徒の襲撃反對の大衆的、反ファシスト自己防衛團を創設しなければならない。

### 五、植民地諸國における反帝國主義人民戦線

植民地並に半植民地國における共産主義者の最も重要な任務は反帝國主義人民戦線樹立の活動である。これがために増大し行く帝國主義的搾取に抗し、殘虐なる隷屬に抗し、帝國主義者を放逐し、國を獨立させるための民族解放運動に、廣く一般大衆を動員しなければならぬ。民族改良主義者によつて率ゐられる大衆的、反帝國主義運動に参加し、具體的な反帝國主義政綱を基礎として民族革命的並に民族改良主義的諸組織と共同行動を取らなければならぬ。

支那においては、ソヴェート運動の擴大及び紅軍の戦闘力の強化と全國における人民反帝運動の展開とを、結合しなければならぬ。この運動は帝國主義的征服者、特に日本帝國主義及支那の親日派に反抗する武装人民の民族革命闘争のローガンの下に行はるべきである。ソヴェートは解放闘争における全中國人民の團結中心とならねばならぬ。

帝國主義諸國のプロレタリアートは、自己の解放闘争のために、帝國主義者に對する植民地・半植民地人民の解放闘争を全力を擧げて支持すべきである。

共産黨の鞏化と労働階級の政治的統一獲得闘争。本大會は、共産黨自體のより一層の全面的鞏化、共産黨のイニシアチヴの發展、その原則的なマルクス・レーニンの政策、及び、具體的状態と階級勢力の配置とを考慮する正しい、屈伸性ある戦術のみが、反ファシズム、反資本主義の統一的闘争への廣汎な勤勞大衆動員を確保しうることを、特に強調する。



統一戦線の眞の實現は、共産主義者に對し、現在は幾多の場合既に共産主義運動の「小兒病ではなくて根本的缺陷となつたところの、自己自身の隊列内の自己満足的宗派主義の克服を要求する。この宗派主義は、大衆の革命化の程度を過重評價し、ファシスト運動が成長を続けてゐるにも拘らず、もはやファシズムの進展を阻害し得たと幻想することによつて、事實上ファシズムに對する消極性を培つたのである。實踐において大衆指導方法を狭い黨グループ指導の方法に代へ、大衆政策を抽象的宣傳と左翼的空論に代へ、改良主義的労働組合やファシストの大衆組織の中での活動を抛棄し、戦術やスローガンを各國一様ならしめ、各國の具體的情勢の特殊性を考慮することなく、——この宗派主義は共産黨の成長を著しく遅らせ眞の大衆政策の遂行を困難ならしめ、革命運動革命化のために階級敵の困難を利用するといふことを妨げ、廣汎なるプロレタリア大衆を共産黨の側に獲得する事業を阻止した。

共産主義者は、共産黨の眞に大衆的な、ボリシエヴィキ的な政策を實行するに當つて現在非常に重大な障害物となつてゐるセクト主義の一切の殘滓を根絶するために一生懸命に戦ひつゝ、右翼日和見主義の危険に對して自己の警戒を強め、統一戦線戦術の廣汎な適用に當つて右翼的危険が増大するであらうといふことを念頭に置きつゝ、その一切の具體的あらはれに對して斷乎たる闘争を行はなければならない。統一戦線、労働階級の行動統一の樹立のための闘争は、社會民主主義労働者をして共産主義政策が正しくて改良主義政策が正しくないことをはつきりと信じさせることを要求し、各國共産黨をして、共産主義者と改良主義との間の原則的差異の抹殺とか、ブルジョアジーとの階級的協調のイデオロギー及び實踐としての社會民主主義の批判の緩和とかのあらゆる傾向に反對の、また社會主義の實現は平和的合法的に可能であるといふ幻想に反對の、ファシズム絶滅事業においても統一戦線施行においても自動主義と自然成長性に頼らんとする一切の態度に反對の、黨の役割の低下に反對の、決定的行動の時機における如何に最小の動搖にも反對の、非妥協的闘争に向ふことを義務づける。プロレタリアートの階級闘争の利害とプロレタリア革命の成功とは各國に労働階級の單一の大衆的政黨が存在する必要あ

ことを命ずるに鑑み、本大會は、社會民主黨又はその個々の組織と共産黨との合同への労働者の増大しゆく氣運に頼りつつ、この合同工作においてイニシアチヴを自己の手に握るべき任務を、各國共産黨に課する。その際に、かゝる合同は次の一聯の條件が存在してのみ可能であることを、労働者に説明しなければならない。即ち、ブルジョアからの完全な獨立及びブルジョアジーと社會民主主義とのプロツクの完全な切斷を條件として。行動の統一の豫備的實現を條件として。ブルジョア、の支配の革命的打倒及びソヴェートの形態におけるプロレタリアート獨裁の樹立の必要の承認を條件として。帝國主義戦争において自國ブルジョアジーを支持することの拒否を條件として。意志と行動との統一を確保する、ロシアのボリシエヴィキーの經驗において試験済みの、民主主義的中央集權主義に基ける黨の建設を條件として。

これと同時に、共産主義運動に双向ひかくて労働階級内部に分裂を深めるところの、新たな社會黨と新たな「インタナショナル」の創設に對する、社會民主主義労働者の間での幻滅を利用せんとする「左翼」社會民主主義デマゴグの試みに斷乎として反對しなければならない。

コミンテルン第七回大會は、行動の統一がプロレタリアートの政治的統一の成立にとつても眞の必要物であり最も正しい道であることに鑑み、コミンテルン全支部の名において、資本、ファシズムの進攻と帝國主義戦争の脅威とに對する労働階級の行動の統一樹立について、第二インタナショナルの夫々の黨と即時協商を始める用意あること、又この目的で第二インタナショナルと協商に入る用意あることを聲明する。

## 六、ソヴェート權力のために！

ファシズムに對する勤勞者のブルジョア民主主義的自由と既得權との擁護のための闘争において、ファシスト獨裁打倒のための闘争において、革命的プロレタリアートは、自己の力を準備し、自己の同盟者との戰闘的聯繫を鞏め、勤勞者の眞の



デモクラシーたるソヴェート権力獲得を目指して闘争を行なふ。

ソヴェート國家のヨリ一層の鞏化、その周囲への世界プロレタリアートの結集とソ聯邦の共産黨の國際的權威の強力な増大、社會民主派労働者と改良主義労働組合に組織された労働者の革命的階級闘争の側への始まりつゝある轉向、ファシズムへの大衆的抗争の増大と植民地における革命運動の成長、第二インタナショナルの凋落とコミンテルンの成長——すべてこれは世界社會主義革命の發展を促進しつゝあるし又促進するであらう。

資本主義世界は、資本主義の内的矛盾の激化の結果、激しい衝突の時期に移る。

革命的發展のこの展望へのコースを取りつゝ、コミンテルン第七回大會は、最大の政治的積極性と勇敢とに向つて、労働階級の行動の統一の樹立のための撓まぬ闘争に向つて夫々共産黨に呼びかける。労働階級の統一戦線の設定——これがプロレタリア革命の第二の嵐において來らんとする大戦闘への労働者の準備の決定的環である。統一的大衆的政黨へのプロレタリアートの結束のみが、ファシズム及び資本の権力反對、プロレタリアート獨裁及びソヴェート権力獲得の闘争においてプロレタリアートの勝利を保證するであらう。「革命の勝利は決してそれ自體でやつて來るものではない。それは準備し闘ひ取らなければならぬ。而して準備し闘ひ取ることは強力なプロレタリア的革命的黨のみが能く之をなしうる」(スターリン)。

33. 5. 13

446911

昭和十三年七月二日印刷  
昭和十三年七月五日發行

編輯兼 大連市桃源臺八十六番地  
發行人 山 岸 守 永

印刷人 大連市東公園町三十一番地  
吾 妻 力 松

印刷所 大連市東公園町三十一番地  
滿洲日日新聞社印刷所

發行所 南滿洲鐵道株式會社



工下 - 14



